

DHS

全國統一

模擬試題

29

齒科衛生士

2

DHS

午前問題					午後問題						
No.	解答	出題基準	科目	No.	解答	出題基準	科目	No.	解答	出題基準	科目
1	d	1	解剖学	56	c d	6	小児歯科学	1	d	2	解剖学
2	c	1	解剖学	57	d	6	小児歯科学	2	c	1	解剖学
3	b	2	解剖学	58	c	6	小児歯科学	3	a	2	解剖学
4	c	2	解剖学	59	c d	6	高齢者・障害者	4	b	2	生化学
5	b	2	生化学	60	c	6	高齢者・障害者	5	a	1	生化学
6	d	1	生化学	61	c	6	高齢者・障害者	6	d	1	生理学
7	d	1	生理学	62	a	6	高齢者・障害者	7	c	2	生理学
8	c	2	生理学	63	b d	7	歯科予防処置	8	c	3	病理学
9	b	3	病理学	64	a c	7	歯科予防処置	9	a	3	病理学
10	b	3	病理学	65	c d	7	歯科予防処置	10	b	3	病理学
11	a	3	微生物学	66	a d	7	歯科予防処置	11	c	3	微生物学
12	b	3	微生物学	67	a c	7	歯科予防処置	12	c	3	微生物学
13	a	3	微生物学	68	c	7	歯科予防処置	13	d	3	薬理学
14	d	3	薬理学	69	b c	7	歯科予防処置	14	b	3	薬理学
15	a	3	薬理学	70	a	7	歯科予防処置	15	c	3	薬理学
16	c	4	口腔衛生学	71	b	7	歯科予防処置	16	c	4	口腔衛生学
17	a	4	口腔衛生学	72	b	7	歯科予防処置	17	b	4	口腔衛生学
18	b	4	口腔衛生学	73	a d	7	歯科予防処置	18	c	4	口腔衛生学
19	b d	4	口腔衛生学	74	c	7	歯科予防処置	19	b	4	口腔衛生学
20	b	4	口腔衛生学	75	a c	7	歯科予防処置	20	b d	4	口腔衛生学
21	a	4	口腔衛生学	76	b c	7	歯科予防処置	21	b	4	口腔衛生学
22	d	4	口腔衛生学	77	a c	7	歯科予防処置	22	d	4	口腔衛生学
23	a	4	衛生・公衆衛生学	78	c	8	歯科保健指導	23	b	4	口腔衛生学
24	a	4	衛生・公衆衛生学	79	a b	8	歯科保健指導	24	d	4	衛生・公衆衛生学
25	a b	4	衛生・公衆衛生学	80	d	8	歯科保健指導	25	d	4	衛生・公衆衛生学
26	d	4	衛生・公衆衛生学	81	a b	8	歯科保健指導	26	a d	4	衛生・公衆衛生学
27	a	4	衛生・公衆衛生学	82	a	8	歯科保健指導	27	a b	4	衛生・公衆衛生学
28	a	4	衛生・公衆衛生学	83	a	8	歯科保健指導	28	d	4	衛生・公衆衛生学
29	a	4	衛生・公衆衛生学	84	d	8	歯科保健指導	29	c d	4	衛生・公衆衛生学
30	a	4	衛生・公衆衛生学	85	c	8	歯科保健指導	30	c d	4	衛生・公衆衛生学
31	c	5	歯科衛生士概論	86	a	8	歯科保健指導	31	c	5	歯科衛生士概論
32	d	5	歯科衛生士概論	87	d	8	歯科保健指導	32	a	5	歯科衛生士概論
33	b c	5	歯科衛生士概論	88	a d	8	歯科保健指導	33	c	5	歯科衛生士概論
34	a	5	歯科衛生士概論	89	d	8	歯科保健指導	34	a	6	臨床歯科総論
35	a b	6	臨床歯科総論	90	c	8	歯科保健指導	35	d	6	臨床歯科総論
36	d	6	臨床歯科総論	91	a	8	歯科保健指導	36	a	6	臨床歯科総論
37	a d	6	臨床歯科総論	92	b c	8	歯科保健指導	37	b	6	臨床歯科総論
38	b	6	保存修復学	93	a	8	歯科保健指導	38	b d	6	保存修復学
39	c	6	保存修復学	94	b	8	歯科保健指導	39	a	6	保存修復学
40	b c	6	保存修復学	95	b	8	歯科保健指導	40	a c	6	保存修復学
41	d	6	歯内療法学	96	b	9	歯科診療補助	41	c	6	歯内療法学
42	a c	6	歯内療法学	97	b	9	歯科診療補助	42	a c	6	歯内療法学
43	c	6	歯周療法学	98	c	9	歯科診療補助	43	c	6	歯周療法学
44	d	6	歯周療法学	99	c	9	歯科診療補助	44	a b	6	歯周療法学
45	b	6	歯周療法学	100	a d	9	歯科診療補助	45	b d	6	歯科補綴学
46	c	6	歯科補綴学	101	b	9	歯科診療補助	46	c	6	歯科補綴学
47	b c	6	歯科補綴学	102	a d	9	歯科診療補助	47	c d	6	歯科補綴学
48	b d	6	歯科補綴学	103	b d	9	歯科診療補助	48	b	6	歯科補綴学
49	b	6	口腔外科学	104	b d	9	歯科診療補助	49	a	6	口腔外科学
50	a	6	口腔外科学	105	a d	9	歯科診療補助	50	d	6	口腔外科学
51	d	6	口腔外科学	106	c d	9	歯科診療補助	51	a	6	口腔外科学
52	b	6	口腔外科学	107	d	9	歯科診療補助	52	a d	6	矯正歯科学
53	b c	6	矯正歯科学	108	d	9	歯科診療補助	53	a d	6	矯正歯科学
54	a d	6	矯正歯科学	109	a c	9	歯科診療補助	54	d	6	矯正歯科学
55	c	6	矯正歯科学	110	a d	9	歯科診療補助	55	d	6	矯正歯科学

- ※出題基準
- 1 人体(歯・口腔を除く。)の構造と機能
 - 2 歯・口腔の構造と機能
 - 3 疾病の成り立ち及び回復過程の促進
 - 4 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み
 - 5 歯科衛生士概論
 - 6 臨床歯科医学
 - 7 歯科予防処置論
 - 8 歯科保健指導論
 - 9 歯科診療補助論

解説 (午前問題)

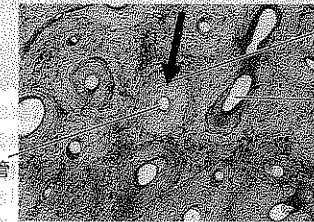
(問題 1) 骨の水平断の顕微鏡写真(別冊午前 No.1)を別に示す。

- 矢印が示すのはどれか。
- a 介在層板
 - b 内基礎層板
 - c 外基礎層板
 - d ハバース層板

別冊 午前 No.1 写真

選択肢考察

答え d



- × a ハバース層板の間にある不規則な層板を介在層板という。
- × b 内基礎層板は骨の内面、すなわち骨髓腔の周りを平行に走る層板系で、海綿質の骨梁に続いている。
- × c 外基礎層板は骨膜に沿って平行に走る層板系で、骨膜からも栄養を補給している。
- d 血管を入れる管のうち縦方向の管をハバース管といい、横方向の管をフォルクマン管という。ハバース管を中心に骨が同心円状に取り巻いており、直径200μmの円柱状の層板をハバース層板という。

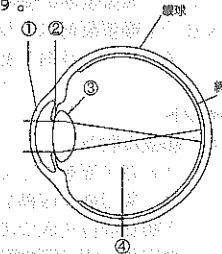
ポイント

- <骨組織の解剖>
- 骨の長軸方向に走行する血管系をハバース管という。
 - ハバース管と交差して横方向に走行する血管系をフォルクマン管という。

(問題 2) 眼球の模式図を示す。

水晶体はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④



選択肢考察

答え c

- × a ①は角膜である。
- × b ②は虹彩である。
- c ③は水晶体である。
- × d ④は硝子体である。

ポイント

<眼球の構造>

水晶体	カメラでの凸レンズの役割。厚さは約4mm前後、直径は約9mm。無色透明。
硝子体	水晶体の後方にあり、内腔を埋める透明なゼリー状の組織。タンパク質(コラーゲン)で構成されている。

(問題 3) 下顎骨の写真(別冊午前 No.2)を別に示す。

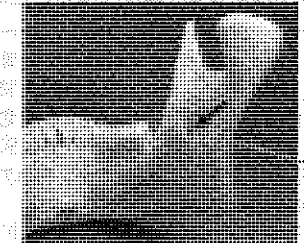
矢印の孔を通過するのはどれか。

- a 鼓索神経
- b 下歯槽神経
- c オトガイ神経
- d 顎舌骨筋神経

別冊 午前 No.2 写真

選択肢考察

答え b



- × a 鼓索神経は顔面神経の枝で、下顎骨内を走行しない。
- b 矢印は下顎孔である。下歯槽神経は下顎孔を通過して、下顎管に入り、オトガイ孔から出ていく。
- × c 下歯槽神経はオトガイ孔から出て、オトガイ神経になる。
- × d 顎舌骨筋神経は下顎骨の顎舌骨神経溝を通過する。

ポイント

<末梢神経>

神経	涙腺神経、前頭神経、滑車上神経、眼窩上神経、鼻毛様体神経
三叉神経	<ul style="list-style-type: none"> 上顎神経: 頬骨神経、眼窩下神経、頬骨神経、翼突管神経、翼口蓋神経、鼻口蓋神経、大口蓋神経、小口蓋神経、後・中・前上歯槽神経 下顎神経: 咬筋神経、内側翼突管神経、外側翼突管神経、深側頭神経、頬神経、耳側頭神経、舌神経、下歯槽神経、オトガイ神経、顎舌骨筋神経
顔面神経	大顔体神経、アブミ骨筋神経、鼓索神経、後耳介神経、頬筋枝、二腹筋枝、茎突舌骨筋枝
舌咽神経	鼓索神経、小錐体神経

(問題 4) 歯小囊から形成されるのはどれか。

- a 歯 髄
- b 象牙質
- c 固有歯槽骨
- d エナメル質

選択肢考察

答え c

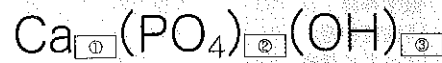
- × a、× b 歯髄、象牙質は歯乳頭から形成される。
- c 歯根膜、セメント質、固有歯槽骨は歯小嚢から形成される。
- × d エナメル質はエナメル器から形成される。

ポイント

<歯胚の構成要素とその形成物>

歯胚の構成要素	形成物
エナメル器	エナメル質
歯乳頭	象牙質・歯髄
歯小嚢	セメント質・歯根膜・固有歯槽骨

(問題 5) ヒドロキシアパタイトの化学式を示す。



□ に該当する組合せで正しいのはどれか。

- | | | |
|------|----|----|
| ① | ② | ③ |
| a 10 | 2 | 6 |
| b 10 | 6 | 2 |
| c 6 | 2 | 10 |
| d 6 | 10 | 2 |

選択肢考察

答え b

× a、○ b、× c、× d
 ヒドロキシアパタイトの化学式は $Ca_{10}(PO_4)_6(OH)_2$ である。ヒドロキシアパタイトは歯や骨にみられる成分である。インプラント体の材料としても用いられる。

ポイント

<化学式>

- ・ヒドロキシアパタイト： $Ca_{10}(PO_4)_6(OH)_2$
- ・フルオロアパタイト： $Ca_{10}(PO_4)_6F_2$

(問題 6) 血中カルシウム濃度を上昇させるのはどれか。

- a グルカゴン
- b インスリン
- c カルシトニン
- d 活性型ビタミンD₃

選択肢考察

答え d

× a グルカゴンは血糖値を上昇させる。
 × b インスリンは血糖値を低下させる。
 × c カルシトニンは甲状腺から分泌されるホルモンの1つで、血中カルシウム濃度を低下させる。
 ○ d 活性型ビタミンD₃は上皮小体ホルモンと同様に、血中カルシウム濃度を上昇させる。

ポイント

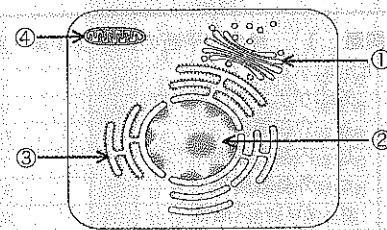
<血中カルシウム濃度の調節機構>

	血中カルシウム濃度
パラソルモン (上皮小体ホルモン)	上昇
カルシトニン	低下
活性型ビタミンD ₃	上昇

(問題 7) 細胞の模式図を示す。

ATPを産生するのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④



選択肢考察

答え d

× a ①はゴルジ装置である。粗面小胞体で生成された物質を加工、濃縮する。
 × b ②は核である。細胞の構造と機能の遺伝情報源である。
 × c ③は粗面小胞体である。リボソームが付着しており、tRNAの遺伝情報にしたがってタンパク質を合成する場である。
 ○ d ④はミトコンドリアである。生体エネルギー源であるATP (アデノシン三リン酸) を産生する。

ポイント

<ミトコンドリア>

- ・細胞呼吸の場であり、生体エネルギー源であるATP (アデノシン三リン酸) を産生する。
- ・クエン酸回路と電子伝達系が存在する。

(問題 8) 下顎張反射で正しいのはどれか。

- a 屈曲反射である。
- b 閉口筋が抑制される。
- c 筋紡錘が受容器である。
- d 多シナプス反射である。

選択肢考察

答え c

× a 下顎張反射は伸張反射の1つで、開口反射が屈曲反射である。
 × b 一過性に閉口筋が伸張されると、閉口筋が収縮して閉口する反射が下顎張反射である。一方、閉口筋の抑制と開口筋の収縮が起こるのは、開口反射である。
 ○ c 下顎張反射の受容器は筋紡錘である。
 × d 下顎張反射は単シナプス反射である。開口反射は多シナプス反射である。

ポイント

<下顎張反射>

- ・オトガイ部をたたくと一過性に急に閉口筋が伸張され、閉口筋が収縮して閉口する反射である。
- ・下顎安静位を保つのに重要である。
- ・受容器は閉口筋の筋紡錘である。(自己受容反射)
- ・単シナプス反射である。
- ・膝蓋腱反射と同じく伸張反射の1つである。

(問題 9) 口腔内写真(別冊午前No.3)を別に示す。

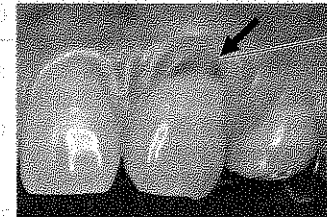
矢印で示す歯質欠損で正しいのはどれか。

- a 梅毒が原因で生じる。
- b 過度の咬合圧によって生じる。
- c エナメル質に限局して生じる。
- d 酸の曝露による職業性歯科疾患である。

別冊 午前 No.3 写真

選択肢考察

答え b



歯頸部の歯質がくさび状に破壊されている

- × a 梅毒が原因で生じるのはハッチソンソンの歯で、前歯の切縁に半月状欠損がみられる。
- b 写真が示すのはアブフラクションである。過度の咬合圧で歯頸部の歯質が楔状に破壊される現象のことである。
- × c エナメル質や象牙質に生じる。
- × d 酸の曝露による職業性歯科疾患とは酸蝕症のことである。

ポイント

<アブフラクション>

- ・過度の咬合圧で歯頸部の歯質が楔状に破壊される現象のこと。
- ・生活歯の場合、知覚過敏症を伴うことがある。

(問題 10) 侵襲性歯周炎の特徴として正しいのはどれか。

- a 高齢者に多くみられる。
- b 垂直性骨吸収がみられる。
- c 好発部位は第一小臼歯である。
- d グラム陽性桿菌が原因である。

選択肢考察

答え b

× a 若年者に多くみられる。
 ○ b 急激な垂直性骨吸収が認められる。
 × c 初期には上下顎切歯と第一大臼歯に限局的に発症する。
 × d グラム陰性桿菌(アグリガチバクター・アクチノミセテムコミタンスやボルフィロモナス・ジンジバリス)がプラークや歯周ポケット内に検出される。

ポイント

<侵襲性歯周炎の特徴>

- ①思春期から25歳までに発症する。
- ②急激な歯槽骨の垂直性吸収が特徴である。
- ③組織破壊の進行が速い。
- ④プラークコントロールは良好ことが多い。
- ⑤組織破壊量と比較して歯石沈着量が少ない。
- ⑥初期には上下顎切歯と第一大臼歯に限局的に発症する。
- ⑦時間が経過すると全顎に歯周ポケットの形成と歯槽骨吸収が認められる。

- ⑧グラム陰性桿菌(アグリガチバクター・アクチノミセテムコミタンスやボルフィロモナス・ジンジバリス)との関連がある。
- ⑨家族内集積がみられる。

(問題 11) 真核生物はどれか。

- a 原虫
- b 細菌
- c リケッチア
- d マイコプラズマ

選択肢考察

答え a

- a 原虫、真菌は真核生物である。
- × b、× c、× d 細菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマは原核生物である。

ポイント

<原核生物と真核生物>

原核生物	細菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ
真核生物	原虫、真菌

(問題 12) IgGで正しいのはどれか。

- a 5量体である。
- b 胎盤を通過する。
- c 唾液や母乳に含まれる。
- d I型アレルギーに関係する。

選択肢考察

答え b

- × a 血清型のIgAは単量体、分泌型のIgAは2量体である。5量体を形成するのはIgMである。
- b 胎盤を通過する免疫グロブリンはIgGである。
- × c IgAには、血清型と分泌型の2種類が存在する。唾液や母乳などに含まれる。
- × d I型アレルギーに関係する免疫グロブリンはIgEである。

ポイント

<抗体>

IgG	血清抗体の主体。胎盤通過性がある(移行抗体)。
IgM	抗原刺激後すぐに産生される(初期抗体)。5量体を形成する。
IgA	血清型と分泌型がある。唾液や母乳などに含まれる。粘膜の感染防御に重要である。
IgE	I型アレルギーに関与する。肥満細胞や好塩基球に結合する。
IgD	リンパ球の表面に存在。詳細は不明。

(問題 13) 妊娠性歯肉炎と関連するのはどれか。

- a *Prevotella intermedia*
- b *Actinomyces naeslundii*
- c *Fusobacterium nucleatum*
- d *Streptococcus salivarius*

選択肢考察

答え a

- a *Prevotella intermedia* は妊娠性歯肉炎の原因菌である。
- × b *Actinomyces naeslundii* は放線菌の1つである。
- × c *Fusobacterium nucleatum* は急性壊死性潰瘍性歯肉炎の原因菌である。
- × d *Streptococcus salivarius* は舌表面の最優勢菌種である。

ポイント

<妊娠性歯肉炎>

原因	妊娠中は性ホルモンの変化により歯肉が炎症を生じやすい状態になっており、口腔清掃が不良場合に生じる。
原因菌	<i>Prevotella intermedia</i>
症状	歯肉は充血し、輝紅色から暗赤色となる。辺縁歯肉や歯間乳頭が浮腫性腫脹し、易出血性。妊娠性エプーリス(乳頭部のいちご状増殖)がときとして生じる。口腔清掃により軽快し、分娩すると軽快する。
治療	歯口清掃、歯石除去。観血的処置は行わない。

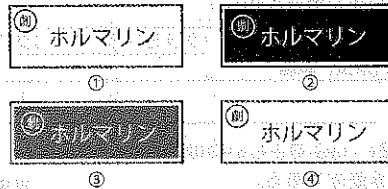
(問題 14) 劇薬の表示(別冊午前 No.4)を別に示す。正しいのはどれか。

- a ① b ② c ③ d ④

別冊 午前 No.4 図

選択肢考察

答え d



× a、× b、× c、○ d

劇薬は、白地に赤枠、赤字で薬品名と「劇」を表示することが「薬機法」で規定されている。

ポイント

<毒薬>

黒地に白枠、白字で薬品名と「毒」を表示し、鍵のかかる場所に保管するように「薬機法」で規定されている。

(問題 15) 血管壁を強化する薬物はどれか。

- a ビタミンC
- b ビタミンK
- c フルファリン
- d アドレナリン

選択肢考察

答え a

- a ビタミンC(アスコルビン酸)は毛細血管強化薬である。
- × b ビタミンKは血液凝固促進薬である。
- × c フルファリンは抗凝固薬である。
- × d アドレナリンは血管収縮薬である。

ポイント

<毛細血管強化薬>

ビタミンC(アスコルビン酸)、カルバゾクロム、アドレノクロムなど。

(問題 16) 抗菌作用を有する酵素はどれか。

- a リパーゼ
- b アミラーゼ
- c リゾチーム
- d ディフェンシン

選択肢考察

答え c

- × a リパーゼは脂質分解酵素である。
- × b アミラーゼはデンプン分解酵素である。
- c リゾチームは酵素性抗菌因子である。
- × d ディフェンシンは抗菌作用を有するが、酵素ではない。

ポイント

<唾液に含まれる酵素性抗菌因子>

- ・リゾチーム
- ・ペルオキシダーゼ

(問題 17) ペリクルで正しいのはどれか。

- a 歯垢形成の起点となる。
- b 頬粘膜の感染を防止する。
- c 厚さは約100μmである。
- d 形成に24時間程度を要する。

選択肢考察

答え a

- a ペリクルは歯垢形成の起点となる。
- × b ペリクルは歯の表面に形成される被膜である。
- × c ペリクルの厚さは約0.3~1.0μmである。
- × d ペリクルは唾液に触れた瞬間に形成される。

ポイント

<ペリクルの特徴>

- ・口腔内で歯の表面に形成される薄い膜状の沈着物である。
- ・厚さは約0.3~1.0μmである。
- ・おもに唾液の糖タンパク質に由来する有機成分からなる。
- ・細胞や細菌を含まず、構造形態をもたない。

(問題 18) ミュータンスレンサ球菌が合成する不溶性多糖体の基質はどれか。

- a グルコース
- b スクロース
- c マルトース
- d フルクトース

選択肢考察

答え b

- × a グルコースは不溶性多糖体(グルカン)の構成単糖である。
- b スクロースはミュータンスレンサ球菌が合成する不溶性多糖体の基質である。
- × c マルトースはグルコースとグルコースからなる二糖類である。
- × d フルクトースはスクロースの構成単糖である。

ポイント

<不溶性多糖体(グルカン)>

- ・基質:スクロース
- ・構成単糖:グルコース
- ・合成酵素:グルコシルトランスフェラーゼ
- ・分解酵素:ムタナーゼ

(問題 19) 振動させるブラッシング法はどれか。2つ選べ。

- a 垂直法
- b パス法
- c フォーンズ法
- d チャーターズ法

選択肢考察

答え b d

- × a 垂直法は歯軸方向に上下運動させるブラッシング法である。
- b パス法は歯ブラシの毛先を用いる方法で、振動させるブラッシング法である。
- × c フォーンズ法は唇側側面では描円運動、舌側側面では前後運動させるブラッシング法である。
- d チャーターズ法は歯ブラシの脇腹を用いる方法で、振動させるブラッシング法である。

ポイント

<振動させるブラッシング法>

- ・パス法
- ・スクラッピング法
- ・スティールマン法
- ・チャーターズ法

(問題 20) 口臭官能試験前における検査者の禁止事項はどれか。

- a 洗口
- b 喫煙
- c 舌苔除去
- d ブラッシング

選択肢考察

答え b

- × a、× c、× d 洗口や喫煙、舌苔除去、ブラッシングは被検者の検査当日の禁止事項である。
- b 喫煙は口臭官能試験前における検査者の禁止事項である。

ポイント

<口臭官能試験前における被検者の禁止事項(検査当日)>

- ・飲食の禁止
- ・歯口清掃の禁止
- ・禁煙(12時間前より)
- ・洗口の禁止
- ・口中清涼剤の禁止

(問題 21) 1歳6か月児歯科健康診査で歯の汚れの診査部位として規定されているのはどれか。

- a 上顎4前歯唇面
- b 上下顎8前歯唇面
- c 上顎全歯唇(頬)面
- d 上下顎全歯唇(頬)面

選択肢考察

答え a

- a、× b、× c 1歳6か月児歯科健康診査で歯の汚れの診査部位は上顎4前歯唇面である。
- × d 3歳児歯科健康診査で歯の汚れの診査部位は上下顎全歯唇(頬)面である。

ポイント

<1歳6か月児歯科健康診査(歯の汚れ)>

上顎4前歯唇面を診査し、ないときは「きれい」に、歯面の1/3以下のときは「少ない」に、それ以上のときは「多い」に○を付ける。最も多い部分の状態を記入する。

(問題 22) 労働安全衛生法に基づき、常時従事する労働者に対し、歯科医師による健康診断が義務付けられているのはどれか。

- a 除染等業務
- b 管理区域に立ち入る放射線業務
- c 屋内作業場等における有機溶剤業務
- d 塩酸のガスを発散する場所における業務

選択肢考察

答え d

- × a、× b、× c、○ d 「労働安全衛生法」に基づき、常時従事する労働者に対し、歯科医師による健康診断が義務付けられているのは、塩酸のガスを発散する場所における業務である。

ポイント

<特殊健康診断の対象者>

塩酸、硝酸、硫酸、亜硫酸、フッ化水素、黄リン、その他歯またはその支持組織に有害なもののガス、蒸気または粉じんを発散する場所における業務に常時従事する労働者である。

(問題 23) 施設と根拠となる法律の組合せで正しいのはどれか。

- a 地域医療支援センター——医療法
- b 地域包括支援センター——地域保健法
- c 発達障害者支援センター——障害者総合支援法
- d 母子健康包括支援センター——健康増進法

選択肢考察

答え a

- a 地域医療支援センターは「医療法」により設置される。
- × b 地域包括支援センターは「介護保険法」により設置される。
- × c 発達障害者支援センターは「発達障害者支援法」により設置される。
- × d 母子健康包括支援センターは「母子保健法」により設置される。

ポイント

地域医療支援センターは、医師、歯科医師、薬剤師、看護師そのほかの医療従事者の確保に関する事項などを業務としている施設である。

(問題 24) 健康日本21(第二次)の目標はどれか。

- a 健康格差の縮小
- b 平均寿命の延伸
- c 再興感染症の予防
- d 職業性疾患の減少

選択肢考察

答え a

- a 健康日本21(第二次)の目標の1つは健康格差の縮小である。
- × b 健康日本21(第二次)の目標の1つは健康寿命の延伸である。
- × c × d 健康日本21(第二次)の目標の1つは非感染性疾患の予防である。

ポイント

<健康日本21(第二次)の目標>

- ・健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- ・生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底(NCDの予防)
- ・社会生活を営むために必要な機能の維持および向上
- ・健康を支え、守るための社会環境の整備
- ・喫煙および歯、口腔の健康に関する生活習慣および社会環境の整備

(問題 25) 学校歯科保健における保健調査で適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 歯・口腔に関する現状を把握する。
- b 健康診断の前に行うことが望ましい。
- c 調査項目は全国的に統一されている。
- d 保健室の利用状況に関する調査である。

選択肢考察 答え a b

- a 保健習慣や自覚症状などを事前に調査することで現状を把握する。
- b 保健調査の目的は「健康診断の的確かつ円滑な実施」である。
- × c 調査項目は統一されていない。
- × d 保健室の利用状況に関する調査ではない。

ポイント

<学校歯科保健における保健調査>

- ・健康診断を的確かつ円滑に実施するために、保健調査を活用する。
- ・あらかじめ子供の健康情報を得ておき、健康状態を総合的に評価すること。

(問題 26) 後期高齢者医療制度における自己負担割合を決定するために必要な情報はどれか。

- a 居住地
- b 家族構成
- c 要介護度
- d 前年の所得

選択肢考察 答え d

- × a × b × c 居住地や家族構成、要介護度は後期高齢者医療制度における自己負担割合を決定するために必要な情報ではない。
- d 後期高齢者医療制度における自己負担割合は、現役並み所得者は3割、そのほかは1割負担のため、前年の所得の情報が必要となる。

ポイント

後期高齢者医療制度は「高齢者の医療の確保に関する法律」に規定されている。

(問題 27) 平成28年歯科疾患実態調査で前回調査(平成23年)と比較して減少したのはどれか。

- a 25~34歳の1人平均DMF歯数
- b 40~44歳で喪失歯のない者の割合
- c 55~64歳で4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合
- d 60~64歳で20本以上の歯を有する者の割合

選択肢考察 答え a

- a 25~34歳の1人平均DMF歯数は減少している。
- × b 40~44歳で喪失歯のない者の割合は増加している。
- × c 55~64歳で4mm以上の歯周ポケットを有する者の割合は増加している。
- × d 60~64歳で20本以上の歯を有する者の割合は増加している。

ポイント

<平成28年歯科疾患実態調査の1人平均DMF歯数の結果>

5歳以上15歳未満の1人平均DMF歯数(DMFT指数)は、近年著明な減少傾向を示していた。15歳以上においてDMFT指数を過去の調査と比較すると、若年者において減少がみられるだけでなく、35歳以上の各年齢階級においても緩やかに減少する傾向にあった。

(問題 28) ある歯磨剤のう蝕予防効果を疫学研究により検討することとした。適切な研究方法はどれか。

- a 介入疫学研究
- b 患者対照研究
- c 記述疫学研究
- d コホート研究

選択肢考察 答え a

- a 介入疫学によって設定された仮説を実験的に直接証明する研究である。一般にヒトを対象とするときを介入研究とよんでいる。
- × b すでに疾病などに罹患している群としていない群を設定し、それらの過去における容疑因子への曝露状況を調べて比較分析する方法である。
- × c 対象集団における疾病異常などの健康関連事象について、その頻度や分布をあるがままに記述し、発生要因などに関する仮説を設定する研究である。
- × d 容疑因子への曝露群と非曝露群の疾病の発生状況などを比較する追跡調査である。

ポイント

介入研究は、研究者が調査対象者に人為的に要因を与える。→ 要因を与える群(実験群)と与えない群(対照群)を設定して比較試験として行われる。

(問題 29) 生活保護法で、原則として現物給付とされているのはどれか。

- a 介護扶助
- b 教育扶助
- c 住宅扶助
- d 出産扶助

選択肢考察 答え a

- a 介護扶助は原則として現物給付である。
- × b × c × d これらは原則として現金給付(所得保障)である。

ポイント

<「生活保護法」の現物給付>

- ・医療扶助
- ・介護扶助

(問題 30) 介護保険制度における第2号被保険者の年齢区分はどれか。

- a 40歳以上65歳未満
- b 65歳以上75歳未満
- c 65歳以上
- d 75歳以上

選択肢考察 答え a

- a 介護保険制度における第2号被保険者の年齢区分である。
- × b 後期高齢者医療制度の被保険者(前期高齢者)の年齢区分である。
- × c 介護保険制度における第1号被保険者の年齢区分である。
- × d 後期高齢者医療制度の被保険者(後期高齢者)の年齢区分である。

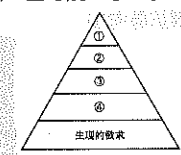
ポイント

<介護保険制度に被保険者の年齢区分>

- ・第1号: 65歳以上
- ・第2号: 40歳以上65歳未満

(問題 31) マズローの欲求5段階説の図を別に示す。

- ①に該当するのはどれか。
- a 安全の欲求
- b 承認の欲求
- c 自己実現の欲求
- d 所属と愛情の欲求



選択肢考察 答え c

- × a × b ○ c × d
- ①は自己実現の欲求である。ちなみに②は承認の欲求、③は所属と愛情の欲求、④は安全の欲求である。

ポイント

<マズローの欲求5段階説>

- ①自己実現の欲求
- ②承認の欲求
- ③所属と愛情の欲求

- ④安全の欲求
- ⑤生理的欲求

(問題 32) 患者の知人から患者の病名を教えて欲しいとの依頼があったが、歯科衛生士が断った。

- この根拠となるのはどれか。
- a 刑法
- b 医療法
- c 歯科医師法
- d 歯科衛生士法

選択肢考察 答え d

- × a × b × c 医師、歯科医師、薬剤師の守秘義務は刑法(第134条)に定められている。
- d 歯科衛生士の守秘義務は歯科衛生士法(第13条)に定められている。

ポイント

<守秘義務>

- ・医師、歯科医師、薬剤師: 刑法
- ・歯科衛生士: 歯科衛生士法
- ・歯科技工士: 歯科技工士法

(問題 33) 歯科衛生士の業務独占はどれか。2つ選べ。

- a 歯科保健指導
- b 小窩裂溝填塞
- c フッ化物歯面塗布
- d エックス線写真撮影

選択肢考察 答え b c

- × a 歯科保健指導は名称独占である。
- b ○ c 歯科診療の補助(仮封、仮封の除去、貼薬、裏装、マトリックスの装着・除去、予防填塞、充填物の研磨、結紮線の除去など)、フッ化物歯面塗布、予防的歯石除去、予防的薬物塗布(フッ化ジアンミン銀など)は業務独占である。
- × d エックス線の照射は歯科医師が行う。

ポイント

<歯科衛生士業務>

名称独占	歯科保健指導
業務独占	①歯科診療の補助 仮封、仮封の除去、貼薬、裏装、マトリックスの装着・除去、予防填塞、充填物の研磨、結紮線の除去 ②フッ化物歯面塗布 ③予防的歯石除去 ④予防的薬物塗布(フッ化ジアンミン銀など)

(問題 34) スタンダード・プレコーションで感染性物質として扱わないのはどれか。

- a 汗
- b 涙
- c 唾液
- d 血液

選択肢考察 答え a

- × a 汗は湿性生体物質として扱わない。
- b ○ c ○ d 涙、唾液、血液はすべて湿性生体物質として扱う。

ポイント

<スタンダード・プレコーション (標準予防策)>
 ・患者の血液・体液や患者から分泌排泄される尿・痰・便・膿などのすべての湿性物質 (汗は除く) は何らかの病原体を含んでいる可能性があることを前提とした感染予防策。
 ・グローブ、マスク、エプロンなどの着用が基本
 → すべての患者に適用される

(問題 35) 歯肉歯槽粘膜境の確認に用いるのはどれか。2つ選べ。
 a ヨード製剤
 b 歯周プローブ
 c ポケットマーカ
 d マイクロスコープ

選択肢考察 答え a b
 ○ a ヨードチンキなどのヨード製剤で粘膜を染色すると、付着歯肉はヨードに不染であり、歯槽粘膜はヨードに染色されるため、その境界である歯肉歯槽粘膜境が確認できる。
 ○ b 歯周プローブで可動性がある歯槽粘膜を歯冠側へ押し上げると、非可動性の付着歯肉の境界である歯肉歯槽粘膜境が確認できる。
 × c ポケットマーカはポケット底の位置を印記するために用いる。
 × d マイクロスコープは歯の破折や根管の位置などの確認に用いる。

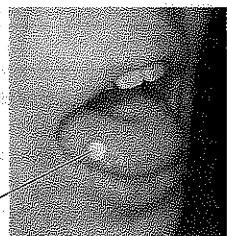
ポイント

<歯肉歯槽粘膜境の確認法>
 ・ヨード製剤による染色：歯槽粘膜を染色して確認する
 ・歯周プローブによる可動性：歯槽粘膜を押し上げて確認する

(問題 36) ある検査時の写真 (別冊午前 No.5) を別に示す。
 行っているのはどれか。
 a 官能検査
 b パッチテスト
 c サクソンテスト
 d 濾紙ディスク法

別冊 午前 No.5 写真

選択肢考察 答え d



濾紙ディスク

× a 官能検査は口臭検査であり、患者の口腔内のおいを直接かく検査である。
 × b パッチテストは金属アレルギーの検査であり、腕や背中で行う。
 × c サクソンテストは唾液分泌量の測定法であり、ガ

ーゼを2分間噛んで行う。
 ○ d 舌に濾紙ディスクが貼付されており、味覚検査としての濾紙ディスク法を行っている。

ポイント

<味覚検査>
 ・電気味覚検査
 ・濾紙ディスク法

(問題 37) 腎機能の低下によって高値を示すのはどれか。2つ選べ。
 a 血中尿素窒素
 b 血清アルブミン
 c 血清総タンパク
 d 血中クレアチニン

選択肢考察 答え a d
 ○ a、○ d 腎機能の低下が生じると、尿素窒素やクレアチニンが尿中に排泄されなくなるため、血中尿素窒素や血中クレアチニンは高値を示す。
 × b、× c 腎機能の低下が生じると、アルブミンなどのタンパク質が尿中に排泄されてしまうため、血清アルブミンや血清総タンパクは低値を示す。

ポイント

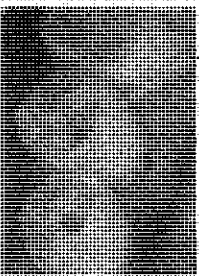
<腎機能の検査>
 ・高値を示すもの：血中尿素窒素や血中クレアチニン
 ・低値を示すもの：血清アルブミンや血清総タンパク

(問題 38) 31歳の女性。臼歯部咬合面の舌感不良を主訴として来院した。5年前からある飲料を習慣的に摂取しているとのことで、舌感不良への関与が疑われた。初診時の口腔内写真 (別冊午前 No.6) を別に示す。
 疑われる飲料はどれか。

- a 牛乳
- b 黒酢
- c 豆乳
- d 緑茶

別冊 午前 No.6 写真

選択肢考察 答え b



咬合面のエナメル質が欠損しており、酸蝕症と考えられる

× a、× c、× d 牛乳や豆乳、緑茶の pH はエナメル質の臨界 pH よりも高く、写真で示すような酸蝕症が生じるとは考えられない。
 ○ b 黒酢の pH はエナメル質の臨界 pH よりも低く、健康増進のために黒酢を習慣的に摂取している患者は、エナメル質の脱灰・溶解により酸蝕症が生じる。酸蝕症に強い咬合接触が加わると欠損が進行しやすい。

ポイント

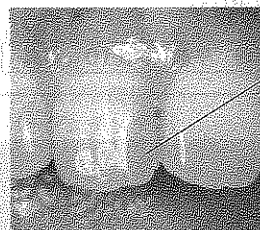
<酸蝕症>
 黒酢やワイン、ヨーラなどの炭酸飲料といった、エナメル質の臨界 pH よりも低い pH を示す酸性食品を習慣的に摂取すると酸蝕症の原因となる。また、拒食症による習慣性嘔吐によっても胃酸による酸蝕症を発症する。

(問題 39) 45歳の女性。上顎右側中切歯の審美不良を主訴として来院した。15年前にコンポジットレジン修復を受けたという。初診時の口腔内写真 (別冊午前 No.7) を別に示す。
 適切な処置はどれか。

- a ホームブリーチ
- b ラミネートベニア修復
- c コンポジットレジン修復
- d グラスアイオノマーセメント修復

別冊 午前 No.7 写真

選択肢考察 答え c



コンポジットレジンの変色

× a ホームブリーチは生活歯の変色に用いる。本症例は修復物の変色であり、適切ではない。
 × b ラミネートベニア修復は唇側面を全部被覆する処置であり、歯質の削除量が多い。本症例は近心隅角を含む隣接面修復であり、ほかに優先される処置がある。
 ○ c コンポジットレジン修復は審美性、接着性などに優れ、前歯部の近心隅角を含む隣接面修復に適している。
 × d グラスアイオノマーセメントはコンポジットレジンと比較して機械的強度が低く、前歯部切縁や臼歯部咬合面など強い咬合力が加わる部位には適していない。

ポイント

<コンポジットレジンによる補修修復>
 コンポジットレジン表層の変色や修復物辺縁の二次う蝕などの症例で内部に明らかな問題がない場合は、修復物をすべて除去せず、変色部分やう蝕部分のみ除去してコンポジットレジンで修復することがある。これを補修修復という。

(問題 40) ホームブリーチに用いるのはどれか。2つ選べ。
 a ラバーダム
 b 過酸化尿素
 c カスタムトレー
 d 過ホウ酸ナトリウム

選択肢考察

答え b c

× a ホームブリーチは歯科医院ではなく、患者自身が自宅などで行うものであり、ラバーダムは使用しない。
 ○ b ホームブリーチには過酸化尿素などが用いられる。
 ○ c ホームブリーチでは、薬剤を適用するためのカスタムトレーが用いられる。
 × d 過ホウ酸ナトリウムはウォーキングブリーチに用いられる。

ポイント

<ホームブリーチ>
 ・患者自身が過酸化尿素などの漂白剤をカスタムトレーを用いて適用するものである。歯の表面から漂白剤を応用するものであり、生活歯の漂白に用いられる。

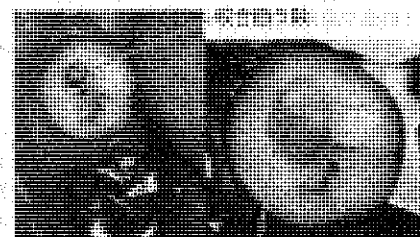
(問題 41) 24歳の女性。下顎右側第三大臼歯の一過性冷水痛を主訴として来院した。コンポジットレジン修復を行うこととし、う蝕除去を行った。初診時の口腔内写真及び軟化象牙質除去後の口腔内写真 (別冊午前 No.8) を別に示す。コンポジットレジン修復前に水酸化カルシウム製剤を用いることとした。

水酸化カルシウム製剤の目的で考えられるのはどれか。

- a 歯髄の鎮痛
- b 軟化象牙質の再石灰化
- c レジンの歯質接着性向上
- d デンティンブリッジの形成

別冊 午前 No.8 写真

選択肢考察 答え d



軟化象牙質除去後に形成されたデンティンブリッジ

× a 水酸化カルシウム製剤に歯髄の鎮痛作用はない。
 × b 軟化象牙質の再石灰化を目的として水酸化カルシウム製剤を用いることはあるが、本症例ではすでに軟化象牙質が除去されている。
 × c 水酸化カルシウム製剤にレジンの歯質接着性向上作用はない。
 ○ d 軟化象牙質除去後に点状露髄がみられるため、水酸化カルシウム製剤は直接覆髄を行うために用いたと考えられる。したがって、水酸化カルシウム製剤の使用目的はデンティンブリッジの形成と考えられる。

ポイント

<直接覆髄に用いる材料>
 ・MTAセメント
 ・水酸化カルシウム製剤

(問題 42) アペキシフィケーションに用いるのはどれか。2つ選べ。

- a レンツロ
- b スプレッター
- c 水酸化カルシウム製剤
- d ガッタパーチャポイント

選択肢考察 答え a c

○ a、○ c アペキシフィケーションでは、レンツロなどで水酸化カルシウム製剤を根管内に貼薬する。
 × b、× d スプレッターやガッタパーチャポイントは側方加圧根管充填に用いる。アペキシフィケーションには用いない。

ポイント

<アペキシフィケーション>
 無髄の根末完成歯に対して水酸化カルシウム製剤を長期根管貼薬する(暫間根管充填ともいう)ことで、根尖部の閉鎖を期待する処置である。

(問題 43) 壊死性潰瘍性歯肉炎の特徴はどれか。

- a 歯の動揺
- b 歯肉の退縮
- c 歯肉の接触痛
- d 歯槽骨の吸収

選択肢考察 答え c

- × a 壊死性潰瘍性歯肉炎では歯の動揺はみられない。
- × b 壊死性潰瘍性歯肉炎では歯肉の退縮はみられない。
- c 壊死性潰瘍性歯肉炎では歯肉の壊死や潰瘍が生じ、自発痛や歯肉の接触痛などがみられる。
- × d 壊死性潰瘍性歯肉炎では歯槽骨の吸収はみられない。

ポイント

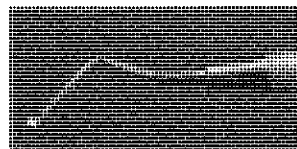
<壊死性歯周疾患>
 歯肉の壊死や潰瘍を特徴とする疾患で、壊死性潰瘍性歯肉炎や壊死性潰瘍性歯周炎がある。両者の違いは歯槽骨吸収やアタッチメントロスの有無である。

(問題 44) 52歳の女性。下顎左側臼歯部の動揺を主訴として来院した。慢性歯周炎と診断し、歯周基本治療後、下顎左側第一大臼歯にフラップ手術を行うこととした。術中に使用した器具の写真(別冊午前 No.9)を別に示す。この器具の使用目的はどれか。

- a 歯肉の切開
- b 根面の滑沢化
- c 歯槽骨の整形
- d 不良肉芽組織の除去

別冊 午前 No.9 写真

選択肢考察 答え d



- × a 歯肉の切開はメスが用いられる。
- × b 根面の滑沢化はスケーラーが用いられる。
- × c 歯槽骨の整形は骨ヤスリ(ボーンファイル)や骨ノミ(ボーンチゼル)などが用いられる。
- d 写真の器具は鋭匙である。不良肉芽組織の除去を目的として用いられる。

ポイント

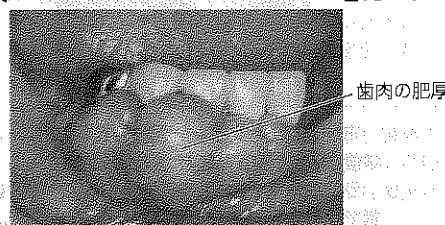
<鋭匙>
 不良肉芽組織の除去を目的として、フラップ手術などの歯周外科治療や外科的歯内療法、抜歯などの際に用いられる。

(問題 45) 59歳の女性。歯肉の腫脹を主訴として来院した。10年前から高血圧症で通院しており薬剤を服用中であるという。初診時の口腔内写真(別冊午前 No.10)を別に示す。

- 常用薬として考えられるのはどれか。
- a ジアゼパム
 - b ニフェジピン
 - c フェニトイン
 - d シクロスポリン

別冊 午前 No.10 写真

選択肢考察 答え b



- × a ジアゼパムは鎮静作用のあるベンゾジアゼピンである。歯肉腫脹に関連しない。
- b ニフェジピンは高血圧症に用いるカルシウム拮抗薬である。副作用として歯肉腫脹が生じるため、ニフェジピンが常用薬であると考えられる。
- × c フェニトインは歯肉腫脹に関連するが抗てんかん薬である。高血圧症による通院歴と直接関連がない。
- × d シクロスポリンは歯肉腫脹に関連するが免疫抑制薬である。高血圧症による通院歴と直接関連がない。

ポイント

<歯肉腫脹と関連する薬物>
 ・フェニトイン：抗てんかん薬
 ・カルシウム拮抗薬：降圧薬、抗狭心症薬
 ・シクロスポリン：免疫抑制薬

(問題 46) 義歯性線維症について正しいのはどれか。

- a 悪性腫瘍の一つである。
- b 唾液腺マッサージで改善する。
- c 補綴前処置として粘膜調整を行う。
- d プラークコントロールの不良が原因で生じる。

選択肢考察 答え c

- × a 悪性腫瘍ではない。

- × b 唾液腺マッサージは口腔乾燥の予防とともに、口腔機能の向上の訓練法の一つであるが、義歯性線維症が改善することはない。
- c 顎堤粘膜に疼痛や潰瘍がある場合、新義歯製作にあたり、前処置として粘膜調整を行うことがある。
- × d プラークコントロールの不良は義歯性口内炎の原因である。義歯性線維症の原因は不適切な義歯床縁による慢性刺激である。

ポイント

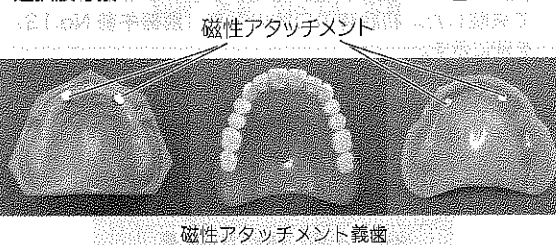
<義歯性線維症>
 ①義歯床縁の慢性刺激が原因で生じる。
 ②義歯床縁の調整を行うが、義歯調整では消失しない。
 ③上顎前歯部に多い。
 ④線維性結合組織からなり、限局性に生じる。
 ⑤悪性腫瘍ではない。
 ⑥義歯を新製する場合、前処置として粘膜調整を行うことがある。

(問題 47) 患者説明用の義歯の写真(別冊午前 No.11)を別に示す。

- この義歯に該当するのはどれか。2つ選べ。
- a クラスプ義歯
 - b アタッチメント義歯
 - c オーバーデンチャー
 - d ノンメタルクラスプデンチャー

別冊 午前 No.11 写真

選択肢考察 答え b c



- × a 写真からクラスプは認められない。
- b 支台歯を形成して設置される固定部と、義歯床に設置される可撤部の組み合わせにより、支台歯と義歯を連結する支台装置で構成された義歯である。写真は磁力を利用した磁性アタッチメントである。
- c オーバーデンチャーとは残存歯の上に装着される義歯をいう。残存歯に対しては根面板、根面アタッチメント、磁性アタッチメントが装着されることが多い。
- × d ノンメタルクラスプデンチャーとは、弾力性に富む高分子材料(ポリエステル系やナイロン系)を用いた義歯で、支台歯を義歯床翼で把持する設計になっている。

ポイント

<オーバーデンチャーの特徴>
 ・オーバーデンチャーとは残存歯の上に装着される義歯をいう。
 ・残存歯に対しては根面板や根面アタッチメントが装着されることが多い。

- a 歯槽骨が保存される(=顎堤吸収が防止できる)。
- b 歯根膜感覚を利用できる。
- c プラークコントロールは不良になりやすい。

(問題 48) サベイヤーの使用目的で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 水平的顎間関係の記録
- b 部分床義歯の着脱方向の決定
- c 頭蓋骨に対する上顎の位置関係の記録
- d ブリッジ製作時における支台歯間の平行性の確認

選択肢考察 答え b d

- × a 咬合採得時における水平的顎間関係の記録に用いるのは、ゴシックアーチトレーサーである。
- b、○ d サベイヤーは、部分床義歯の着脱方向の決定やブリッジ製作時における支台歯間の平行性の確認に用いられる平行測定装置である。
- × c 頭蓋あるいは顎関節に対する上顎歯列(人工歯列を含む)の3次元的位置関係を咬合器上で再現するために用いるのは、フェイスボウである。

ポイント

<サベイヤー>
 ・義歯およびブリッジの設計や技工操作に用いられる平行測定装置。
 ・専用付属品として、アナライジングロッド、カーボンマーカ、アンダーカットゲージなどがある。

(問題 49) 我が国での唇顎口蓋裂の発生率で正しいのはどれか。

- a 約1/100
- b 約1/500
- c 約1/1,000
- d 約1/5,000

選択肢考察 答え b

- × a、○ b、× c、× d
 ・唇顎口蓋裂は遺伝的要因と環境的因子が相互に絡み合う遺伝である。我が国では500人に1人の割合で発症する。唇顎口蓋裂は男性に多い。片側性が両側性より多い。左右比では左のほうが多い。

ポイント

<唇顎口蓋裂による障害>
 ①上顎の歯列不正
 ②吸啜障害
 ③食物摂取障害
 ④発音障害(鼻咽腔閉鎖機能不全)
 ⑤上顎劣成長による反対咬合
 ⑥咬合異常

(問題 50) 一次的止血法はどれか。

- a 指圧止血法
- b 血管結紮法
- c 創縁縫合法
- d 電気凝固法

選択肢考察 答え a

- a 圧迫止血法、指圧止血法、栓塞止血法(タンポン法)は一次止血法である。
- × b、× c、× d 血管結紮法、創縁縫合法、電気凝固法は永久止血法である。

ポイント
 <永久止血法>

結紮法	血管を止血鉗子で把持して、その両端を結紮する。
縫合法	粘膜、皮膚の切創部、抜歯創を縫合する。
捻転法	血管鉗子で血管断端を捻転して挫滅させる。
圧坐法	止血鉗子で10分以上挟んでおく。
電気凝固法(焼灼法)	電気メスで止血部を焼灼、凝固止血させる。
止血薬による方法	血管強化薬、凝固促進薬、抗線溶薬、血液製剤、局所止血薬

- (問題 51) 36歳の女性。下顎右側の歯肉の腫瘍を主訴として来院した。エックス線写真では異常所見は認められなかった。初診時の口腔内写真(別冊午前 No.12)を別に示す。
- この疾患について正しいのはどれか。
- a 自発痛を伴う。
 - b 前癌病変である。
 - c 転移することがある。
 - d 腫瘍類似疾患である。

別冊 午前 No.12 写真

選択肢考察 答え d

歯肉に限局して増殖した腫瘍→エプーリスと考えられる



- × a エックス線写真では異常所見は認められず、歯肉に限局して増殖した腫瘍であることから、エプーリスと考えられる。エプーリスでは疼痛は生じない。
- × b、× c エプーリスは悪性腫瘍ではないので転移することはない。癌化とも無関係である。
- d 歯肉に限局して生じる増殖性腫瘍の総称で、腫瘍類似疾患に分類される。

ポイント
 <エプーリス>

- ①歯肉に限局して生じる増殖性腫瘍である。
- ②上顎前歯部は好発部位である。
- ③20~40歳の女性に多い。

- (問題 52) 26歳の女性。下顎左側智歯抜去のため水平位で浸潤麻酔を行ったところ、めまい、脱力感を訴えた。顔面蒼白、冷汗を認め、血圧72/51mmHg、脈拍数52回/分であった。
- 適切な対応はどれか。
- a 起座位にする。
 - b 下肢を挙上する。
 - c AEDによる除細動を行う。
 - d ニトログリセリンを舌下投与する。

選択肢考察 答え b

- × a、○ b 浸潤麻酔後にめまい、脱力感、顔面蒼白、冷汗、血圧低下(72/51mmHg)、徐脈(52回/分)を認めることから血管迷走神経反射(神経性ショック)が起きたと考えられる。身体を水平位にして、下肢を挙上する。
- × c 意識が消失し、心室細動を検出した際は、AEDを使用してカウンターショックを行う。
- × d 狭心症発作が認められた場合は、ニトログリセリンを舌下投与する。

ポイント
 <ショックの処置>

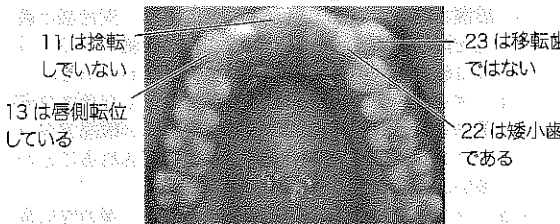
- ①身体を水平位にして下肢を高くする。
- ②着衣をゆるめる。
- ③脈拍を測定する。
- ④やさしく話しかけて安心感を与える。
- ⑤深呼吸をすすめる。

- (問題 53) 24歳の女性。歯並びが悪いことを主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊午前 No.13)を別に示す。
- 歯の異常で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 11 捻転歯
- b 13 転位歯
- c 22 矮小歯
- d 23 移転歯

別冊 午前 No.13 写真

選択肢考察 答え bc



- × a 11は捻転しているようにはみえない。
- b 13は唇側に転位している。
- c 22は矮小歯である。
- × d 移転は隣接する歯と位置を交換している状態であり、23は移転歯ではない。

ポイント
 <矮小歯>

歯冠の大きさが正常より小さいものを矮小歯といい、側切歯に好発する。円錐状や栓状を呈する。

- (問題 54) 矯正装置と矯正力の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。
- a ヘッドギア 間欠的矯正力
 - b 急速拡大装置 持続的矯正力
 - c コイルスプリング 断続的矯正力
 - d エラスティックチェーン 持続的矯正力

選択肢考察 答え ad

- a ヘッドギアは間欠的な矯正力である。
- × b 急速拡大装置は断続的な矯正力である。
- × c コイルスプリングは持続的な矯正力である。
- d エラスティックチェーンは持続的な矯正力である。

ポイント
 <矯正力の作用様式>

- ・ 持続的矯正力：矯正力の減少が比較的緩やかで、力がある程度持続するもの
- ・ 断続的矯正力：強い矯正力を発揮するが、作用距離が短く、わずかな歯の移動で矯正力が0になるもの
- ・ 間欠的矯正力：一定時間だけ矯正力が作用するもの

- (問題 55) 矯正装置が装着された患者の口腔内写真(別冊午前 No.14)を別に示す。
- この装置はどれか。

- a リンガルアーチ
- b クワドヘリックス
- c トランスパラタルアーチ
- d ナンスのホールディングアーチ

別冊 午前 No.14 写真

選択肢考察 答え c



トランスパラタルアーチ

- × a リンガルアーチはアーチが歯の舌側歯頸部に沿って存在する。
- × b クワドヘリックスはワイヤーに4つのらせんが存在する。
- c 写真を見ると、左右の上顎第一大臼歯を連結するようにアーチが口蓋を横切っているため、この装置はトランスパラタルアーチである。
- × d ナンスのホールディングアーチは口蓋にレジンボタンが存在する。

ポイント
 <トランスパラタルアーチ>

大白歯の挺出防止や捻転の改善、加强固定などに用いる装置である。

- (問題 56) 発育期の分類とその特徴の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 新生児期 乳歯の萌出開始
 - b 乳児期 基本的運動の獲得
 - c 幼児期 自我の芽生え
 - d 思春期 第二次性徴

選択肢考察 答え cd

- × a 新生児期に乳歯の萌出開始はみられず、乳児期に萌出開始する。
- × b 乳児期はまだ歩行も開始しない。幼児期には走るなどの基本的運動が獲得できる。
- c 自我の芽生えは3歳頃、つまり幼児期に生じる。
- d 思春期では第二次性徴が発現する。

ポイント
 <反抗期>

- ・ 第一次反抗期(自我の芽生え)：幼児期
- ・ 第二次反抗期：思春期

- (問題 57) 下顎乳臼歯に出現するのはどれか。

- a 介在結節
- b 中心結節
- c カラベリー結節
- d プロトスタイリッド

選択肢考察 答え d

- × a 介在結節は、上顎第一小臼歯の近心辺縁隆線に好発する結節である。
- × b 中心結節は、小臼歯の咬合面に好発する結節である。
- × c カラベリー結節は、上顎の第二乳臼歯や第一大臼歯の近心舌側咬頭の舌側面に好発する結節である。
- d プロトスタイリッドは、下顎の第二乳臼歯や第一大臼歯の近心頬側咬頭の頬側面に好発する結節である。

ポイント
 <乳臼歯に出現する異常結節>

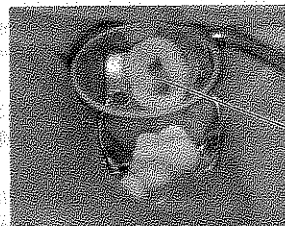
- ・ カラベリー結節
- ・ プロトスタイリッド

- (問題 58) 5歳の女児。下顎左側第二乳臼歯部の疼痛を主訴として来院した。一部性歯髄炎と診断し、ある処置を行うこととした。処置中の口腔内写真(別冊午前 No.15)を別に示す。
- 使用するものはどれか。

- a ホルムアルデヒド
- b フェノールカンフル
- c 水酸化カルシウム製剤
- d ガッターチャポイント

別冊 午前 No.15 写真

選択肢考察 答え c



断髄処置が行われている

- × a ホルムアルデヒドは失活剤であるが、乳歯には使用しない。
- × b フェノールカンフルは歯髄鎮痛消炎療法に用いる。
- c 乳歯の一部性歯髄炎には生活断髄が適応されるが、歯髄切断面に水酸化カルシウム製剤を用いる。
- × d ガッタパーチャポイント永久歯の根管充填に使用する。

ポイント

<乳歯の歯髄炎・根尖性歯周炎に対する処置>

- ・一部性歯髄炎：生活断髄
- ・全部性歯髄炎：抜髄
- ・根尖性歯周炎：感染根管治療

なお、歯の保存が困難な場合には抜歯の適応となる。

〔問題 59〕 誤嚥性肺炎のリスクファクターはどれか。2つ選べ。

- a 気道閉塞
- b 高血圧症
- c 脳血管障害
- d 胃食道逆流症

選択肢考察

答え c d

- × a 気道閉塞は窒息の原因であるが、気道閉塞により誤嚥しにくいいため、誤嚥性肺炎のリスクファクターとは考えにくい。
- × b 高血圧症は誤嚥性肺炎のリスクファクターではない。
- c 脳血管障害は嚥下障害の機能的原因のため、誤嚥性肺炎のリスクファクターとなる。
- d 胃食道逆流症は胃の内容物が逆流することにより生じる食道の炎症性疾患であり、誤嚥性肺炎のリスクファクターとなる。

ポイント

誤嚥性肺炎の原因は口腔・咽頭部の常在菌と考えられているため、誤嚥性肺炎の予防として口腔ケアが重要となる。

〔問題 60〕 機能的自立度評価表 (FIM) の評価項目はどれか。

- a 嚥下
- b 買物
- c 整容
- d 服薬

選択肢考察

答え c

- × a 機能的自立度評価表 (FIM) では嚥下は評価しない。
- × b、× d 買物や服薬は Instrumental Activity of Daily Living (IADL：手段的日常生活動作) の評価項目である。

- c 整容は機能的自立度評価表 (FIM) の評価項目である。

ポイント

<機能的自立度評価表 (FIM) >

運動 ADL 13 項目と認知 ADL 5 項目から構成されており、各項目は 7 段階評価で 126 点満点の尺度である。

〔問題 61〕 脳血管疾患による脳神経障害はどれか。

- a 失声
- b 抑うつ
- c 嚥下障害
- d 注意障害

選択肢考察

答え c

- × a 失声はストレスや精神的障害などによる心因性原因から声を発することができなくなった状態である。
- × b 抑うつなどの情動障害は精神状態の障害である。
- c 嚥下障害は脳血管疾患による脳神経障害である。
- × d 注意障害は脳血管疾患による高次脳機能障害である。

ポイント

<脳血管疾患による脳神経障害>

- ・視野障害、視力障害
- ・構音障害
- ・摂食障害、嚥下障害 など

〔問題 62〕 Down 症候群児に多くみられる口腔症状はどれか。

- a 開咬
- b 小舌症
- c 上顎過成長
- d 小帯付着異常

選択肢考察

答え a

- a、× b Down 症候群は巨舌症のため、開咬を伴うことが多い。
- × c 上顎骨の劣成長による反対咬合がみられる。
- × d Down 症候群と小帯付着異常は相関がない。

ポイント

<Down 症候群の口腔症状>

- ・高口蓋
- ・溝状舌、巨舌症
- ・上顎骨劣成長

〔問題 63〕 通常のブラッシングで除去できるのはどれか。2つ選べ。

- a ステイン
- b ブラーク
- c ペリクル
- d マテリアアルバ

選択肢考察

答え b d

- × a ステインは色素沈着であり、通常のブラッシングでは除去できない。研磨用ブラシやスクレーパーなどで除去できる。

- b ブラークは通常のブラッシングで除去できる。
- × c ペリクルは獲得被膜とも呼ばれる。通常のブラッシングでは除去できないが、研磨用ブラシなどを使用すると除去できる。
- d マテリアアルバは通常のブラッシングや洗口で除去できる。

ポイント

<歯ブラシで除去できるもの>

- ・ブラーク
- ・食物残渣
- ・マテリアアルバ

〔問題 64〕 う蝕のリスクファクターで宿主因子はどれか。2つ選べ。

- a 歯列不正
- b 間食回数の増加
- c 唾液分泌量低下
- d 代用甘味料の使用

選択肢考察

答え a c

- a 歯列不正はう蝕のリスクを増加させる宿主因子である。
- × b 間食回数の増加はう蝕のリスクを増加させるが、食事因子である。
- c 唾液分泌量低下はう蝕のリスクを増加させる宿主因子である。
- × d 代用甘味料の使用はう蝕になりにくい。

ポイント

<う蝕のリスクファクター>

- ・細菌
- ・宿主
- ・時間
- ・発酵性糖質

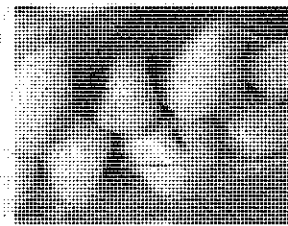
〔問題 65〕 口腔内写真 (別冊午前 No.16) を別に示す。観察できるのはどれか。2つ選べ。

- a フェストウーン
- b ステップリング
- c アタッチメントロス
- d ブラックトライアングル

別冊 午前 No.16 写真

選択肢考察

答え c d



歯肉が退縮して歯根が露出している

乳頭歯肉が退縮してブラックトライアングルが観察される

- × a フェストウーンは観察できない。
- × b ステップリングは観察できない。
- c 歯根が露出しており、アタッチメントロスがあると判断できる。

- d 乳頭歯肉が退縮しており、ブラックトライアングルが観察できる。

ポイント

<フェストウーン>

辺縁歯肉のロール状肥厚 (リング状隆起)

〔問題 66〕 臼歯頰側歯根面の歯肉縁下歯石の有無を判断するのに有効なのはどれか。2つ選べ。

- a プローブ
- b デンタルフロス
- c エックス線画像
- d エキスプローラー

選択肢考察

答え a d

- a、○ d 歯肉縁下歯石の有無の判断は、プローブやエキスプローラーによる触診が有効である。
- × b デンタルフロスは隣接面部の触診や清掃などに用いる。臼歯頰側歯根面の歯肉縁下歯石の有無の判断には有効といえない。
- × c エックス線画像は、唇・頰側や舌側・口蓋側の歯面に付着した歯石の判断に有効とはいえない。

ポイント

<エックス線画像で確認すること>

- ・根分岐部病変の有無
- ・近遠心面の歯石の位置や量
- ・歯根膜腔の拡大や歯槽骨吸収の有無 など

〔問題 67〕 ある検査に用いる器具の写真 (別冊午前 No.17) を示す。

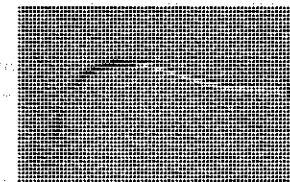
使用する部位はどれか。2つ選べ。

- a 16 近心側
- b 27 口蓋側
- c 37 頰側
- d 46 遠心側

別冊 午前 No.17 写真

選択肢考察

答え a c



ファーケーションプローブ

- a、× b、○ c、× d
- 写真の器具は根分岐部病変の検査に用いるファーケーションプローブである。ファーケーションプローブの使用する部位は根分岐部であり、16 近心側や 37 頰側などに使用する。27 口蓋側や 46 遠心側には根分岐部は存在しない。

ポイント

<ファーケーションプローブを用いた根分岐部病変の分類>

- ・Glickmanの分類
- ・Lindhe&Nymanの水平的分類

(問題 68) ルートプレーニングと比較してスケーリングで小さくするのはどれか。

- a 側方圧
- b 操作角度
- c ストローク
- d キュレットの把持力

選択肢考察 答え c

- × a スケーリングでは歯面に付着した歯石を除去するため、大きな側方圧を加える。
- × b スケーリングでは歯石を除去するため、ルートプレーニングよりも操作角度が大きくなる。
- c スケーリングでは強い側方圧を加えるためストロークは小さくする。
- × d スケーリングでは大きな側方圧を加えるため、ルートプレーニングよりキュレットの把持力が大きくなる。

ポイント <スケーリングとルートプレーニング>

- ・スケーリング：歯面に付着した歯石やブラークなどを除去すること
- ・ルートプレーニング：病的セメント質などを除去し、根面を滑沢にすること

(問題 69) グレーシータイプキュレットのミニファイブの特徴はどれか。2つ選べ。

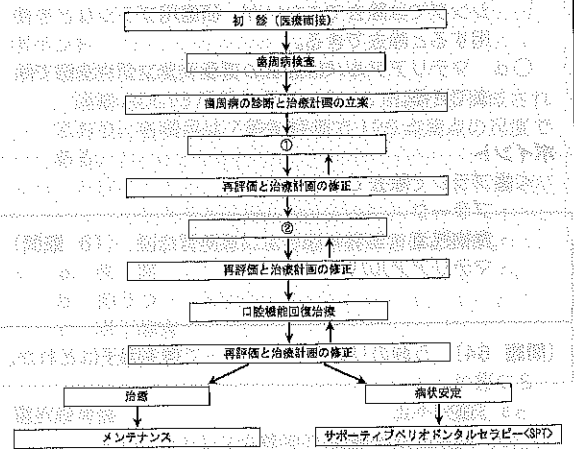
- a 浅いポケットに適している。
- b 根分岐部病変に適している。
- c 刃部の長さがスタンダードの1/2である。
- d 第1シャンクの長さがスタンダードより短い。

選択肢考察 答え b c

- × a、○ b ミニファイブは第一シャンクが長く刃部が短いので、深いポケットや根分岐部病変に適している。
- c ミニファイブの刃部の長さは、スタンダードの1/2である。
- × d ミニファイブの第1シャンクの長さは、スタンダードより3mm長い。

ポイント <ミニファイブ> スタンダードよりも第1シャンクが3mm長く、刃部の長さは1/2である。深い歯周ポケットや根分岐部病変などに適している。

(問題 70) 歯周治療の流れを図に示す。



①、②に該当する内容の組合せで正しいのはどれか。

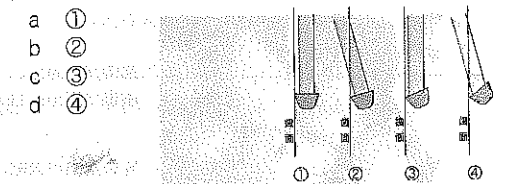
- ①
- ②
- a 咬合調整 GTR法
- b スケーリング 永久固定
- c 予後不良歯の抜歯 義歯装着
- d 口腔清掃指導 ルートプレーニング

選択肢考察 答え a

- a ①は歯周基本治療、②は歯周外科治療である。咬合調整は歯周基本治療に該当し、GTR法は歯周外科治療に該当するため、aは正しい。
- × b スケーリングは①に該当するが、永久固定は口腔機能回復治療に該当する。
- × c 予後不良歯の抜歯は①に該当するが、義歯装着は口腔機能回復治療に該当する。
- × d 口腔清掃指導とルートプレーニングはどちらも①に該当する。

ポイント <歯周基本治療と歯周外科治療> 歯周病に対しては、まずブラークコントロールやスケーリング、ルートプレーニングなどの歯周基本治療を行う。歯周基本治療後の再評価の結果により、フラップ手術やGTR法などの歯周外科治療を行う。

(問題 71) キュレットタイプスクレーラーと歯根の模式図を示す。ユニバーサルタイプキュレットを使用した歯肉縁下スクレーリングで適切なのはどれか。



選択肢考察 答え b

- × a、○ b ①と②は第1シャンクと刃部内面の角度からユニバーサルタイプキュレットと判断できる。ユニバーサルタイプキュレットでは、歯面と刃部内面との角度を70～85度で操作するため、適切なのは②である。

× c、× d ③や④は第1シャンクと刃部内面の角度からグレーシータイプキュレットと判断できる。

ポイント <ユニバーサルタイプキュレット> 刃部断面が半円状である。刃部両端にカッティングエッジがある。刃部内面は第1シャンクに対して90度である。

(問題 72) スケーリング中に歯周ポケット内でスクレーラーの刃部が破折し、歯肉から出血が認められた。最初に行うのはどれか。

- a エアで乾燥する。
- b ガーゼで圧迫する。
- c 口をすすいでもらう。
- d バキュームで吸引する。

選択肢考察 答え b

- × a エアで乾燥しても止血できないため、スクレーラーの刃部を確認することが困難である。
- b 出血がみられるため、スクレーラーの刃部を確認することが困難である。したがって、まずガーゼなどで圧迫止血してからスクレーラーの刃部を探すとよい。
- × c 口をすすいでもらうと、スクレーラーの刃部を見失ってしまう可能性がある。
- × d 出血部位をバキュームで吸引しても、止血できなければスクレーラーの刃部を確認することが困難である。

ポイント <スクレーラー刃部の破折> スクレーラーの不用意な使用、研磨による刃部の細小化などが要因となる。ポケット内で破折した場合には、まず刃部を確認することが大切である。

(問題 73) う蝕活動性試験の目的はどれか。2つ選べ。

- a う蝕発症の推測
- b ショ糖摂取量の把握
- c 児童の一人平均う蝕数の算出
- d 歯科保健指導のモチベーション強化

選択肢考察 答え a d

- a う蝕活動性試験はう蝕の発症や進行のリスクを推測し、う蝕予防処置方針を決定するものである。
- × b ショ糖摂取量の把握を行うためにう蝕活動性試験を行うことはない。
- × c 児童の一人平均う蝕数の算出は、(児童のう蝕の総数) / (児童の総数) で求める。う蝕活動性試験は関係ない。
- d う蝕活動性試験の目的の一つとして、歯科保健指導のモチベーションを強化することが挙げられる。

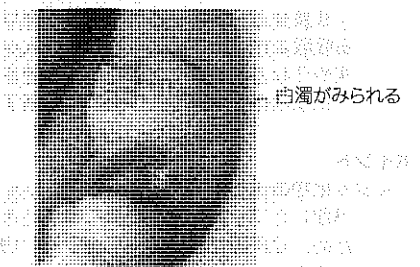
ポイント <う蝕活動性試験> 効果的なう蝕予防を行うために個人のもつう蝕発病因子を評価することを目的として行われる。

(問題 74) 11歳の女児。下顎左側第一大臼歯の近心面の白濁を主訴として来院した。昨日、下顎左側第二乳臼が脱落した際に気付いたという。白濁部に実質欠損は認めない。初診時の口腔内写真(別冊午前No.18)を別に示す。

- 適切な対応はどれか。
- a 経過観察
- b 予防填塞
- c フッ化物塗布
- d グラスアイオノマーセメント修復

別冊 午前 No.18 写真

選択肢考察 答え c



- × a 隣接面の白濁部は初期のエナメル質う蝕であり、経過観察では進行する可能性がある。
- × b 予防填塞は小窩や裂溝部に行うものであり、平滑面には行わない。
- c 初期のエナメル質う蝕であり、フッ化物塗布を行うのがよい。
- × d グラスアイオノマーセメント修復は実質欠損に行う処置である。

ポイント <平滑面の初期のエナメル質う蝕> ・表層下脱灰が生じ、白濁がみられる。 ・フッ化ナトリウムなどのフッ化物塗布や、フッ化物配合歯磨剤を使用したブラークコントロールなどが行われる。

(問題 75) レジン系材料を用いた小窩裂溝填塞法で使用するのどれか。2つ選べ。

- a ラバーダム
- b パーニッシュ
- c ポリッシングブラシ
- d マトリックスバンド

選択肢考察 答え a c

- a レジン系材料による小窩裂溝填塞法で、ラバーダム防湿による完全防湿下で行う。
- × b パーニッシュはグラスアイオノマーセメント系填塞材を用いた際に塗布する。
- c 小窩裂溝填塞法を行う際には、まずポリッシングブラシを用いて歯面清掃を行う。
- × d マトリックスバンドは隣接面のコンポジットレジン修復に用いる。

ポイント

<レジン系小窩裂溝充填材>
酸処理によって凹凸が形成されたエナメル質にレジンタグを形成して接着する。

(問題 76) 小児がフッ化物を摂取したときにフッ化物が沈着しやすい部位はどれか。2つ選べ。

- a 胃
b 骨
c 歯
d 腸管

選択肢考察 答え b c

× a、○ b、○ c、× d
飲食物として摂取されたフッ化物は、胃や腸管から吸収されて血中に入る。血中に入ったフッ化物は尿や汗などから排出されるが、排泄されなかったフッ化物は骨や歯などの硬組織に沈着する。

ポイント

<フッ化物の代謝>
摂取したフッ化物が硬組織に取り込まれやすい。そのため、成長期にある小児ではフッ化物の摂取量に対する尿中排泄量は成人と比較して少ない。

(問題 77) フッ化物歯面塗布と比較したフッ化物洗口の特徴はどれか。2つ選べ。

- a 費用便益率が高い。
b 低年齢児へ適用できる。
c 集団への応用が容易である。
d プロフェッショナルケアである。

選択肢考察 答え a c

- a フッ化物洗口は費用便益率が高く、優れた公衆衛生的特性を示す。
× b フッ化物洗口は洗口ができる年齢にならないと適用できない。フッ化物歯面塗布のほうが低年齢児へ適用できる。
○ c フッ化物歯面塗布と比較して、フッ化物洗口は集団への応用が容易である。
× d プロフェッショナルケアはフッ化物歯面塗布であり、フッ化物洗口は家庭におけるセルフケアである。

ポイント

<フッ化物の応用>
・局所応用：フッ化物洗口、フッ化物歯面塗布、フッ化物配合歯磨剤
・全身応用：食塩へのフッ化物添加、水道水フッ化物添加、フッ化物錠剤・液剤の内服

(問題 78) 在宅歯科医療で正しいのはどれか。

- a 保健所の指示で行う。
b 介護保険の対象となる。
c 歯科衛生士が診療補助を行う。
d 地域支援事業に基づいて行う。

選択肢考察 答え c

× a 在宅歯科医療は保健所の指示で行うわけではない。

- × b 在宅歯科医療は医療行為のため、医療保険の対象となる。
○ c 在宅歯科医療で診療補助が行えるのは、看護師や歯科衛生士である。
× d 在宅歯科医療は、「医療法」の医療計画に基づいて行われる。

ポイント

<在宅歯科医療>
「医療法」では、医療は病院や診療所などの医療提供施設のみならず、医療を受ける者の居宅などにおいても効率的に提供されなければならないとされており、在宅でも医療施設と同様の医療が提供されることが望ましい。在宅歯科医療は診療内容において比較的簡便なものに限定されるものの、歯科医療施設で行う歯科医療と異なるものではない。

(問題 79) 45歳の男性。補綴治療を希望して来院した。問診の結果、喫煙者であり1か月以内に禁煙しようと思っているという。

- 現在の禁煙ステージの指導で適切なのはどれか。2つ選べ。
a 禁煙開始日を決定させる。
b 喫煙関連商品を処分させる。
c 禁煙の動機付けを行うための糸口を見つける。
d 喫煙欲求のコントロールの仕方について助言する。

選択肢考察 答え a b

- a、○ b 準備期への指導である。
× c 無関心期への指導である。
× d 実行期への指導である。

ポイント

<行動変容の5つのステージ>
・無関心期：6か月以内に行動を変えようと思っていない。
・関心期：6か月以内に行動を変えようと思っている。
・準備期：1か月以内に行動を変えようと思っている。
・実行期：行動を変えて6か月未満である。
・維持期：行動を変えて6か月以上である。

(問題 80) Leavell と Clark の予防概念の特異的予防でポピュレーションアプローチはどれか。

- a 栄養指導
b 予防填塞
c フッ化物歯面塗布
d 水道水へのフッ化物添加

選択肢考察 答え d

- × a 栄養指導は Leavell と Clark の予防概念で健康増進に分類される。
× b 予防填塞は Leavell と Clark の予防概念で特異的予防に分類されるが、ハイリスクアプローチである。
× c フッ化物歯面塗布は Leavell と Clark の予防概念で特異的予防に分類されるが、ハイリスクアプローチである。
○ d 水道水へのフッ化物添加は Leavell と Clark の予防概念で特異的予防に分類されるポピュレーションアプローチである。

ポイント

ポピュレーションアプローチは集団全体へアプローチすることで全体のリスクを下げていこうという手法であり、ハイリスクアプローチは疾患を発生しやすい高いリスクをもった人を対象に絞り込んで対処していく手法である。

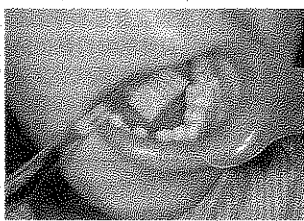
(問題 81) 7歳の女児。ブラッシング時の歯肉からの出血を主訴として保護者とともに来院した。上下顎前歯部歯肉に発赤と腫脹がみられ、全顎にわたって歯頸部にブラークの付着が認められた。患者自身によるブラッシング時の写真(別冊午前 No.19)を別に示す。医療面接結果の一部を表に示す。

Table with 2 columns: Item, Answer. Includes items like ブラッシング (3回/日), 補助的清掃器具 (使用なし), 保護者による口腔清掃 (なし), 使用歯磨剤 (NaF配合歯磨剤)

- 適切な指導はどれか。2つ選べ。
a 歯ブラシの選択
b 仕上げ磨きの実施
c ブラッシング回数の増加
d 歯間ブラシによる歯間部清掃

別冊 午前 No.19 写真

選択肢考察 答え a b



歯ブラシのヘッドサイズが大きい

- a 口腔内写真から歯ブラシのヘッドサイズが大きい。そのため、ヘッドの小さいものに変更すべきである。
○ b 3回/日のブラッシングを行っているにもかかわらず全顎にわたって歯頸部にブラークの付着が認められているため、仕上げ磨きの実施を行うべきである。
× c 3回/日のブラッシングを行っているため、回数増加する必要はない。
× d 小児の歯間清掃に歯間ブラシの使用は適切ではない。

ポイント

歯ブラシのヘッドサイズは2歯から2歯半程度を目安とするのが一般的である。

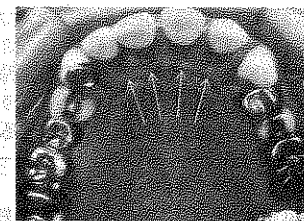
(問題 82) 42歳の女性。口腔乾燥と歯肉腫脹を訴えて来院した。初診時の口腔内写真(別冊午前 No.20)を別に示す。

- 矢印が示す徴候の原因で考えられるのはどれか。
a 口呼吸
b 食片圧入
c 舌突出癖
d 外傷性咬合

別冊 午前 No.20 写真

選択肢考察

答え a



堤状隆起

- a 口腔内写真では上顎口蓋側歯肉に堤状隆起(テンションリッジ)がみられる。堤状隆起の原因として口呼吸が考えられる。
× b、× d これらが原因で堤状隆起が生じるとは考えにくい。
× c 舌突出癖により前歯部開咬がみられることはあるが、前歯部開咬だからといって堤状隆起がみられるとは考えにくい。

ポイント

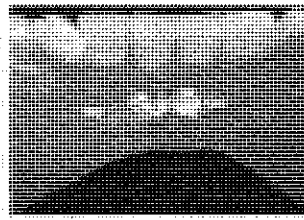
<堤状隆起>
上顎口蓋側の辺縁歯肉が堤防状に隆起している状態である。

(問題 83) 下顎全部床義歯の写真(別冊午前 No.21)を別に示す。矢印で示す付着物を義歯用ブラシで洗浄したが、ほとんど除去できなかった。

- 除去法として適切なのはどれか。
a 酸溶液への浸漬
b 水を用いた超音波洗浄
c サンドブラスターの使用
d スチームクリーナーの使用

別冊 午前 No.21 写真

選択肢考察 答え a



歯肉に付着した歯石

- a 酸溶液への浸漬で歯石は徐々に溶解される。
× b、× d 水を用いた超音波洗浄やスチームクリーナーの使用で歯石の除去は困難である。
× c サンドブラスターの使用で歯石の除去は行えるが、義歯が傷つく可能性が高い。

ポイント

歯石の主成分はハイドロキシアパタイトのため、低pHで溶解する。

(問題 84) 改訂BDR指標で正しいのはどれか。

- a 疾患特異的 QOL 尺度である。
- b 自立と全介助の2段階で評価する。
- c Dは「義歯清掃」の評価項目である。
- d 電動歯ブラシの使用も評価対象である。

選択肢考察 答え d

- × a 改訂BDR指標は口腔清掃の自立度を評価している。疾患特異的 QOL 尺度は General Oral Health Assessment Index (GOHAI) である。
- × b 自立、一部介助、全介助の3段階で評価する。
- × c D (Denture wearing) は「義歯着脱」の評価項目である。
- d B (Brushing) には電動歯ブラシの使用も含まれる。

ポイント

改訂BDR指標では口腔と義歯の清掃自立状況(自発性、習慣性、有効性)も評価している。有効性の判定基準は、清掃具の基本的な部位到達性、基本的な操作性、適正な持続時間である。

(問題 85) 介助者が片麻痺の患者に口腔清掃を行うとき、患者の体位と顔の向きを組合せて適切なのはどれか。

- a 仰臥位 顔を健側に向ける。
- b 仰臥位 顔を麻痺側に向ける。
- c 側臥位 顔を健側を下にする。
- d 側臥位 顔を麻痺側を下にする。

選択肢考察 答え c

- × a、× b 片麻痺のため、仰臥位では誤嚥する可能性がある。
- c、× d 患者の体位は側臥位にし、顔の健側を下にしてやや前傾姿勢をとらせ、健側に軽く首を傾けうがいなどをさせる。顔の麻痺側を下にすると、うがいなどを行った時に水が口腔からこぼれてしまう。

ポイント

<片麻痺の患者の口腔清掃>

- ・麻痺側に汚れが残りやすく残っても気づきにくいため、介助者が仕上げ磨きを行う。
- ・歯ブラシを持ちやすくするため、柄を太くしたり手にベルトで固定したり工夫をする。
- ・患者の体位は側臥位にし、顔の健側を下にする。
- ・うがいが十分できないため、口腔内の汚れを拭き取る。
- ・口が閉じない場合は、指で口唇を挟み込むように押さえる。

(問題 86) 成人の生活習慣病の発症予防のために改善すべき習慣はどれか。

- a 塩分摂取量 12g/日
- b 肉類より魚介類を多く摂取
- c 30分以上の運動を2回/週
- d ビール 350mL/日を2回/週

選択肢考察 答え a

- a 食塩摂取量は男性 8.0g/日未満、女性 7.0g/日未満であり、12g/日は過剰である。

- × b 生活習慣病予防のためには肉類より魚介類を多く摂取する。
- × c 生活習慣病予防のためには定期的な有酸素運動の実施が推奨されている。
- × d ビール 350mL/日を2回/週は適度な飲酒量である。

ポイント

健康日本21では、節度のある適度な飲酒量として、1日平均純アルコールで20g程度としている。

(問題 87) 食事バランスガイドで正しいのはどれか。

- a 運動量が示されている。
- b コマのヒモは調味料を示している。
- c 食事1回分の摂取量が示されている。
- d 摂取量の単位はサービング (Sv) である。

選択肢考察 答え d

- × a コマの軸を回転するように「運動」は示されているが、「運動量」は示されていない。
- × b コマのヒモは菓子や嗜好飲料を示している。
- × c 料理区分ごとに、1日分の料理の組合せとおおよその量が示されている。
- d 摂取量の単位はサービング (Sv) である。

ポイント

厚生労働省、農林水産省、文部科学省の連携により、食生活指針が策定され、具体的な行動に結び付けるために具体的なイラストで示した食事バランスガイドが厚生労働省と農林水産省の共同で策定された。

(問題 88) 摂食嚥下機能の獲得段階と特徴的な動きの組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 経口摂取準備期 舌突出
- b 嚥下機能獲得期 上唇での取り込み
- c 捕食機能獲得期 頬と口唇の協調運動
- d 押しつぶし機能獲得期 口角の左右対称な動き

選択肢考察 答え a d

- a 舌突出は経口摂取準備期の特徴的な動きである。
- × b 上唇での取り込みは捕食機能獲得期の特徴的な動きである。
- × c 頬と口唇の協調運動はすりつぶし機能獲得期の特徴的な動きである。
- d 口角の水平の動き(左右対称)は押しつぶし機能獲得期の特徴的な動きである。

ポイント

<摂食嚥下機能の獲得段階と特徴的な動き>

獲得段階	発達の特徴
経口摂取準備期	哺乳反射、指しゃぶり、玩具なめ、舌突出
嚥下機能獲得期	下唇の内転、舌尖の固定、舌の蠕動様運動での食塊移送
捕食機能獲得期	顎・口唇の随意的閉鎖、上唇での取り込み(察り取り)
押しつぶし機能獲得期	口角の水平の動き(左右対称)、舌尖の口蓋壁への押し付け
すりつぶし機能獲得期	口角の引き(左右非対称)、頬と口唇の協調運動、顎の偏位

(問題 89) 85歳の男性。脳梗塞後に食事がとりにくいことを主訴として来院した。水でむせやすくなり、気息性嘔声が見られるようになったことが気になっているという。

麻痺が考えられるのはどれか。

- a 顔面神経
- b 舌下神経
- c 舌咽神経
- d 迷走神経

選択肢考察 答え d

- × a 顔面神経は表情筋を支配する神経であり、嚥下の準備期や口腔期に関与する。
- × b 舌下神経は舌の運動を支配する神経であり、嚥下の準備期や口腔期に関与する。
- × c 舌咽神経は軟口蓋部や咽頭を支配する神経であり、嚥下の咽頭期に関与するが、誤嚥や気息性嘔声が見られるため、舌咽神経の麻痺は考えにくい。
- d 迷走神経は喉頭を支配する神経であり、嚥下の咽頭期に関与する。水でむせやすくなっていることから誤嚥が疑われ、気息性嘔声が見られるため、迷走神経麻痺が考えられる。

ポイント

舌咽神経は舌の後方1/3の味覚と感覚、咽頭の感覚や運動をつかさどり、嚥下運動などにはたらく。迷走神経は咽頭の運動や感覚を支配するニューロンのほか、内臓に広く分布する自律神経(副交感神経)線維を含み、声帯を支配して発声にはたらく反射神経を出すほか、心臓・気管支・食道などの胸部臓器や骨盤部をのぞく腹部臓器に分布する。

(問題 90) 摂食嚥下障害に対する代償的アプローチはどれか。

- a 直接訓練
- b 嚥出力向上
- c 食形態の選択
- d 咀嚼機能改善

選択肢考察 答え c

- × a、× b、× d 直接訓練や嚥出力向上、咀嚼機能改善は治療的アプローチである。
- c 食形態の選択や変更は代償的アプローチである。

ポイント

<摂食嚥下障害に対する代償的アプローチ(例)>

- ・食物形態の選択
- ・利き手交換
- ・食具の改良

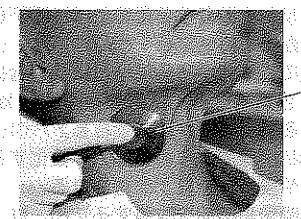
(問題 91) 75歳の男性。食事摂取の困難を主訴として来院した。1か月前から食事中にむせるといふ。嚥下機能を評価するために行った検査の写真(別冊午前 No.22)を別に示す。

喉頭侵入を疑うのはどれか。

- a 嗽音
- b 弾音
- c 乾性ラ音
- d 湿性ラ音

別冊 午前 No.22 写真

選択肢考察 答え a



頸部聴診法

- a 写真で行っている嚥下機能を評価するために行った検査は頸部聴診法である。嚥下直後の呼吸音で嗽音や液体の振動音が聴取されるときは、喉頭侵入や誤嚥、咽頭部における液体の貯留を疑う。
- × b 弾音は舌で上顎の構音器官を軽く1度弾き、口腔内に瞬間的な閉鎖を作ることによって聴取される音である。
- × c、× d 肺雑音には乾性ラ音と湿性ラ音がある。乾性ラ音は、気管支の狭窄により生じる音でも呼吸時に聴取される。気管支喘息などで聴取される。湿性ラ音は、末梢気道や肺泡に液体があるときに空気が通過すると生じ、持続性の短い不連続な音でも呼吸時に聴取される。慢性気管支炎、進行した肺水腫、肺炎などで聴取される。

ポイント

<頸部聴診法による誤嚥の判定>

- ・嚥下時に泡立ち音、むせに伴う嚥下音が聴取されるとき
 - 誤嚥を疑う
- ・嚥下直後の呼吸音で湿性音や嗽音、液体の振動音が聴取されるとき
 - 誤嚥、喉頭侵入、咽頭部における液体貯留を疑う
- ・むせに伴う嚥下音や喘鳴様呼吸音が聴取されるとき
 - 誤嚥を疑う

(問題 92) 75歳の男性。食事摂取の困難を主訴として来院した。脳性麻痺の既往があるという。ある訓練を実施することとした。訓練時の写真(別冊午前 No.23)を別に示す。

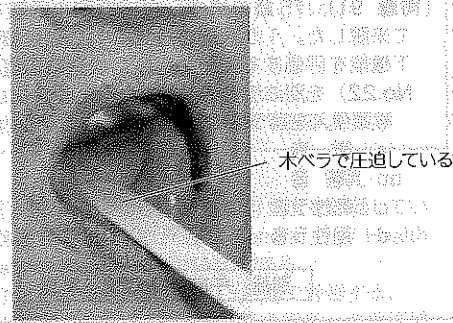
改善が期待できるのはどれか。2つ選べ。

- a 嚥下反射
- b 構音機能
- c 食塊移送能
- d 鼻咽腔閉鎖機能

別冊 午前 No.23 写真

選択肢考察

答え b c



舌抵抗訓練

- × a 嚥下反射を改善するためには、嚥下促進訓練を行う必要がある。
- b 写真で行っている訓練は舌訓練（舌抵抗訓練）である。舌抵抗訓練により [pa] や [ka] など舌がかかわる構音機能が改善できる。
- c 舌抵抗訓練により舌の筋力が強化するため、食塊形成能や食塊移送能が改善される。
- × d 鼻咽腔閉鎖機能を改善するためには、ブローイング訓練を行う必要がある。

ポイント

<舌訓練>

- 舌の異常運動や運動制限によって、咀嚼や押しつぶしの障害を認めるときに有効である。
- 舌筋のマッサージを行うことで、舌の運動機能を高める。
- 改善する嚥下の時期は、準備期、口腔期、咽頭期である。

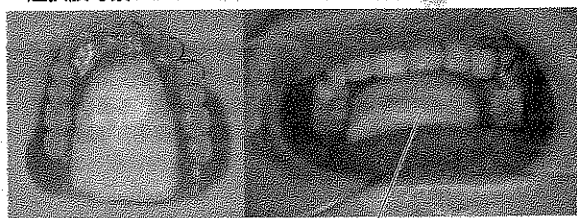
(問題 93) 80歳の女性。口蓋に食渣が付着することを主訴として在宅診療を希望した。1年前に脳梗塞を発症したという。口腔内装置の写真(別冊午前 No.24A)と装置装着時の口腔内写真(別冊午前 No.24B)を別に示す。

- この装置の適応はどれか。
- a 舌挙上不全
 - b 口唇閉鎖不全
 - c 声門閉鎖不全
 - d 軟口蓋挙上不全

別冊 午前 No.24A,B 写真

選択肢考察

答え a



舌接触補助床 上顎義歯口蓋部を肥厚させている

- a 写真の口腔内装置は舌接触補助床である。舌の運動障害を原因とした著しい機能低下により、舌と口蓋の接触が得られない患者に対して用いる装置で、舌挙上不全が適応である。

- × b 口唇閉鎖不全に対しては口唇訓練が適応である。
- × c 声門閉鎖不全に対しては声門閉鎖訓練が適応である。
- × d 軟口蓋挙上不全に対しては軟口蓋挙上装置の装着が適応である。

ポイント

<舌接触補助床>

切除や運動障害を原因とした著しい舌の機能低下により、舌と硬・軟口蓋の接触が得られない患者に対して用いる「上顎義歯口蓋部を肥厚させた装置」、または「口蓋部分を覆う装置」である。

(問題 94) 経鼻経管栄養の特徴として正しいのはどれか。

- a 外観がよい。
- b 嚥下機能を阻害する。
- c 6週以上の留置が可能である。
- d チューブの留置に外科的処置が必要である。

選択肢考察

答え b

- × a 経鼻経管栄養は外観がよいとはいえない。
- b 経鼻経管の存在は唾液の嚥下時に悪影響を与える。太いチューブほど嚥下機能を阻害する。
- × c 6週以上の留置が可能なのは胃瘻(腸瘻)である。
- × d チューブの留置に外科的処置が必要なのは胃瘻(腸瘻)である。

ポイント

経鼻経管栄養は、容易にチューブを留置できるため、経管栄養の開始時に行うことが多いが、長期間使用すると外鼻孔、鼻腔、咽頭に粘膜障害が起こりやすいため、一般に使用期間は4~6週間以内とする。

(問題 95) 医療の質の評価でアウトカム指標はどれか。

- a 目標設定
- b 患者満足度
- c 事業実施量
- d リハビリテーション開始率

選択肢考察

答え b

- × a 目標設定はプロセス評価である。
- b 患者満足度はアウトカム評価である。
- × c 事業実施量はアウトプット評価である。
- × d リハビリテーション開始率はプロセス評価である。

ポイント

<医療の質の評価>

- ・アウトカム(結果)評価: 事業の目的・目標の達成度、成果の数値目標に対する評価である。
- ・アウトプット(事業実施量)評価: 目的・目標の達成のために行われる事業の結果に対する評価である。
- ・プロセス(過程)評価: 事業の目的や目標の達成に向けた過程や活動状況を評価するものである。
- ・ストラクチャー(構造)評価: 事業を実施するための仕組みや体制を評価するものである。

(問題 96) 車椅子を使用している要介護高齢者への対応で正しいのはどれか。

- a 診療台の左側に車椅子を寄せる。
- b 移乗する前にブレーキをかけておく。
- c 介助者は腰を高くして患者を移動させる。
- d デンタルチェアは車椅子のシートより上げておく。

選択肢考察

答え b

- × a 診療台(ユニット)の右側に車椅子を寄せる。
- b 移乗する前にブレーキをかけておく。
- × c 介助者は腰を低くして患者を移動させる。
- × d デンタルチェアは車椅子のシートより下げておく。

ポイント

<車椅子患者の補助>

- ①フットレストは持ち上げる。
- ②介助者は腰を低くする。
- ③デンタルチェアは車椅子のシートより下げておく。
- ④患者の左側にユニットがくるように車椅子を寄せる。
- ⑤介助者の両腕を患者の脇に入れて移動させる。
- ⑥移乗する前にブレーキをかける。
- ⑦立位が可能な場合は自分で移乗してもらう。
- ⑧移乗後は深く座ってもらう。

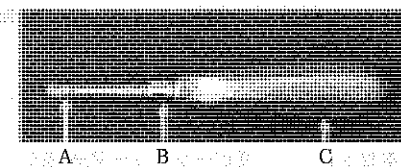
(問題 97) 抜歯をすることになり、準備した器具の写真(別冊午前 No.25)を別に示す。

- この器具の受け渡しで正しいのはどれか。
- a A部を把持し、術者にC部を向けて渡す。
 - b B部を把持し、術者にC部を向けて渡す。
 - c C部を把持し、術者にA部を向けて渡す。
 - d C部を把持し、術者にA部を向けて渡す。

別冊 午前 No.25 写真

選択肢考察

答え b



- × a, ○ b, × c, × d
- A部は補助者も術者も触らないようにする。B部を把持し、術者にC部を向けて渡す。

ポイント

<器具の手渡しの注意事項>

- ①デンタルミラー、鋭匙、ピンセットは執筆状の手に渡す。
- ②抜歯鉗子、エレベーター(挺子)は掌握状の手(パームグリップ)に渡す。
- ③歯肉ハサミはハサミ持ち状の手に渡す。
- ④リーマーはつまみ状の手に渡す。
- ⑤患者の顔面前方あるいは頭部後方で手渡す。
- ⑥手渡すタイミングに気を配る。
- ⑦術者の把持を確認して手放す必要がある。
- ⑧どこの部位の治療かを考えて器具を渡す。

(問題 98) ある容器に表示されているマークを別に示す。使用後のメスを廃棄すべき容器に表示されているマークの色はどれか。

- a 赤
- b 橙
- c 黄
- d 黒



選択肢考察

答え c

- × a 赤色のバイオハザードマークの付いた容器には液体・泥状のもの(血液、膿汁など)を廃棄する。
- × b 橙色のバイオハザードマークの付いた容器には固形状のもの(石膏模型撤去後の印象材、歯石の付いたガーゼなど)を廃棄する。
- c 黄色のバイオハザードマークの付いた容器には鋭利なもの(使用後のメス、折れたブローチ、使用後の注射針、リーマー類など)を廃棄する。
- × d 黒色のバイオハザードマークは存在しない。

ポイント

<バイオハザードマークの色と感染性廃棄物の形態>

マークの色	廃棄物の状態	例
赤	液体・泥状のもの	血液、膿汁
橙	固形状のもの	石膏模型撤去後の印象材、歯石の付いたガーゼ
黄	鋭利なもの	使用後のメス、折れたブローチ、使用後の注射針、リーマー類など

(問題 99) 石膏の硬化を速くする方法はどれか。

- a 冷水を使用する。
- b 混水量を多くする。
- c 練和速度を速くする。
- d 4%砂糖水で練和する。

選択肢考察

答え c

- × a 冷水を使用すると硬化は遅延する。
- × b 混水量を多くすると硬化は遅延する。
- c 練和速度を速くすると石膏の硬化が促進される。
- × d 4%食塩水(塩化ナトリウム水溶液)を使用すると石膏の硬化が促進される。

ポイント

<石膏の硬化を速くする方法>

- ①4%の塩化ナトリウム水溶液を使用する。
- ②練和速度を速くする。
- ③温水を使用する。(→寸法変化が大きくなる)
- ④混水量を少なくする。(→寸法変化が大きくなる)

(問題 100) ある印象材の写真(別冊午前 No.26)を別に示す。

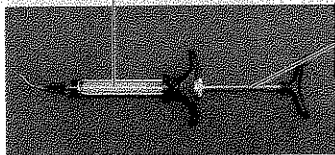
- この印象材について正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 熱可塑性である。
 - b 概形印象に用いる。
 - c 義歯の印象採得に適する。
 - d ハイドロコロイド系印象材である。

別冊 午前 No.26 写真

選択肢考察

答え a d

寒天印象材のカートリッジ



シリンジ

- a 写真は寒天印象材で、熱可塑性である。
- × b × c アルジネート印象材と連合印象を行い、インレー、クラウン、ブリッジなどの精密印象に用いる。
- d 寒天印象材やアルジネート印象材はハイドロコロイド系印象材である。

ポイント

<寒天印象材の特徴>

- 水中でゲル化した寒天を100°C近くは加温すると流動性を有するゾル状態となり、40~50°C以下に冷却することにより網目状ポリマーを形成してゲル化して硬化する。
- ①成分の80%は水である。
- ②12~15%が寒天（鎖状の天然ポリマー）である。
- ③ハイドロコロイド系印象材である。
- ④弾性印象材である。
- ⑤インレー、クラウン、ブリッジの精密印象に用いる。
- ⑥アルジネートと連合印象できる。
- ⑦放置すると変形する。（離漿と乾燥のため）
- ⑧撤去後直ちに石膏を注ぐ。
- ⑨熱可塑性である。
- ⑩沸騰槽でゾル化して使用する。
- ⑪専用の3槽からなるコンディショナーを使用する。

沸騰槽	100°C	寒天を完全にゾル化する
貯蔵槽	60°C	随時使用可能なゾルを保持しておく
調整槽	45°C	患者の口腔内に使用できるよう調整する

(問題 101) 器具の写真(別冊午前 No.27)を別に示す。

- この器具に先立って使用するのはどれか。
- a セパレーター
- b ラバーダムパンチ
- c ラバーダムホルダー
- d タップルマイヤーリテーナー

別冊 午前 No.27 写真

選択肢考察

答え b



- × a セパレーターは歯間分離器で用いる器具である。
- b まず、ラバーダムパンチでラバーシートに穿孔しておく。その後、その歯、その歯根はタングを歯根までタングプフォーセップスで把持する。
- × c ラバーダムホルダーはクランプフォーセップスでクランプを歯に装着した後、ラバーシートの固定のために使用する。

× d タップルマイヤーリテーナーは隔壁調整で用いる器具である。

ポイント

<ラバーダム防湿の術式>
まずラバーダムパンチでラバーシートに穿孔しておく。

(問題 102) 25歳の男性。下顎左側第二大臼歯の自発痛を主訴として来院した。疼痛のため昨夜はほとんど寝ていないという。初診時のエックス線写真(別冊午前 No.28)を別に示す。

これから行う処置の際に準備するのはどれか。2つ選べ。

- a クレンジャー
- b 裏層充填器
- c ポケットマーカ
- d ルートキャナルメーター

別冊 午前 No.28 写真

選択肢考察

答え a d



- a クレンジャーは歯髄を除去するのに用いる。
- × b 自発痛、疼痛のため昨夜はほとんど寝ていない、エックス線写真より大きな窩を認めることから急性化膿性歯髄炎と考えられる。この場合、抜髄するので裏層充填器は不要である。
- × c ポケットマーカは歯周外科手術の1つである新付着術(ENAP)や歯肉切除術で用いる。
- d ルートキャナルメーターとは根管長測定器のことである。抜髄や感染根管治療などの歯内療法の際には準備する。

ポイント

<麻酔抜髄の際に準備するもの>

- ①基本セット
- ②注射針
- ③注射筒
- ④カートリッジ
- ⑤クレンジャー
- ⑥リーマー類
- ⑦ブローチ
- ⑧ラウンドバー
- ⑨ピーソナーリーマー
- ⑩ミネウムシリンジ
- ⑪次亜塩素酸ナトリウム溶液
- ⑫過酸化水素水
- ⑬EDTA
- ⑭仮封材
- ⑮ラバーダム防湿器具一式
- ⑯根管長測定器(ルートキャナルメーター)

(問題 103) 歯周外科で用いる器具の写真(別冊午前 No.29)を示す。

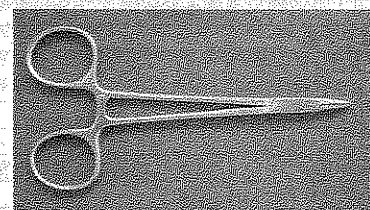
この器具を使用するのはどれか。2つ選べ。

- a 歯肉切除術
- b 遊離歯肉移植術
- c 歯周ポケット掻爬術
- d 歯周組織再生誘導法

別冊 午前 No.29 写真

選択肢考察

答え b d



持針器

- × a 歯肉切除術は仮性ポケットで歯槽骨吸収がない場合に行う。骨線上ポケットの軟組織壁を切除して、仮性ポケットを除去する。ポケットマーカ、カーランドメス、歯周パックは必要であるが、骨膜剥離子、持針器、縫合糸は必要ない。
- b 遊離歯肉移植術には骨膜剥離子、持針器、縫合糸、歯周パックなどが用いられる。
- × c 歯周ポケット掻爬術はキュレットスケーラーで歯周ポケット内の肉芽組織を掻爬、除去し、再付着を図る。メスは使用しないので、縫合はしない。したがって、持針器、縫合糸は必要ない。
- d 歯周組織再生誘導法(GTR法)の術式は通常のフラップ手術に準じる。骨膜剥離子、持針器、縫合糸が用いられる。

ポイント

<持針器を使用する歯周外科手術>
新付着術(ENAP)、歯肉剥離掻爬術(フラップ術)、歯周組織再生誘導法(GTR法)、遊離歯肉移植術など。

(問題 104) 器具の写真(別冊午前 No.30)を別に示す。

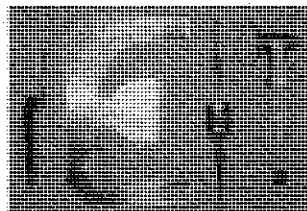
上下顎全部床義歯の咬合採得時に使用するのはどれか。2つ選べ。

- a ① b ② c ③ d ④

別冊 午前 No.30 写真

選択肢考察

答え b d



- × a ①は咬合紙ホルダーである。咬合関係を診査する際に用いる。

- b ②は咬合平面測定板である。咬合採得時の仮想咬合平面設定のために用いる。
- × c ③はクラウンリムーバーである。クラウンの除去に用いる。
- d ④はデンタルノギスである。咬合採得時の咬合高径設定のために用いる。鼻下点-オートガイ点間距離と口角-眼角間距離が等しくなるように咬合床を調整する。

ポイント

<全部床義歯の咬合採得時に準備する器具・道具>

- ・咬合床
- ・パラフィンワックス
- ・ノギス(フェイスノギス)
- ・顔弓(フェイスボウ)
- ・咬合平面板
- ・ワックススパチュラ(大・小)
- ・エバンス
- ・咬合採得材(チェックバイト、シリコンパパー、パラフィンワックスなど)
- ・咬合床形成用ヘラ
- ・アルコールトーチランプ

(問題 105) 歯根嚢胞の摘出手術に用いる器具はどれか。2つ選べ。

- a 鋭匙
- b 骨鋸
- c 消息子
- d 骨膜剥離子

選択肢考察

答え a d

- a 鋭匙で不良肉芽組織を除去する。
- × b 骨鋸は骨を切断する際に用いる。
- × c 消息子とはソンドのことである。切開、排膿の際に準備する器具である。
- d 骨膜剥離子で骨膜を剥離する。

ポイント

<顎骨内嚢胞摘出術での準備器具>

- ①基本セット
- ②局所麻酔器具一式
- ③メス
- ④骨膜剥離子、粘膜剥離子
- ⑤破骨鉗子
- ⑥骨バー、ラウンドバー
- ⑦鋭匙
- ⑧縫合器具一式
- ⑨根管充填器具一式

(問題 106) フランクフルト平面が通るのはどれか。2つ選べ。

- a セラ(S)
- b ナジオン(N)
- c ポリオン(Po)
- d オルピターレ(Or)

選択肢考察

答え c d

- × a × b セラ(S)とナジオン(N)とを結んだ平面はSN平面である。
- c ○ d ポリオン(Po)とオルピターレ(Or)とを結んだ平面がフランフルト平面である。

ポイント

<頭部エックス線規格写真の基準平面>

①SN平面	セラ (S)	ナジオン (N)
②FH平面	オルビターレ (Or)	ポリオン (Po)
③顔面平面	ナジオン (N)	ポゴニオン (Pog)
④口蓋平面	ANS	PNS
⑤咬合平面	上下顎中切歯切縁の 中点	上下顎第一大臼歯の 咬頭嵌合する中点
⑥下顎下縁平面	メントン (Me)	下顎下縁の接線間の 最深点
⑦Y軸	セラ (S)	グナテオン (Gn)

(問題 107) 器具の写真 (別冊午前 No.31) を別に示す。

この器具の使用目的で正しいのはどれか。

- a. ブラケットの撤去
- b. 矯正用バンドの賦形
- c. スプリングの矯正力の計測
- d. ブラケットの装着位置の決定

別冊 午前 No.31 写真

選択肢考察

答え d



ポジショニングゲージ

- × a. ブラケットを撤去する際には、ブラケットリムービングプライヤーを用いる。
- × b. 矯正用バンドの賦形にはバンドフォーミングプライヤー、バンドカンタリングプライヤーを用いる。
- × c. ゴムやスプリングの矯正力の計測にはテンションゲージを用いる。
- d. 写真はポジショニングゲージである。装着するブラケットやチューブの位置を正確に設定するのに用いる。

ポイント

<ポジショニングゲージ>

マルチブラケット法において、装着するブラケットやチューブを正確に位置設定するのに用いる。

(問題 108) 4歳の男児。歯科治療終了後、「よく頑張ったね」と声をかけ、次回の予約をとった。

適用した対応法はどれか。

- a. モデリング法
- b. タイムアウト法
- c. 系統的脱感作法
- d. オペラント条件付け法

選択肢考察

答え d

- × a. モデリング法は、同じくらいの年齢の小児が上手に歯科治療をやっているところを見せて、同じようにする方法である。
- × b. タイムアウト法は、問題行動を起こした場合、その場から隔離し興奮した気を静める方法である。

× c. 系統的脱感作法とは Tell-Show-Do 法のことである。歯科治療に際し、器具を見せ、説明し、やってみせる方法により系統的に歯科治療に対する恐怖心を緩和させることである。

○ d. オペラント条件付け法は、正の強化因子 (小児への賞賛、シールなどをあげる) と負の強化因子 (叱責、身体の抑制など) を併用する方法である。トークンエコノミー法もオペラント条件付け法の1つである。

ポイント

<歯科的対応法>

	3歳未満	3歳以上
母子分離	×	○
トークンエコノミー法 (オペラント条件付け法)	○	○
モデリング法	△	○
TSD法	×	○
HOM法	×	○ (泣叫ぶ小児)
タイムアウト法	×	○
前投薬	○	×
笑気吸入麻酔法	×	○

(問題 109) 23歳の女性。嘔吐反射が強い。下顎右側智歯の口内法エックス線撮影を行うことになった。

準備するのはどれか。2つ選べ。

- a. 表面麻酔薬
- b. 滅菌ガーゼ
- c. ペアン鉗子
- d. 万能開口器

選択肢考察

答え a c

- a. 表面麻酔をして嘔吐反射を防止する。
- × b. 滅菌ガーゼは抜歯後に噛ませて、止血させるために用いる。
- c. ペアン鉗子のハンドル部がフィルム面と垂直になるように保持する。開口障害患者や嘔吐反射が強い場合に用いると有効である。
- × d. 万能開口器を装着した状態でエックス線撮影を行うことはない。

ポイント

<嘔吐反射の強い患者のデンタルエックス線撮影>

表面麻酔薬の使用、ペアン鉗子の応用、撮影補助器具の使用。

(問題 110) 心肺蘇生に使用する器械の写真 (別冊午前 No.32) を別に示す。

前胸部に電極パッドを貼付する上で適切な位置はどれか。2つ選べ。

- a. 右上
- b. 左上
- c. 右下
- d. 左下

別冊 午前 No.32 写真

選択肢考察

答え a d



AED (自動体外式除細動器)

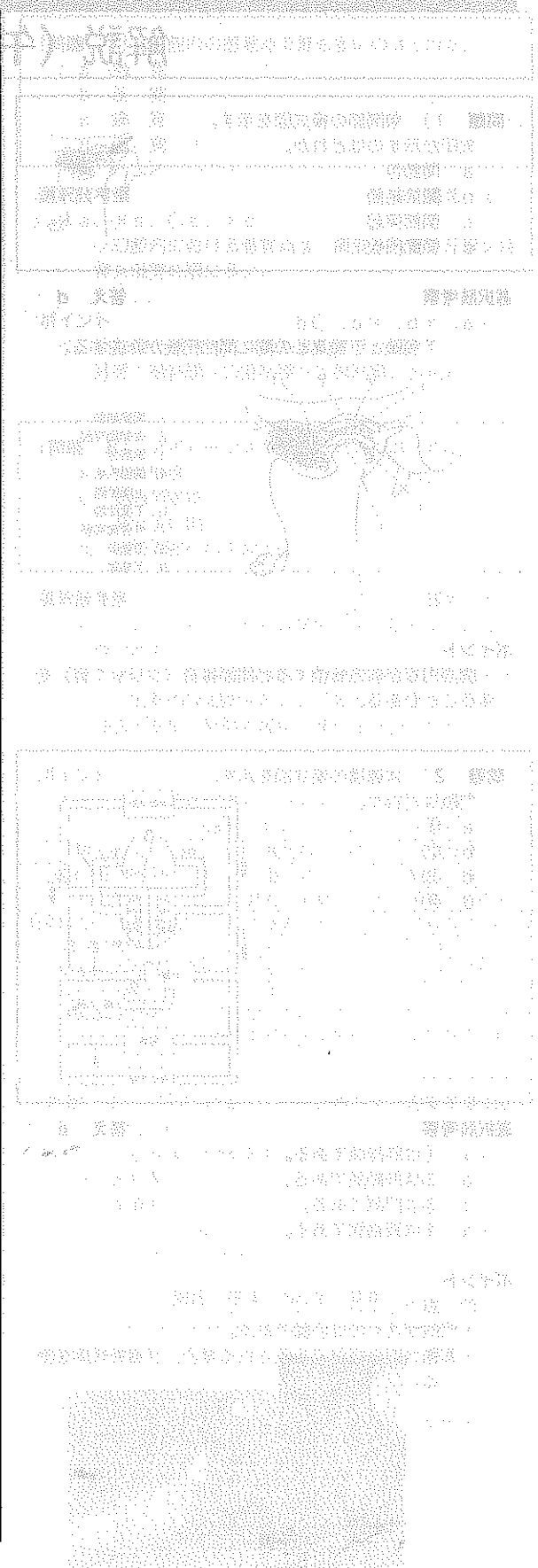
- a, × b, × c, ○ d

AED (自動体外式除細動器) の電源を入れてから、電極パッドを胸の右上および胸の左下に貼付する。AED 装着後は、メッセージに従って使用する。引き続き心肺蘇生として胸骨圧迫心マッサージ、人工呼吸を 30:2 の割合で行う。

ポイント

<AEDによる除細動の術式>

- 心室細動と脈なし心室頻拍が適応。心静止と脈なし電気活動は適応とならない。
- ①周囲の安全確認 (水分をタオルで拭きとる)
- ②電源を入れる
- ③電極パッドを胸の右上および胸の左下に貼付
- ④ケーブルをつなぐ
- ⑤解析の結果、「除細動の適応」とのメッセージがあれば、指示に従って通電
- ⑥通電後は直ちに胸骨圧迫から救急処置を再開



解説 (午後問題)

【問題 1】 顎関節の模式図を示す。矢印が示すのはどれか。

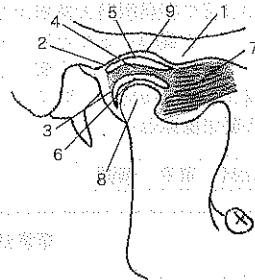
- a 関節包
- b 関節結節
- c 関節突起
- d 関節円板



選択肢考察 答え d

× a、× b、× c、○ d

下顎頭と下顎窩との間に関節円板が介在する。



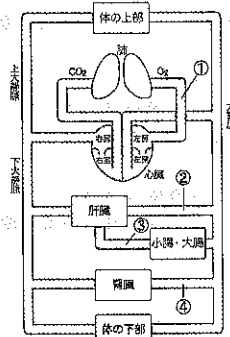
- 1. 関節結節
- 2. 後関節突起
- 3. 関節包
- 4. 関節円板
- 5. 上関節腔
- 6. 下関節腔
- 7. 外側翼突筋
- 8. 下顎頭
- 9. 下顎窩

ポイント

関節円板が前方転位すると関節雑音(クリック音)を伴うことがある。

【問題 2】 体循環の模式図を示す。門脈はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④



選択肢考察 答え c

- × a ①は肺静脈である。
- × b ②は肝動脈である。
- c ③は門脈である。
- × d ④は腎動脈である。

ポイント

<門脈>

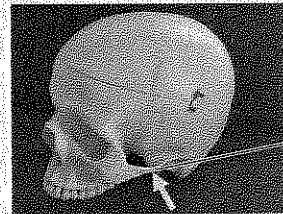
- ・門脈が注ぐのは肝臓である。
- ・薬物が門脈経路で吸収される場合、肝臓で代謝を受ける。

【問題 3】 顔面骨の写真(別冊午後 No.1)を別に示す。矢印が示す部位に付着している筋はどれか。

- a 咬筋
- b 側頭筋
- c 内側翼突筋
- d 外側翼突筋

別冊 午後 No.1 写真

選択肢考察 答え a



頬骨弓

- a 矢印が示すのは頬骨弓で、咬筋の起始である。ちなみに停止は下顎枝外面(咬筋粗面)である。
- × b 側頭筋の起始は側頭窩、停止は筋突起である。
- × c 内側翼突筋の起始は蝶形骨翼状突起の翼突窩、停止は下顎枝内面(翼突筋粗面)である。
- × d 外側翼突筋の起始は蝶形骨大翼および蝶形骨翼状突起外側板、停止は関節円板と翼突筋窩である。

ポイント

<咀嚼筋の起始と停止、作用>

咀嚼筋	起始	停止	作用
咬筋	頬骨弓	下顎枝外面(咬筋粗面)	開口運動
側頭筋	側頭窩	筋突起	開口運動、下顎の後方運動、側方運動
内側翼突筋	蝶形骨翼状突起の翼突窩	下顎枝内面(翼突筋粗面)	閉口運動
外側翼突筋	上頭;蝶形骨大翼 下頭;蝶形骨翼状突起外側板	関節円板 翼突筋窩	開口運動、下顎の前方運動、側方運動

【問題 4】 エナメル質の成長線はどれか。

- a エナメル叢
- b レチウス条
- c アンドレーゼン線
- d オーエンの外形線

選択肢考察 答え b

- × a エナメル叢とは、エナメル象牙境にみられる草むらのような低石灰化帯のことである。
- b レチウス条は横紋の10本間隔ごとにみられるよく発達したエナメル質の成長線である。
- × c アンドレーゼン線は象牙質の成長線で、象牙質を脱灰切片にした際にみられる間隔20μmの平行線のことである。
- × d オーエンの外形線は象牙質の成長線で、石灰化の低い部分(球間象牙質)の連なりである。

ポイント

<エナメル質の成長線>
レチウス(平行)条、横紋、周波条がある。

【問題 5】 酵素と作用するものの組合せで正しいのはどれか。

- a リパーゼ——脂肪
- b アミラーゼ——タンパク質
- c ペプシン——デンプン
- d マルターゼ——フルクトース

選択肢考察 答え a

- a リパーゼは膵液と唾液にみられる脂肪分解酵素である。
- × b アミラーゼは唾液と膵液にみられるデンプン分解酵素である。
- × c ペプシンは胃液にみられるタンパク質分解酵素である。
- × d マルターゼは腸液にみられる加水分解酵素である。マルトース(麦芽糖)をグルコース(ブドウ糖)に分解する。

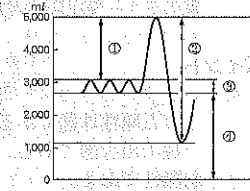
ポイント

<リパーゼ>

中性脂肪(トリグリセリド)を脂肪酸とグリセロールに分解する酵素である。

【問題 6】 図は肺気量の区分を示す。機能的残気量はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④



選択肢考察 答え d

- × a ①は予備吸気量である。
- × b ②は肺活量である。
- × c ③は一回換気量である。
- d ④が機能的残気量である。

ポイント

<肺気量区分(スパイログラム)>

1回換気量	安静呼吸時に1回の呼吸で肺に出入りする量。約350~390mL。
予備吸気量	通常の吸気後さらに吸い込むことのできる空気量。平均1,900mL。
機能的残気量	安静呼吸位(息を出した状態)での肺の残気量。平均2,080mL。
肺活量	最大吸気位から最大呼気位までの肺容量の差。平均3,220mL。
残気量	最大呼気位で肺に残っている空気量。平均1,280mL。残気量は自己の筋力のみでは吐出できない。
総肺気量	肺活量と残気量の和。平均4,500mL。

【問題 7】 口腔内の感覚点で最も多いのはどれか。

- a 触覚
- b 圧覚
- c 痛覚
- d 温覚

選択肢考察 答え c

× a、× b、○ c、× d

口腔内における感覚点は、痛覚>触覚>圧覚>冷覚>温覚の順に多い。

ポイント

<口腔粘膜の感覚(二点識別閾の大きい順)>

鈍感: 頬粘膜>口蓋粘膜>口唇粘膜>舌粘膜

【問題 8】 アポトーシスで認められるのはどれか。

- a 核の崩壊
- b 細胞の膨潤
- c 遺伝子の関与
- d 細胞周囲への炎症反応

選択肢考察 答え c

× a、× b、× d これらは壊死(ネクローシス)の特徴である。

○ c アポトーシスは個体の遺伝的に制御された生理的、能動的な細胞死のことである。アポトーシスでは核の凝集、細胞の縮小・断片化がみられる。

ポイント

<ネクローシスとアポトーシス>

	壊死(ネクローシス)	アポトーシス
発生状況	集団的	散発的
細胞の形態変化	膨潤	縮小、断片化
核の変化	膨化、崩壊	凝集、断片化
細胞周囲への炎症反応	引き起こす	引き起こさない
遺伝子の関与	なし	あり
細胞内小器官	消失	保持
細胞膜の破壊	あり 内容物が外部に流出 細胞全体が完全崩壊	なし アポトーシス小胞へと分割される

【問題 9】 口腔内写真とエックス線写真(別冊午後 No.2)を別に示す。

矢印が示す歯の形態異常はどれか。

- a 癒合歯
- b 癒着歯
- c ターナーの歯
- d ハッチンソンの歯

別冊 午後 No.2 写真

選択肢考察 答え a



歯髄が融合している

- a. エックス線写真から歯髄が融合しているのがわかる。二つの歯胚が融合したものが癒合歯である。
- × b. 癒着歯とは2つの歯がセメント質だけによって結合したものである。
- × c. ターナーの歯は、乳歯の根尖病変によって後継永久歯の歯冠に生じるエナメル質減形成のことである。
- × d. ハッチンソンの歯とは、梅毒でみられる前歯の半月状欠損歯のことである。

ポイント
 <歯の発育異常>

ハッチンソンの歯	梅毒でみられる前歯の半月状欠損歯のことである。
ムーンの歯	桑実状臼歯。ハッチンソンの歯とともに梅毒に関連して生じる大臼歯の形態異常。
ターナーの歯	乳歯の根尖病変によって後継永久歯の歯冠に生じる構造異常(エナメル質減形成)。
癒合歯	歯冠の一部が歯髄腔内に陥入した形の異常。
癒着歯	二つの歯胚が融合したもの。
癒着歯	歯根の形成が終わった後に、2つの歯がセメント質だけによって結合したもの。
斑状歯 (歯のフッ素症)	フッ素の過剰摂取が原因で生じるエナメル質形成不全。

(問題 10) 軟組織内に生じる嚢胞はどれか。

- a. 歯根嚢胞
- b. 粘液嚢胞
- c. 切歯管嚢胞
- d. 術後性上顎嚢胞

選択肢考察 **答え b**

- × a. 歯根嚢胞は根尖部の肉芽組織中のマラッセの残遺上皮が感染刺激で増殖し、嚢胞を形成したものである。
- b. 粘液嚢胞は唾液腺に由来する嚢胞で、唾液腺排泄管の損傷や閉鎖による唾液の流出障害によって生じ、軟組織である下口唇に好発する。
- × c. 切歯管嚢胞は口蓋正中部の切歯管内に生じる嚢胞である。
- × d. 術後性上顎嚢胞は上顎洞炎(蓄膿症)の根治術の後、数年以上の経過を経て顎骨内の癒着組織中に生じる嚢胞である。

ポイント
 <口腔領域の嚢胞>

顎骨内に生じる嚢胞	歯根嚢胞、含歯性嚢胞、術後性上顎嚢胞、鼻口蓋管嚢胞(切歯管嚢胞)など
軟組織内に生じる嚢胞	粘液嚢胞、ガマ腫(ラヌーラ)、類皮嚢胞、類表皮嚢胞、鼻歯槽嚢胞、綿嚢胞など

(問題 11) 細菌の鉄の利用を阻害することで抗菌作用を示すのはどれか。

- a. リゾチーム
- b. ヒスタチン
- c. ラクトフェリン
- d. ペルオキシダーゼ

選択肢考察 **答え c**

- × a. リゾチームは細菌の細胞壁のペプチドグリカン分解する。
- × b. ヒスタチンは細菌が口腔内に定着するのを抑える。

- c. ラクトフェリンは鉄のキレート作用により、細菌の鉄の利用を阻害することで抗菌作用を示す。
- × d. ペルオキシダーゼは次亜塩素酸イオンやペルオキシ亜硝酸イオンを産生することで抗菌作用を示す。

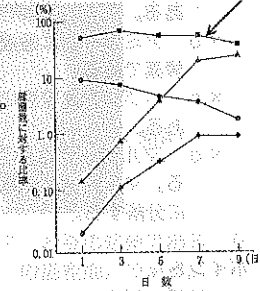
ポイント
 <ラクトフェリン>

鉄のキレート作用により、細菌の鉄の利用を阻害することで抗菌作用を示す物質である。

(問題 12) 図はブラーク細菌叢のブラーク成熟に伴う変化を示している。

矢印が示す菌の特徴はどれか。

- a. 桿菌である。
- b. グラム陰性である。
- c. 通性嫌気性である。
- d. 歯周病の原因菌が多い。



選択肢考察 **答え c**

- × a, × b. 矢印はストレプトコッカス属でグラム陽性球菌である。
- c. ストレプトコッカス属は通性嫌気性である。
- × d. 歯周病の原因菌は含まれない。ストレプトコッカス属のミュータンスレンサ球菌はう蝕の原因菌である。

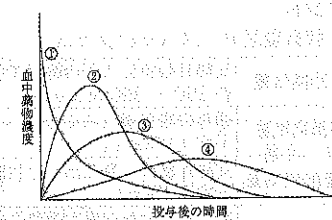
ポイント
 <ストレプトコッカス・ミュータンス>

- ・グラム陽性球菌である。
- ・う蝕の原因菌である。
- ・耐酸性である。
- ・グルコシルトランスフェラーゼをもつ。
- ・スグルコースから不溶性グルカンを産生する。

(問題 13) 筋肉内投与、経口投与、静脈内投与および皮下投与の血中薬物濃度-時間曲線を図に示す。

肝臓での初回通過効果が生じる投与方法はどれか。

- a. ①
- b. ②
- c. ③
- d. ④



選択肢考察 **答え d**

- × a. ①は静脈内注射である。
- × b. ②は筋肉内注射である。
- × c. ③は皮下注射である。
- d. ④は経口投与である。薬物が門脈経路で吸収される場合、肝臓で代謝を受ける。これを肝臓での初回通過効果という。

ポイント

- <経口投与>
- ・最も一般的な投与方法であり、胃や小腸から吸収される。
- ・吸収された後、肝臓での初回通過効果を受ける。

(問題 14) シクロフェナクナトリウムが阻害するのはどれか。

- a. コリンエステラーゼ
- b. シクロオキシゲナーゼ
- c. トランスペプチダーゼ
- d. グルコシルトランスフェラーゼ

選択肢考察 **答え b**

- × a. コリンエステラーゼはコリンエステルをコリンと有機酸に分解する酵素で、肝臓の機能を反映することから肝機能検査として用いられる。
- b. 酸性非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)の1つであるシクロフェナクナトリウムは、シクロオキシゲナーゼの活性を阻害し、プロスタグランジンの合成を抑制する。
- × c. トランスペプチダーゼはペプチド結合の一部を他のペプチドやアミノ酸と交換する反応を触媒する酵素である。
- × d. グルコシルトランスフェラーゼはスクロース(ショ糖)から不溶性グルカンを合成する酵素である。

ポイント
 <非ステロイド性抗炎症薬>

機序	シクロオキシゲナーゼの活性を阻害 →アラキドン酸からプロスタグランジンの合成抑制 →抗炎症作用、解熱・鎮痛作用
代表例	酸性非ステロイド性抗炎症薬 アスピリン、インドメタシン、メフェナム酸、シクロフェナクナトリウム、ロキソプロフェンナトリウム、ピロキシカムなど
副作用	胃腸障害、抗血小板凝集作用→出血傾向、喘息発作誘発

(問題 15) 核酸合成阻害作用を有する抗菌薬はどれか。

- a. セフェム系
- b. ペニシリン系
- c. ニューキノロン系
- d. テトラサイクリン系

選択肢考察 **答え c**

- × a, × b. セフェム系とペニシリン系はβ-ラクタム系ともよばれ、細胞壁合成阻害作用を有する。
- c. ニューキノロン系は核酸合成阻害作用を有する。
- × d. テトラサイクリン系はタンパク合成阻害作用を有する。

ポイント
 <抗菌薬の作用機序>

抗菌薬	作用機序
ペニシリン系	細胞壁合成阻害
セフェム系	
アミノグリコシド系	タンパク合成阻害
マクロライド系	
テトラサイクリン系	
クロラムフェニコール	
ニューキノロン系	核酸合成阻害

(問題 16) グルコース摂取後のデンタルプラーク中に最も多く存在する酸はどれか。

- a. ギ酸
- b. 酢酸
- c. 乳酸
- d. エタノール

選択肢考察 **答え c**

- × a, × b, × d. グルコースが供給されないと乳酸脱水素酵素が活性化されないため、ギ酸や酢酸、エタノールが産生される。
- c. グルコースが供給されるとピルビン酸から乳酸脱水素酵素により乳酸が産生される。

ポイント
 口腔レンサ球菌は解糖系で糖を分解する。

(問題 17) 口腔内のバイオフィームで正しいのはどれか。

- a. 厚さは一定である。
- b. う蝕の原因となる。
- c. 含嗽で除去できる。
- d. 頬粘膜に多く存在する。

選択肢考察 **答え b**

- × a. 口腔内のバイオフィームの厚さは一定ではない。
- b. 口腔内のバイオフィームはう蝕の原因となる。
- × c. 口腔内のバイオフィームは含嗽で除去できない。
- × d. 口腔内のバイオフィームは歯の表面に多く存在する。

ポイント
 口腔内のバイオフィームはう蝕や歯周疾患の原因となる。

(問題 18) 歯石の形成を抑制するのはどれか。

- a. ウレアーゼ
- b. スタテリン
- c. ピロリン酸
- d. ピロホスファターゼ

選択肢考察 **答え c**

- × a. ウレアーゼが尿素を分解しアンモニアが生成すると、プラーク内のpHが上昇し、リン酸カルシウム化合物が増加して自然に沈殿する。
- × b. スタテリンはカルシウム結合能が高いため、プラークに浸透して、リン酸カルシウム化合物が沈殿する。
- c. ピロリン酸は石灰化阻害物質のため、歯石の形成を抑制する。
- × d. プラーク内でピロホスファターゼ活性が作用すると、カルシウムやリン酸濃度が局所的に高くなる。

ポイント
 ・プラークは唾液と比較してカルシウムイオンとリン酸イオンが高濃度に含まれる。
 → 歯石形成や歯の再石灰化に関与する。

(問題 19) 洗口液に配合されるのはどれか。

- a 無水ケイ素
- b ソルビトール
- c アルギン酸ナトリウム
- d ピロリン酸カルシウム

選択肢考察 答え b

- × a、× d 無水ケイ素やピロリン酸カルシウムは歯磨剤に配合される研磨剤であり、洗口液には配合されない。
- b ソルビトールは洗口液に配合される湿潤剤、香味剤である。
- × c アルギン酸ナトリウムは歯磨剤に配合される粘結剤であり、洗口液には配合されない。

ポイント
洗口液には研磨剤や粘結剤は配合されない。

(問題 20) 口臭の官能検査で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 検査者 1 名で判定する。
- b 来院日を変えて複数回検査する。
- c 患者との距離は 80cm に保って評価する。
- d スクリーンを挟んで判定者と患者が向かい合う。

選択肢考察 答え b d

- × a 検査者は複数名が好ましい。
- b 口臭の官能検査は来院日を変えて複数回検査する。
- × c 患者との距離は 10～20cm に保って評価する。
- d 先入観を取り除くため、チューブを埋め込んだスクリーンを挟んで判定者と患者が向かい合う。

ポイント
<官能試験>
術者の嗅覚によるものである。

(問題 21) 学校歯科健康診断での GO に対する学校における事後措置はどれか。

- a 歯石除去
- b 歯口清掃指導
- c 歯周精密検査
- d フッ化物の応用

選択肢考察 答え b

- × a、× c 歯石除去や歯周精密検査は学校歯科健康診断での GO に対する学校における事後措置ではない。
- b 歯口清掃指導は学校歯科健康診断での GO に対する学校における事後措置である。
- × d フッ化物の応用は学校歯科健康診断での CO に対する学校における事後措置である。

ポイント
学校歯科健康診断での学校における事後措置は、学校においてとるべき事後措置を具体的に記入する。

(問題 22) フッ化物洗口のう蝕抑制効果を調べるため、フッ化物洗口を介入実施した A 小学校と実施しなかった B 小学校のう蝕発生状況を 5 年間追跡調査した。

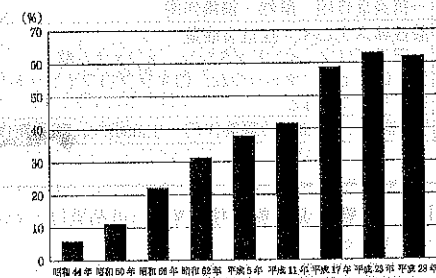
- この研究の方法はどれか。
- a 患者対照研究
- b 前向きコホート研究
- c 後ろ向きコホート研究
- d 非ランダム化比較試験

選択肢考察 答え d

- × a、× b、× c 患者対照研究やコホート研究は分析疫学である。
- d フッ化物洗口のう蝕抑制効果を調べるため、フッ化物洗口を介入実施しているため、介入研究(実験疫学)を行ったと考えられる。フッ化物洗口を介入実施した A 小学校と実施しなかった B 小学校とサンプルを非ランダムに決定している。

ポイント
<実験疫学(介入研究)>
記述疫学により設定された仮説を実験的に直接証明し、原因の作用機序を解明する。
一般にヒトを対象とするときを介入研究とよぶ。
介入研究は、研究者が調査対象者に人為的に要因を与える。
→ 要因を与える群(実験群)と与えない群(対照群)を設定して比較試験として行われる。

(問題 23) 歯科疾患実態調査の結果におけるある項目の推移を図に示す。



- この項目に該当するのはどれか。
- a 3 歳児でう歯のない者の割合
- b 1～14 歳でフッ化物塗布経験者の割合
- c 20～24 歳でう歯のない者の割合
- d 45～54 歳で 4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合

選択肢考察 答え b

- × a、○ b、× c、× d
歯科疾患実態調査の「1～14 歳でフッ化物塗布経験者の割合の年次推移」の結果である。

ポイント
<各種フッ化物応用の経験がある者の割合>
フッ化物塗布の経験のある者は 62.5%、フッ化物洗口の経験のある者は 13.4%、フッ化物配合歯磨剤使用の経験のある者は 62.3% であった。フッ化物塗布経験者の割合は前回とほぼ同様であった。

(問題 24) 母子保健法で身体機能によって定義されるのはどれか。

- a 乳児
- b 幼児
- c 新生児
- d 未熟児

選択肢考察 答え d

- × a、× b、× c 「母子保健法」で、月齢や年齢、就学年などで定義されている。
- d 「母子保健法」で、「身体の発育が未熟なまま出生した乳児で正常に発育できるまでの者」と定義されている。

ポイント
新生児：出生後 28 日を経過しない乳児
乳児：1 歳に満たない者
幼児：満 1 歳から小学校就学の始期に達するまでの者

(問題 25) 歯科口腔保健の推進に関する法律で規定されているのはどれか。

- a 医療計画
- b 口腔保健センターの設置
- c 災害時における歯科医師の派遣
- d 口腔の健康に関する調査及び研究の推進

選択肢考察 正解 d

- × a 医療計画は「医療法」で規定されている。
- × b 「歯科口腔保健の推進に関する法律」で規定されているのは、口腔保健支援センターである。
- × c 災害時における歯科医師の派遣を規定している法律はない。
- d 口腔の健康に関する調査及び研究の推進は「歯科口腔保健の推進に関する法律」で規定されている。

ポイント
<歯科口腔保健の推進に関する法律>

- ・歯科口腔保健に関する知識等の普及啓発等
- ・定期的に歯科検診を受けること等の推奨等
- ・障害者等が定期的に歯科検診を受けること等のための施策等
- ・歯科疾患の予防のための措置等
- ・口腔の健康に関する調査及び研究の推進等

(問題 26) 労働安全衛生法で規定されているのはどれか。2つ選べ。

- a 受動喫煙の防止
- b 特定健康診査の実施
- c ヘルスプロモーション
- d ストレスチェックの実施

選択肢考察 答え a d

- a 受動喫煙の防止は「健康増進法」や「労働安全衛生法」で規定されている。
- × b 特定健康診査の実施は「高齢者の医療の確保に関する法律」で規定されている。
- × c ヘルスプロモーションはパナコク憲章で提唱されている。

○ d ストレスチェックの実施は「労働安全衛生法」で規定されている。

ポイント
<労働安全衛生法>

- ・労働衛生 3 管理
- ・受動喫煙の防止
- ・特殊健康診断の実施
- ・ストレスチェックの実施
- ・トータルヘルスプロモーションなど

(問題 27) 不快指数の測定に必要なのはどれか。2つ選べ。

- a 気温
- b 気湿
- c 気流
- d 輻射熱

選択肢考察 答え a b

- a、○ b 不快指数は気流を 0 とした感覚温度のため、測定には気温と気湿が必要である。
- × c 気流は感覚温度の測定に必要なものであるが、不快指数の測定には必要がない。
- × d 輻射熱は不快指数の測定には必要がない。

ポイント
気温と気湿の測定にはアスマン通風乾湿計を用いる。

(問題 28) 手指の消毒に使用できる逆性石けんはどれか。

- a グルタルール
- b ホルムアルデヒド
- c 次亜塩素酸ナトリウム
- d ベンザルコニウム塩化物

選択肢考察 答え d

- × a、× b 医療器具の消毒に用いられるが、生体には用いられない。
- × c 医療器具や手指、皮膚、粘膜などの消毒に用いられるが、逆性石けんではない。
- d 手指や皮膚、粘膜、創傷、器具、室内の消毒に用いられる逆性石けんである。

ポイント
<界面活性剤>

- ・ベンザルコニウム塩化物、ベンゼトニウム塩化物、セチルピリジニウム塩化物

(問題 29) 我が国の公的年金の特徴はどれか。2つ選べ。

- a 現物給付
- b 公的扶助
- c 国民皆年金
- d 世帯間扶養

選択肢考察 答え c d

- × a 公的年金は現金給付(所得保障)である。
- × b 公的年金は社会保険方式である。
- c 公的年金は国民皆年金である。
- d 公的年金は世帯間扶養である。

ポイント

<公的年金の特徴>

- ・国民皆年金：国民すべてが国民年金に加入し、基礎年金給付を受ける。
- ・社会保険方式：加入者が保険料を拠出し、それに応じて年金給付を受ける。
- ・世代間扶養：現役世代の保険料負担で高齢世代の年金給付を支える。

(問題 30) 地域支援事業で包括的支援事業はどれか。2つ選べ。

- a 介護医療院
- b 訪問型サービス
- c 認知症施策の推進
- d 在宅医療・介護連携の推進

選択肢考察 答え c d

- × a 介護医療院は介護給付の施設サービスである。
- × b 訪問型サービスは地域支援事業の介護予防・日常生活支援総合事業である。
- c、○ d 認知症施策の推進や在宅医療・介護連携の推進は地域支援事業の包括的支援事業である。

ポイント

<地域支援事業の包括的支援事業>

- ・地域包括支援センターの運営
- ・在宅医療・介護連携推進事業
- ・認知症施策の推進事業
- ・生活支援体制整備事業
- ・地域ケア会議推進事業

(問題 31) パターナリズムに基づいているのはどれか。

- a 正確な病名を告げる。
- b 他の選択肢を必ず示す。
- c 決定の主体は医師である。
- d セカンドオピニオンを積極的に勧める。

選択肢考察 答え c

- × a 原則として正確な病名を告げるのは、「インフォームド・コンセント」に基づくものである。
- × b 他の選択肢を必ず示すのは、「インフォームド・コンセント」に基づくものである。
- c 決定の主体が医師なのは、「パターナリズム」に基づくものである。
- × d セカンドオピニオンを積極的に勧めるのは、「インフォームド・コンセント」に基づくものである。

ポイント

<パターナリズム(医療父権主義)>

医師・歯科医師の権威に基づいた「医師中心の医療」である。→現在は、患者の自己決定権を尊重する「患者中心の医療」に変化している。

(問題 32) 歯科衛生士法の一文中で [] に入るのはどれか。

業務に従事する歯科衛生士は、厚生労働省令で定める [] 年ごとの年の十二月三十一日現在における氏名、住所その他厚生労働省令で定める事項を、当該年の翌年一月十五日までに、その就業地の都道府県知事に届け出なければならない。

- a 二
- b 三
- c 五
- d 六

選択肢考察 答え a

- a、× b、× c、× d
- 業務に従事する歯科衛生士は、厚生労働省令で定める二年ごとの年の十二月三十一日現在における氏名、住所その他厚生労働省令で定める事項を、当該年の翌年一月十五日までに、その就業地の都道府県知事に届け出なければならない。

ポイント

<歯科衛生士法>

- ・目的：歯科疾患の予防と口腔衛生の向上
- ・歯科衛生士の守秘義務
- ・歯科衛生士業務記録の保存義務：3年間
- ・歯科衛生士の届出：2年ごとに就業地の都道府県知事に届出。

(問題 33) 誤った操作や危険な使い方ができない仕組みはどれか。

- a 多重防御機構
- b アフォーダンス
- c フールプルーフ
- d フェールセーフ

選択肢考察 答え c

- × a 多重防御機構とは、1つ目の防御機構が機能しなくても、次の防御機構で防ぐという仕組みのことである。
- × b アフォーダンスとは、適切な行為を自然に導く仕組みのことである。引き手のついた引き出しが、引けばいいことを示すように、その形・色・材質などから使い方がわかるようにする仕組みである。
- c フールプルーフとは、誤った操作や危険な使い方ができないような構造やシステムを設計段階で医療機器に組み込むことである。
- × d フェールセーフとは、医療機器を誤って操作した場合に緊急停止する安全制御システムのことである。

ポイント

ヒューマンエラー対策として、安全工学の理論・技術(多重防御機構、アフォーダンス、フールプルーフ、フェールセーフなど)を取り入れるのも効果的である。

(問題 34) 全部床義歯製作における発音機能の検査に用いるのはどれか。

- a パラトグラム
- b フェイスボウ
- c ゴシックアーチ
- d チェックバイト

選択肢考察 答え a

- a パラトグラムは発音時の舌と口蓋や歯列との接触関係を調べるもので、全部床義歯製作における発音機能の検査に用いられる。
- × b フェイスボウは頭蓋あるいは顎関節に対する上顎の位置関係の記録に用いられる。
- × c ゴシックアーチは下顎運動の記録に用いられる。
- × d チェックバイトは顎路の傾斜角度の計測に用いられる。

ポイント

<パラトグラム>

義歯の口蓋面にアルジネート印象材の粉末などを塗布した状態で発話させることで、口蓋の歯肉形態や人工歯の排列位置などを調べる。

(問題 35) むせの有無を評価に用いないのはどれか。

- a 咳テスト
- b フードテスト
- c 改訂水飲みテスト
- d 反復唾液嚥下テスト

選択肢考察 答え d

- a 咳テストはむせが起こるかどうかを評価する。
- b フードテストはむせの有無が評価に用いられる。
- c 改訂水飲みテストはむせの有無が評価に用いられる。
- × d 反復唾液嚥下テストはむせの有無を評価に用いない。

ポイント

<反復唾液嚥下テスト>

空嚥下を指示し、30秒間に何回嚥下できるかを評価するもので、甲状軟骨を触知して行う。

(問題 36) 頭部エックス線規格写真分析に用いる計測ポイントで上顎骨に存在するのはどれか。

- a A点
- b B点
- c N点
- d S点

選択肢考察 答え a

- a A点は上歯槽点と前鼻棘との間の上顎骨歯槽底部外形線上の最深点である。
- × b B点は下歯槽点とポゴニオンとの間の下顎骨歯槽底部外形線上の最深点である。
- × c N点は鼻骨前頭縫合の最前点である。
- × d S点は蝶形骨トルコ鞍の中心点である。

ポイント

<顎骨の前後的な位置の評価に用いる計測点>

- ・A点：上顎
- ・B点：下顎

(問題 37) ある患者の ABO 式血液型検査のおもて試験の結果を表に示す。

	抗A血清	抗B血清
	凝集 (-)	凝集 (+)

この患者の血液型はどれか。

- a A型
- b B型
- c AB型
- d O型

選択肢考察 答え b

- × a、○ b、× c、× d
- ABO式血液型検査のおもて試験で抗A血清に凝集せず、抗B血清に凝集するのはB型の血球である。

ポイント

<ABO式血液型検査のおもて試験>

	抗A血清	抗B血清
A型	凝集 (+)	凝集 (-)
B型	凝集 (-)	凝集 (+)
AB型	凝集 (+)	凝集 (+)
O型	凝集 (-)	凝集 (-)

(問題 38) Tooth Wear はどれか。2つ選べ。

- a う蝕
- b 咬耗症
- c 歯根吸収
- d くさび状欠損

選択肢考察 答え b d

- × a う蝕はプラークが原因で生じる疾患であるが、Tooth Wear ではない。
- b 咬耗症は咬合によって生じる Tooth Wear である。
- × c 歯根吸収は外傷などが原因で生じるが、Tooth Wear ではない。
- d くさび状欠損は不適切なブラッシングなどで生じる Tooth Wear である。

ポイント

<Tooth Wear>

- ・咬耗症
- ・摩耗症
- ・酸蝕症
- ・くさび状欠損
- ・アブフラクション

(問題 39) コンポジットレジンインレー修復の適応症はどれか。

- a 2級窩洞
- b 3級窩洞
- c 4級窩洞
- d 5級窩洞

選択肢考察

答え a

- a 白歯の隣接面における窩洞を2級窩洞という。2級窩洞はコンポジットレジンインレー修復の適応症である。
- × b × c 3級窩洞および4級窩洞は前歯部の窩洞であり、コンポジットレジンインレー修復の適応症ではない。
- × d 5級窩洞は歯冠の唇側、頬側、舌側の歯頸部1/3における窩洞であり、コンポジットレジンインレー修復の適応症ではない。

ポイント

<コンポジットレジンインレー修復>

コンポジットレジンインレー修復は白歯部に適用する修復法であり、メタルインレーと比較して審美性に優れているが、強度に劣る。合着には接着性レジメンメントを用いる必要がある。

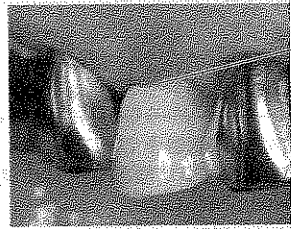
(問題 40) 70歳の男性。上顎右側第二小臼歯のブラッシング時の違和感を主訴として来院した。ブラッシング指導後にコンポジットレジン修復を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊午後No.3)を別に示す。修復に際し使用する器材はどれか。2つ選べ。

- a 歯肉圧排糸
- b エリオットセパレーター
- c サービカルマトリックス
- d タッフルマイヤーリテーナー

別冊 午後 No.3 写真

選択肢考察

答え a c



くさび状欠損

- a 歯肉圧排糸は歯頸部の修復を行う際の歯肉排除に使用される。
- × b エリオットセパレーターは歯間離開に用いる。歯頸部の修復には使用しない。
- c サービカルマトリックスは歯頸部の修復に用いるマトリックス(隔壁)である。
- × d タッフルマイヤーリテーナーは白歯部隣接面の修復時にマトリックスバンドを固定するために用いる。

ポイント

<歯頸部(5級窩洞)修復時の歯肉圧排糸に使用される器材>

- ・歯肉圧排糸
- ・ガムリトラクター
- ・ラバーダムクランプ

(問題 41) 36歳の男性。上顎右側中切歯の拍動性の自発痛を主訴として来院した。6年前に修復処置を受けたが、2年前から同様の症状が度々発現するという。初診時の口腔内写真とエックス線写真(別冊午後No.4)を別に示す。

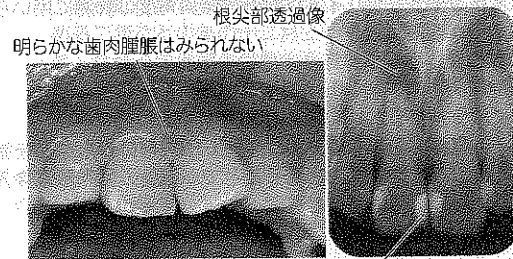
考えられるのはどれか。

- a 歯髄充血
- b 急性単純性歯髄炎
- c 急性根尖性歯周炎
- d 象牙質知覚過敏症

別冊 午後 No.4 写真

選択肢考察

答え c



根尖部透過像
明らかな歯肉腫脹はみられない

隣接面部の修復物

- × a 歯髄充血は一過性の冷水痛などがみられる。自発痛や根尖部透過像はみられない。
- × b 急性単純性歯髄炎は自発痛が生じるが、歯髄は失活しておらず、根尖部透過像は生じない。
- c 根尖部透過像がみられるため、歯髄の失活が疑われる。さらに、拍動性の自発痛が生じていることから、急性根尖性歯周炎が最も考えられる。
- × d 象牙質知覚過敏症は一過性の冷水痛などがみられる。自発痛や根尖部透過像はみられない。

ポイント

<急性歯髄炎と急性根尖性歯周炎>

どちらも自発痛などの急性症状がみられるが、歯髄炎は歯髄に生活反応がみられ、温度診や電気診に反応する。根尖性歯周炎では歯髄は失活しており、冷水痛などはみられず、歯肉の腫脹やエックス線画像で根尖部透過像などがみられる。

(問題 42) 歯髄鎮痛消炎療法に用いるのはどれか。2つ選べ。

- a ユージノール
- b ホルムクレゾール
- c フェノールカンフル
- d 水酸化カルシウム製剤

選択肢考察

答え a c

- a ユージノールは歯髄鎮痛消炎作用がある薬剤である。
- × b ホルムクレゾールはFCともいい、根管貼薬などに用いる。歯髄鎮痛消炎療法には用いない。
- c フェノールカンフルは歯髄鎮痛消炎作用がある薬剤である。
- × d 水酸化カルシウム製剤は覆髄などに用いる。歯髄鎮痛消炎療法には用いない。

ポイント

<歯髄鎮痛消炎療法に用いる薬剤>

- ・ユージノール
- ・フェノールカンフル

(問題 43) 40歳の女性。下顎右側側切歯と犬歯の歯肉退縮を主訴として来院した。歯周ポケットは全周2mmで、動揺を認めない。歯周基本治療後にある歯周外科治療を行うこととした。初診時の口腔内写真(別冊午後No.5A)とエックス線写真(別冊午後No.5B)を別に示す。

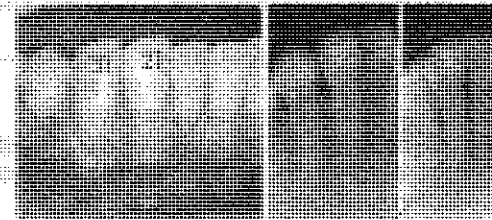
歯周外科治療で適切なのはどれか。

- a GTR法
- b 歯肉整形術
- c 歯周形成手術
- d 歯周ポケット搔爬術

別冊 午後 No.5A,B 写真

選択肢考察

答え c



× a GTR法は歯周組織再生療法であり、垂直性骨吸収を伴う深い歯周ポケットに適用する。

× b 歯肉整形術は歯肉増殖などに用いる歯周外科治療である。

○ c 歯周形成手術は歯肉退縮による審美障害などに適用する歯周外科治療である。

× d 歯周ポケット搔爬術は浅い骨縁上ポケットなどに用いる歯周外科治療である。

ポイント

<歯周形成手術の目的>

- ・角化歯肉や付着歯肉の増加
- ・歯肉退縮による審美障害の改善 など

(問題 44) 根分岐部病変に用いる処置はどれか。2つ選べ。

- a 歯根分離
- b トンネリング
- c 歯根尖切除法
- d 遊離歯肉移植術

選択肢考察

答え a b

○ a、○ b 歯根分離やトンネリングは根分岐部病変に用いられる処置である。

× c 歯根尖切除法は外科的歯内療法の一つであり、根分岐部病変に用いる処置ではない。

× d 遊離歯肉移植術は歯周形成手術であり、根分岐部病変に用いる処置ではない。

ポイント

<根分岐部病変に用いる処置>

- ・GTR法
- ・歯根分離
- ・トンネリング
- ・ルートリセクション
- ・ファークーションシンプラスティ
- ・ヘミセクション、トライセクション

(問題 45) 上下顎の歯が接触しているのはどれか。2つ選べ。

- a 下顎安静位
- b 咬頭嵌合位
- c 最大開口位
- d 中心咬合位

選択肢考察

答え b d

× a 下顎安静位は安静時の下顎位のこと。直立または正しい姿勢で腰をかけた状態で前方を直視したときの頭蓋に対する下顎の位置のことである。口唇は閉じているが、上下顎の歯の間には2~3mmの空隙がある。これを安静空隙(フリーウェイスペース)という。

○ b 上下顎歯列が安定し最も多くの部位で接触した状態である。

× c 最大開口位は下顎限界運動路の最後下方に存在し、習慣性開閉運動路上に存在する。文字どおり開口しているため、上下顎の歯は接触していない。

○ d 中心咬合位とは、形態的、機能的に正常な咬頭嵌合の状態にあるときの顎位のことである。正常者では中心咬合位と咬頭嵌合位は一致する。

ポイント

<下顎位>

中心位	下顎が上顎に対して無理なく最後方位にあり、蝶番運動のできる位置。中心位は歯ではなく顎関節で決定される顎位である。
中心咬合位	形態的、機能的に正常な咬頭嵌合の状態。正常者では咬頭嵌合位と一致。
咬頭嵌合位	上下顎歯列が安定し最も多くの部位で接触した状態。
下顎安静位	直立または正しい姿勢で腰をかけた状態で前方を直視したときの頭蓋に対する下顎の位置。口唇は閉じているが、上下顎間には安静空隙がある。

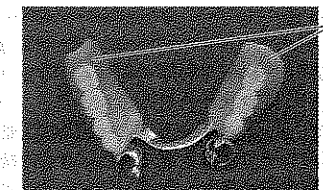
(問題 46) 義歯の写真(別冊午後No.6)を別に示す。この義歯はどれか。

- a 中間義歯
- b 複合義歯
- c 遊離端義歯
- d 歯根膜負担義歯

別冊 午後 No.6 写真

選択肢考察

答え c



両側遊離端義歯

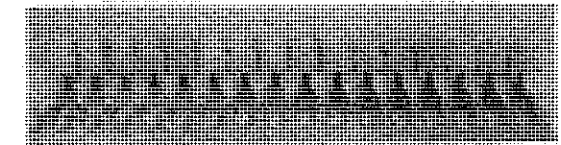
- × a 中間欠損症例で装着する義歯である。
- × b 中間義歯と遊離端義歯を1つにしたものが複合義歯である。
- c 遊離端義歯は最後方臼歯が欠損している症例で装着する義歯である。
- × d 遊離端義歯は歯根粘膜負担義歯である。補綴物に加わる咬合圧を支台歯の歯根膜と欠損部の顎堤粘膜で分担して、負担(支持)するものを歯根粘膜支持型という。

ポイント
複合義歯＝中間義歯＋遊離端義歯

- (問題 47) ある器材の写真(別冊午後 No.7)を別に示す。これを参考にして製作するのはどれか。2つ選べ。
- a 全部金属冠
 - b 3/4 クラウン
 - c 陶材焼付金属冠
 - d オールセラミッククラウン

別冊 午後 No.7 写真

選択肢考察 答え c d



- × a、× b 全部金属冠も3/4クラウンも金属のみで製作される補綴装置なので写真に示すシェードガイドは使用しない。
- c、○ d 陶材焼付金属冠、オールセラミッククラウンなどの歯冠色を含む補綴装置を製作する場合、シェードガイドを使用する。

ポイント
＜シェードガイドを使用するもの＞
コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復、ラミネードベニア修復、ポーセレンジャケット冠、オールセラミッククラウン、レジンジャケット冠、硬質レジンジャケット冠、CAD/CAM冠、陶材焼付金属冠、レジン前装冠、硬質レジン前装冠、義歯、ホワイトニング、インプラント上部構造など。

- (問題 48) インプラントの基本構造で生体活性材料が使用されるのはどれか。
- a 上部構造
 - b インプラント体
 - c アバットメント
 - d アバットメントスクリュー

選択肢考察 答え b
× a 上部構造とは補綴装置のことなので、骨との生体親和性が要求されるわけではない。
○ b インプラント体は顎骨内に埋入する部分である。この部分は所要性質として骨との生体親和性に優れている必要がある。したがって、生体活性材料(ハ

- イドロキシアパタイト、β-TCPなど)が使用されているものがある。
- × c アバットメントは支台に相当する部分なので、骨との生体親和性が要求されるわけではない。
- × d アバットメントスクリューとは、インプラント体とアバットメントを連結するものである。直接骨と接触する部分ではないので、骨との生体親和性が要求されるわけではない。

ポイント
＜インプラントの基本構造＞
①インプラント体(フィクスチャー)
②アバットメント
③アバットメントスクリュー
④上部構造

- (問題 49) 唾液腺疾患とその好発部位の組合せで正しいのはどれか。
- a ワルシン腫瘍——耳下腺
 - b 唾石症——口唇腺
 - c 腺様嚢胞癌——舌下腺
 - d 粘液瘤——顎下腺

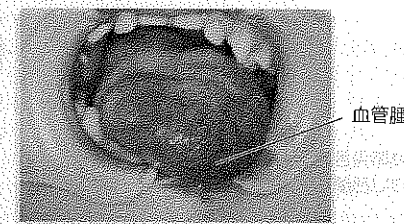
選択肢考察 答え a
○ a 耳下腺に好発する良性の唾液腺腫瘍である。
× b 唾石症は大唾液腺(おもに顎下腺)体内または導管内に結石ができたために生じる疾患である。食事摂取時に唾仙痛がみられる。
× c 腺様嚢胞癌は唾液腺にみられる悪性腫瘍である。小唾液腺や顎下腺に多い。発育は緩慢で、神経浸潤が強いため、疼痛や顔面神経麻痺を伴うことがある。
× d 粘液瘤は粘液貯留嚢胞ともよばれる。小唾液腺の導管が外傷や炎症により閉塞し、粘膜下組織に粘液(唾液)が貯留したものである。下口唇(口唇腺)や舌下面や頬粘膜に好発する。

ポイント
＜ワルシン腫瘍＞
・耳下腺に多い良性の唾液腺腫瘍である。
・男性に多い。
・耳下腺の腫脹がみられる。

- (問題 50) 7歳の女児。舌の形態異常を主訴として来院した。2週間前に舌の変色に気付いたという。弾性軟の腫瘤を認め、ガラス圧診法により病変部の退色が認められた。口腔内写真(別冊午後 No.8)を別に示す。考えられるのはどれか。
- a 脂肪腫
 - b 線維腫
 - c 乳頭腫
 - d 血管腫

別冊 午後 No.8 写真

選択肢考察 答え d



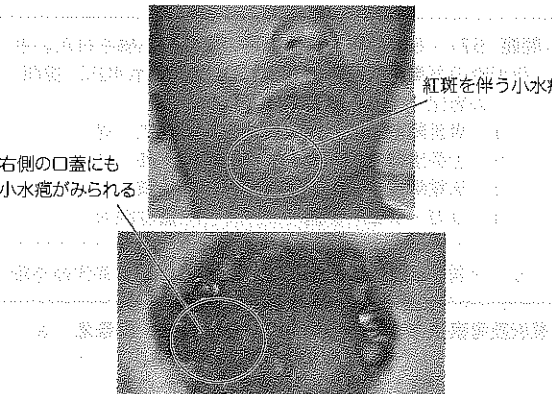
- × a 脂肪腫は良性の脂肪組織の増殖性病変で、頬粘膜、舌、口腔底にみられる。
- × b 線維腫は良性の線維性結合組織の増殖性病変で、膠原線維と線維芽細胞からなる。舌、粘膜、歯肉移行部などにみられる。
- × c 乳頭腫は乳頭状、有蒂状増殖物で、粘膜色あるいは白色の上皮性良性腫瘍である。舌、口蓋、粘膜、歯肉にみられる。
- d ガラス圧診法により病変部の退色が認められたことから血管腫と考えられる。血管組織からなる良性腫瘍で過誤腫も多い。舌、頬粘膜、口唇などにみられる。

ポイント
＜血管腫＞
・暗紫色を呈することが多い。圧迫すると退色する(ガラス圧診法)。
・舌、頬粘膜、口唇などにみられる。
・治療法には、外科的切除、梱包療法、凍結外科、レーザー治療などがある。

- (問題 51) 30歳の男性。右側顔面と口腔内の疼痛を主訴として来院した。1週間前から右側顔面の熱感と疼痛を自覚するようになり、次第に増悪したという。顔面写真と口腔内写真(別冊午後 No.9)を別に示す。考えられる疾患はどれか。
- a 帯状疱疹
 - b 扁平苔癬
 - c カンジダ症
 - d ヘルパンギーナ

別冊 午後 No.9 写真

選択肢考察 答え a



○ a 帯状疱疹は水痘=帯状疱疹ウイルス(VZV)による感染が原因で、口唇、歯肉、舌、頬粘膜に小水疱がみられる。顔面写真のように、三叉神経支配領域の口腔外にも小水疱や痂皮がみられる。神経痛様疼痛を伴うことが多い。

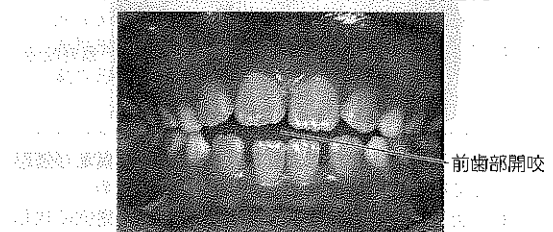
- × b 扁平苔癬は中高年の女性に多く、頬粘膜に接触痛を伴う白斑がみられる。原因不明で難治性である。
- × c 口腔カンジダ症は体力の低下した人やエイズ患者に発症する。原因は真菌(カンジダ・アルビカンス)による感染である。舌、口蓋、頬粘膜に生じる。
- × d ヘルパンギーナはコクサッキーウイルスA4による感染が原因で、幼児に多い。症状としては、発熱、咽頭炎、咽頭部における多数の小水疱の形成、嚥下痛などがみられる。

ポイント
＜小水疱を生じる粘膜疾患＞
単純疱疹、帯状疱疹、ヘルパンギーナ、手足口病など。

- (問題 52) 8歳の女児。前歯で物が噛み切れないことを主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊午後 No.10)を別に示す。疑われる習癖はどれか。2つ選べ。
- a 吸指癖
 - b 咬唇癖
 - c 咬爪癖
 - d 弄舌癖

別冊 午後 No.10 写真

選択肢考察 答え a d



- a 吸指癖では開咬や上顎前突、上顎歯列弓の狭窄などがみられる。
- × b 咬唇癖では下唇が多く、上顎前歯の唇側傾斜や下顎前歯の舌側傾斜が生じる。
- × c 咬爪癖では正中離開や叢生などがみられる。
- d 弄舌癖では上下顎前歯部の唇側傾斜や開咬がみられる。本症例では最も疑われる。

ポイント
＜弄舌癖＞
弄舌癖では前歯部開咬が生じやすく、異常嚥下癖を伴うことが多い。

- (問題 53) 器械的矯正装置はどれか。2つ選べ。
- a ヘッドギア
 - b バイオネーター
 - c アクチバートル
 - d リンガルアーチ

選択肢考察 答え a d
○ a ヘッドギアはゴムの力を利用した器械的矯正装置である。
× b バイオネーターは機能的矯正装置である。

×c アクチバトールは機能的矯正装置である。
 ○d リンガルアーチは弾線の力を利用した器械的矯正装置である。

ポイント

<矯正力の種類による矯正装置の分類>

- ・器械的矯正装置：器械的な力を利用した装置
- ・機能的矯正装置：咀嚼筋など口腔周囲筋の機能力を利用するあるいは筋の力を排除する装置

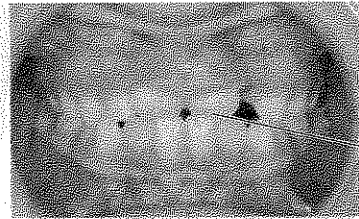
(問題 54) 8歳の女児。前歯の咬み合わせがずれていることを主訴として来院した。検査の結果、顎骨の異常はないが上顎前歯の舌側傾斜がみられた。初診時の口腔内写真(別冊午後 No.11)を別に示す。

- 適切な治療方針として考えられるのはどれか。
- a 外科的矯正治療
 - b 上顎骨の前方誘導
 - c 下顎骨の成長抑制
 - d 上顎前歯の唇側移動

別冊 午後 No.11 写真

選択肢考察

答え d



反対咬合

- ×a 外科的矯正治療は顎骨成長後に顎骨の異常が残存している症例に検討する。
- ×b 上顎骨の前方誘導は上顎骨の劣成長の症例に対して行う。
- ×c 下顎骨の成長抑制は下顎骨の過成長の症例に対して行う。
- d 上顎前歯の舌側傾斜による反対咬合であり、上顎前歯の唇側移動は適切な治療方針である。

ポイント

<反対咬合の原因>

歯の異常：上顎前歯の舌側傾斜や下顎前歯の唇側傾斜
 骨格の異常：上顎骨の劣成長や下顎骨の過成長
 機能性の異常：早期接触など

(問題 55) 6歳児の口腔内写真(別冊午後 No.12)を別に示す。

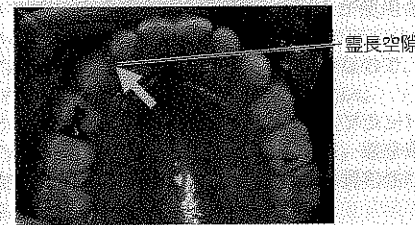
矢印で示すのはどれか。

- a 安静空隙
- b 顎間空隙
- c 発育空隙
- d 霊長空隙

別冊 午後 No.12 写真

選択肢考察

答え d



霊長空隙

- ×a 安静空隙は、下顎安静位における上下顎間の空隙である。
- ×b 顎間空隙は、IA期の上下顎顎堤間にみられる空隙である。
- ×c 発育空隙は、乳歯列にみられる霊長空隙以外の生理的的空隙である。
- d 霊長空隙は、上顎乳側切歯と乳犬歯との間にみられる空隙である。

ポイント

<霊長空隙のみられる部位>

- ・上顎：乳側切歯と乳犬歯の間
- ・下顎：乳犬歯と第一乳臼歯の間

(問題 56) Scammonの臓器発育曲線で扁桃の発育が属するのはどれか。

- a 一般系型
- b 神経系型
- c リンパ系型
- d 生殖器系型

選択肢考察

答え c

- ×a、×b、○c、×d
- 扁桃の発育はScammonの臓器発育曲線のリンパ系型に属する。

ポイント

<Scammonの臓器発育曲線>

- 神経系型：脳、脊髄など
- 一般系型：筋、顎骨など
- リンパ系型：扁桃、胸腺など
- 生殖器系型：精巣、子宮など

(問題 57) 5歳の男児。舌小帯の異常を指摘された。舌突出時の写真(別冊午後 No.13)を別に示す。

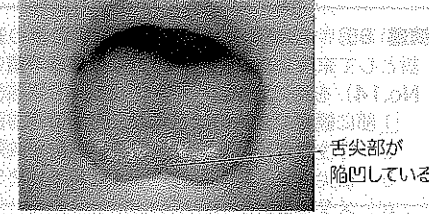
この患児で考えられるのはどれか。

- a 構音障害
- b 舌突出癖
- c 味覚障害
- d リガ・フェーデ病

別冊 午後 No.13 写真

選択肢考察

答え a



舌尖部が陥凹している

- a 舌突出時の舌の形態から舌小帯強直症であると考えられるため、構音障害があることが疑われる。
- ×b 舌小帯強直症と舌突出癖は関連がない。
- ×c 舌小帯強直症と味覚障害は関連がない。
- ×d リガ・フェーデ病は先天歯が原因で舌下部に生じる潰瘍であり、本症例では考えられない。

ポイント

<舌小帯強直症>

構音障害や摂食・嚥下障害などが生じやすい。

(問題 58) 歯髓の加齢変化で正しいのはどれか。

- a 歯髓腔の拡大
- b 歯の内部吸収
- c 歯髓の石灰変性
- d 歯髓ポリープの形成

選択肢考察

答え c

- ×a 加齢に伴い歯髓が線維化し、生理的的第二象牙質が形成されるため、歯髓腔は狭窄する。
- ×b 歯の内部吸収は加齢変化ではなく、病的変化である。
- c 加齢に伴い歯根部歯髓の結合組織や血管、神経線維は歯の長軸方向に束状に集合し、歯髓組織には線維化を生じている。このような部位に、しばしば硝子変性や石灰変性が認められる。
- ×d 歯髓ポリープの形成は加齢変化ではなく、病的変化である。

ポイント

<歯髓の加齢変化>

歯髓細胞の数の減少や萎縮に加え、細胞間隙の拡大により細胞突起が連絡し合って網様構造を呈する(網様萎縮)。

(問題 59) サルコペニアの診断基準に含まれるのはどれか。

- a 握力
- b 身長
- c 体重
- d 体脂肪量

選択肢考察

答え a

- a サルコペニアの診断基準には、握力や歩行速度、筋肉量(二重エックス線吸収測定法や生体電気インピーダンス法)の測定が含まれる。
- ×b サルコペニアの診断基準に身長は含まれない。
- ×c、×d 体重や体脂肪量は栄養評価の指標であり、サルコペニアの診断基準には含まれない。

ポイント

<加齢性筋減弱症候群(サルコペニア)の診断基準>

- ・握力
- ・歩行速度
- ・筋肉量の測定

(問題 60) うつ病で正しいのはどれか。

- a 多弁である。
- b 体重増加がみられる。
- c 物事への興味が減退する。
- d 高齢者では気分の落ち込みが目立つ。

選択肢考察

答え c

- ×a うつ病患者は多弁ではないため、症状がわかりにくいことが多い。
- ×b うつ病では食欲不振に伴う体重減少がみられる。
- c うつ病は抑うつ気分や興味減退がみられる。
- ×d 高齢者のうつ病では、典型的な症状を示す患者が1/3~1/4しかいないといわれており、通常の診断基準のみでは見落とされてしまう可能性がある。中でも、気分の落ち込みは目立たないといわれている。

ポイント

<うつ病>

主症状は、抑うつ気分、思考・行動の制止(意欲の減退、集中力の低下など)、自律神経症状(不眠、特に早朝覚醒)で、妄想がみられることもある(罪業妄想、心気妄想)。身体症状としては体重減少がみられる。典型例では、抑うつ気分は朝に最も強いという日内変動がみられる。

(問題 61) 催奇形性因子でないのはどれか。

- a 喫煙
- b 梅毒
- c 肥満
- d 風疹

選択肢考察

答え c

- a、○b、○d 喫煙や梅毒、風疹は催奇形性因子である。
- ×c 肥満は催奇形性因子ではない。

ポイント

<催奇形性因子>

風疹、トキソプラズマ感染、梅毒、喫煙、アルコール、放射線、サリドマイドなど

(問題 62) 自閉スペクトラム症の特徴で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 抽象的に思考できる。
- b 反響言語を使用する。
- c 協調的な行動が得意である。
- d 儀式的な行動様式がみられる。

選択肢考察

答え b d

- ×a 自閉スペクトラム症では抽象的に思考することはできない。
- b 自閉スペクトラム症は即座のオウム返しなどの反響言語を使用する。

- × c 自閉スペクトラム症は協調的な行動が苦手である。
- d 自閉スペクトラム症では言語・非言語上の儀式的な行動様式がみられる。

ポイント

<Aspergar 障害>
知的能力障害のない自閉スペクトラム症である。Aspergar 障害では、言語の発達や理解には問題はみられないが、社会性の発達に問題がみられる。

【問題 63】 歯科予防処置の内容で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 小窩裂溝う蝕のある患者へのレジジン修復
- b 歯面に白濁のある患者へのフッ化物歯面塗布
- c 根分岐部病変のある患者への歯肉縁下歯石の除去
- d 健康な遊離歯肉溝のある患者への歯肉縁上歯石の除去

選択肢考察 答え b d

- × a 小窩裂溝う蝕のある患者へのレジジン修復はう蝕治療であり、歯科予防処置ではない。
- b 歯面に白濁のある患者へのフッ化物歯面塗布は歯科予防処置である。
- × c 根分岐部病変のある患者への歯肉縁下歯石の除去は歯周治療であり、歯科予防処置ではない。
- d 健康な遊離歯肉溝のある患者への歯肉縁上歯石の除去は歯科予防処置である。

ポイント

<歯科予防処置>
・歯面や正常な歯肉の遊離縁下の付着物・沈着物（プラークや歯石など）を機械的に除去すること
・歯面および口腔に対して薬物を塗布すること

【問題 64】 歯周病が影響を及ぼすのはどれか。2つ選べ。

- a 糖尿病
- b 白血病
- c 高血圧症
- d 誤嚥性肺炎

選択肢考察 答え a d

- a 歯周病は糖尿病に影響を及ぼし、糖尿病のコントロールを困難にしている。
- × b 白血病は歯周病に影響されない。ただし、白血病は易感染性となり、歯周病に影響を及ぼす。
- × c 高血圧症は歯周病に影響されない。ただし、高血圧症に対する薬剤（カルシウム拮抗薬）は歯肉増殖を誘発する。
- d 咳反射の低下などによる誤嚥性肺炎は、歯周病などの口腔内細菌が気管内に侵入することで生じるため、歯周病は誤嚥性肺炎に影響を及ぼすといえる。

ポイント

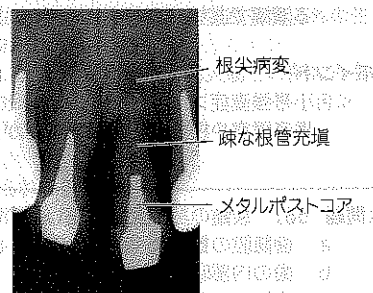
<歯周病と糖尿病>
糖尿病は歯周病を増悪するリスクファクターであり、一方で、歯周病は糖尿病のコントロールを困難にする因子である。

【問題 65】 40歳の女性。上顎左側中切歯の違和感を主訴として来院した。初診時のエックス線写真（別冊午後 No.14）を別に示す。

- 1)部に観察できるのはどれか。2つ選べ。
- a 骨性癒着
 - b 根尖病変
 - c メタルコア
 - d 逆根管充填材

別冊 午後 No.14 写真

選択肢考察 答え b c



- × a 歯根膜腔が観察でき、骨性癒着を生じていないことがわかる。
- b 根尖部に透過像を認め、根尖病変である。
- c 根管内に不透透性が高いメタルポストコアの存在が確認できる。
- × d 根管内に根管充填材は観察できるが、逆根管充填材はみられない。

ポイント

<エックス線写真で観察できるもの>
・透過像：歯髓腔、歯根膜腔、う蝕、歯槽骨吸収、歯根嚢胞など
・不透透像：歯質、歯槽骨、根管充填材、修復・補綴物など

【問題 66】 歯周病の検査はどれか。2つ選べ。

- a BOP
- b 顎機能検査
- c 唾液潜血検査
- d グルコースクリアランス

選択肢考察 答え a c

- a BOPはプロービング時の出血のことであり、歯周病の検査である。
- × b 顎機能検査は下顎の運動などを検査するものであり、歯周病の検査ではない。
- c 唾液潜血検査は歯周病のスクリーニングに用いられる検査である。
- × d グルコースクリアランスはう蝕活動性試験として用いられる検査である。

ポイント

<歯周病の検査>
・唾液潜血検査
・プロービング
・歯の動揺度検査
・付着歯肉幅の測定 など

【問題 67】 ポケットプロービングで判断できるのはどれか。2つ選べ。

- a 動揺度
- b 歯根面の陥凹
- c 根尖性歯周炎の有無
- d アタッチメントレベル

選択肢考察 答え b d

- × a 動揺度は動揺度検査で判断するものである。ポケットプロービングでは判断できない。
- b 歯根面の陥凹はポケットプロービングで判断できる。
- × c 根尖性歯周炎の有無はポケットプロービングで判断できない。歯髓の生死やエックス線画像などで判断する。
- d アタッチメントレベルはポケットプロービングで判断できる。

ポイント

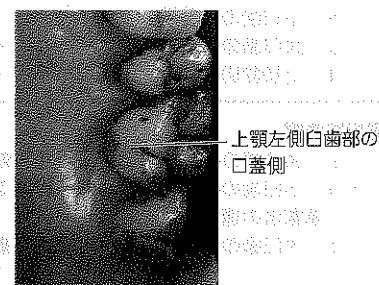
<ポケットプロービングにより得られる情報>
・BOP
・歯根の形態
・ポケットの深さ、形態
・アタッチメントレベル
・分岐部病変の有無・程度
・歯肉縁下歯石の有無、程度

【問題 68】 60歳の男性。歯肉の違和感を主訴として来院した。口腔清掃指導に続いてグレータイブキュレットを用いてスクーリングを行うことになった。初診時の口腔内写真（別冊午後 No.15）を別に示す。写真で示す部位の処置に適するのはどれか。

- a #7 #11 #14
- b #7 #12 #13
- c #8 #11 #14
- d #8 #12 #13

別冊 午後 No.15 写真

選択肢考察 答え d



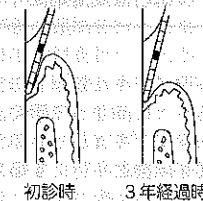
- × a、× b、× c、○ d 口腔内写真からスクーリングを行う部位は上顎左側白歯部の口蓋側であると判断できるので、#8、#12、#13を選択する。#8は中央部、#12は近心部、#13は遠心部に用いる。

ポイント

<上顎白歯部のスクーリング>
・白歯部頬舌側面は#7/8、白歯部近心面は#11/12、

- ・白歯部遠心面は#13/14が用いられる。
- ・上顎左側白歯部の口蓋側および上顎右側白歯部の頬側は#8、#12、#13が用いられる。
- ・上顎左側白歯部の頬側および上顎右側白歯部の口蓋側は#7、#11、#14が用いられる。

【問題 69】 初診時および3年経過時のポケットプロービング時の模式図を示す。プローブの目盛りは1mmである。



- 3年間の変化で正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 3mmの歯肉退縮
 - b 2mmのポケット深化
 - c 1mmのアタッチメントロス
 - d 1mmのアタッチメントゲイン

選択肢考察 答え a c

- a セメントエナメル境を基準として歯肉辺縁の位置を比較すると、3年間で3mmの歯肉退縮が生じたことと判断できる。
- × b プローブの目盛りから、3年間でポケットが2mm浅くなっている。
- c、× d アタッチメントレベルはセメントエナメル境からポケット底までの距離であり、初診時のアタッチメントレベルは5mm、3年経過時のアタッチメントレベルは6mmと増加している。したがって、1mmのアタッチメントロスが生じたこととなる。

ポイント

<アタッチメントロスとアタッチメントロス>
ある一定の期間においてアタッチメントレベルが増加することをアタッチメントロス、減少することをアタッチメントゲインという。

【問題 70】 超音波スクーラーによるスクーリングで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 吸引装置を併用する。
- × b 歯肉縁下には使用しない。
- c 接触圧は20～25gである。
- × d キャビテーション効果が生じる。

選択肢考察 答え a d

- a 超音波スクーラーは注水下で使用するため、吸引装置を併用する。
- × b 超音波スクーラーは歯肉縁下に使用できる。
- × c 接触圧は40～80gである。
- d 超音波スクーラーはキャビテーション効果が生じ、歯石やプラークを効率的に洗い流すことができる。

ポイント

<超音波スクーラーによるスクーリング>
注水の水や患者の血液、唾液などがエアロゾルとなって空気中に浮遊するため、ガード付きマスク、防護

メガネ、パキユームなどを用いて感染予防の対策をとるのが望ましい。

(問題 71) グレーシータイプキュレットのシャープニングで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ヒールからトゥに向かって研ぐ。
b 第1シャンクを床面と垂直にする。
c 形態修正にはセラミック砥石を用いる。
d インディアナ砥石は潤滑剤にオイルを用いる。

選択肢考察 答え a d

- a グレーシータイプキュレットのシャープニングはヒールからトゥに向かって研ぐ。
b グレーシータイプキュレットのシャープニングでは、刃部内面を床面と平行にするため、第1シャンクは11時の方向となる。
c セラミック砥石は仕上げに用いられる。
d インディアナ砥石は潤滑剤にオイルを用いる。

ポイント

<グレーシータイプキュレットのシャープニング>
グレーシータイプキュレットは刃部内面と第1シャンクとが垂直でないため、シャープニング時の第1シャンクと砥石の方向は、第1シャンクは11時、砥石は1時の方向となる。

(問題 72) SPTのリコール間隔の決定で重要なのはどれか。2つ選べ。

- a 性別
b 喫煙の有無
c 胃潰瘍の既往
d 口腔清掃状態

選択肢考察 答え b d

- a 性別はSPTのリコール間隔の決定で重要とはいえない。
b 喫煙は歯周病の増悪因子であるため、SPTのリコール間隔の決定で重要である。
c 胃潰瘍の既往はSPTのリコール間隔の決定で重要とはいえない。
d 口腔清掃状態が悪いと歯周病が増悪しやすいため、SPTのリコール間隔の決定で重要である。

ポイント

<SPTのリコール間隔の決定>
歯周病の進行度や口腔清掃状態、患者の意識、歯周病に関連する全身疾患や悪習癖の有無などを考慮してリコール間隔を決定するとよい。

(問題 73) 口腔活動性試験で酸産生能を評価するのはどれか。2つ選べ。

- a RDテスト
b スワップテスト
c カリオスタット
d Dentbuff-STRIP

選択肢考察 答え b c

- a RDテストは唾液中のレサズリン還元性菌の活

- 性(総菌数)を評価している。
b スワップテストはプラーク中細菌の酸産生能を評価している。
c カリオスタットはプラーク中細菌の酸産生能を評価している。
d Dentbuff-STRIPは唾液緩衝能を評価している。

ポイント

<酸産生能を評価する口腔活動性試験>
・スワップテスト：検体はプラーク
・カリオスタット：検体はプラーク
・スナイダーテスト：検体は唾液

(問題 74) 重曹粉末噴射歯面清掃器による歯面清掃について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 小さな円を描くように操作する。
b 術直後に飲食物を摂取してよい。
c ノズルを切縁側から歯肉側へ向ける。
d 高ナトリウム血症の患者への使用を避ける。

選択肢考察 答え a d

- a 歯面清掃器による歯面清掃では、小さな円を描くように操作する。
b 術後は歯面に若干の凹凸ができるため、2~3時間は着色作用の強い飲食物などの摂取を控えるように指導する。
c 歯面清掃器のノズルは歯肉側から切縁側へ向ける。歯肉方向に向けて噴射しない。
d 重曹粉末噴射歯面清掃器は、ナトリウム摂取制限中の高ナトリウム血症の患者には使用を避ける。

ポイント

<重曹粉末噴射歯面清掃器>
重曹(炭酸水素ナトリウム)パウダーを使用するため、高ナトリウム血症や妊娠高血圧症などナトリウム摂取制限を行っている患者や、重度の呼吸器系疾患患者には使用を避ける。

(問題 75) 小窩裂溝充填法の適応はどれか。2つ選べ。

- a 癒合歯の裂溝
b 小臼歯の根面溝
c 大臼歯の歯冠破折
d 上顎側切歯の舌側小窩

選択肢考察 答え a d

- a 癒合歯の裂溝は小窩裂溝充填法の適応である。
b 小臼歯の根面溝は根面の陥凹部であり、小窩裂溝充填法の適応ではない。
c 大臼歯の歯冠破折は小窩裂溝充填法の適応ではない。
d 上顎側切歯の舌側小窩は小窩裂溝充填法の適応である。

ポイント

<小窩裂溝充填法の適応>
・癒合歯の裂溝
・臼歯頰側面の小窩
・上顎側切歯の舌側小窩
・臼歯咬合面の深い小窩裂溝

(問題 76) スケーリング後に歯肉が退縮し一過性の冷水痛を訴えている。自発痛はない。

- 適切な対応はどれか。
a 鎮痛剤の投与
b ブラッシングの中断
c ルートプレーニング
d フッ化ナトリウムの塗布

選択肢考察 答え d

- a 象牙質知覚過敏症に鎮痛剤の投与は行わない。
b ブラッシングにより唾液中のミネラルが歯面に沈着することで象牙質知覚過敏症が軽減されやすい。ブラッシングを中断することは適切とはいえない。
c 象牙質知覚過敏症が生じており、ルートプレーニングは適切とはいえない。
d 歯肉が退縮して一過性冷水痛があることから、根面露出による象牙質知覚過敏症が生じたと考えられる。フッ化ナトリウムなどのフッ化物塗布を行うのは適切である。

ポイント

<象牙質知覚過敏症>
くさび状欠損や歯肉退縮による根面露出、スケーリング・ルートプレーニング時の歯質の過剰切削などが原因で生じる。

(問題 77) リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液塗布で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 塗布後10分は飲食を避けさせる。
b フッ化物塗布後に歯面清掃を行う。
c フッ素濃度9,000ppmのフッ化物を用いる。
d フッ化物溶液をプラスチック容器に準備する。

選択肢考察 答え c d

- a 塗布後30分はうがいや飲食を避けるように注意する。
b フッ化物歯面塗布を行う前に歯面清掃を行っておく。
c リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液にはフッ素濃度9,000ppmの2%フッ化ナトリウムが用いられている。
d フッ化物はガラス容器を侵蝕しやすいため、プラスチック容器に準備するとよい。

ポイント

<フッ化物歯面塗布に用いられるフッ化物>
・8%フッ化第一スズ溶液
・2%フッ化ナトリウム溶液
・リン酸酸性フッ化ナトリウムゲル
・リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液

(問題 78) 児童福祉法に規定されているのはどれか。

- a 育成医療
b 小児医療
c 養育医療
d 療育医療

選択肢考察 答え d

- a 育成医療は自立支援医療に含まれるため、「障害者総合支援法」に規定されている。
b 小児医療は医療計画の5事業に含まれるため、「医療法」に規定されている。
c 養育医療は「母子保健法」に規定されている。
d 療育医療は「児童福祉法」に規定されている。

ポイント

<療育の給付>
・都道府県は、結核にかかっている児童に対し、療養に併せて学習の援助を行うため、これを病院に入院させて療育の給付を行うことができる。
・療育の給付は、医療ならびに学習および療養生活に必要な物品の支給とする。
・医療は、次に掲げる給付とする。
診察、薬剤または治療材料の支給、医学的処置・手術およびそのほかの治療ならびに施術、病院または診療所への入院およびその療養に伴う世話そのほかの看護、移送。

(問題 79) ヘルスプロモーションの取組みで正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 医療保険制度の導入
b ウォーキングコースの整備
c 予防接種による免疫の付与
d 健康サービスのあり方の改善

選択肢考察 答え b d

- a 必要な医療サービスを受けられるように保障する制度であり、ヘルスプロモーションには含まれない。
b ウォーキングコースの整備など健康を支援する環境を整備することはヘルスプロモーションの取組みである。
c 予防接種による特異的予防は一次予防に該当し、ヘルスプロモーションには含まれない。
d 健康サービスのあり方の改善はヘルスプロモーション活動の一環である。

ポイント

<ヘルスプロモーションを実現するための5項目>
・公共の健康政策を整備する
・健康を支援する環境を整備する
・地域での健康増進活動を強化する
・健康管理に対する個人の意識や技術・能力を向上させる
・健康サービスのあり方を見直す

(問題 80) 幼児へのガラガラうがい指導で適切なのはどれか。

- a 2歳児から開始する。
b 模倣による練習が効果的である。
c ブクブクうがい指導に先立ち行う。
d 口腔内を清潔に保つために有効である。

選択肢考察 答え b

- a 2歳児にはガラガラうがいは指導しない。
b 模倣は生活動作や社会的行動を育てるときに用いられる方法で、効果的である。
c ガラガラうがいはブクブクうがいができるようになってから指導する。

×d 口腔内を清潔に保つために有効なのはブクブクうがいであり、ガラガラうがいは喉を清潔に保つために有効である。

ポイント
 <うがいのできる年齢>
 ・ブクブクうがい(口の洗浄)
 健康児では、3歳児で約50%、4歳児では約75%ができるようになる。
 ・ガラガラうがい(のどの洗浄)
 ガラガラうがいは、鼻咽腔を閉鎖し、誤嚥や嘔下反射が起こらないように呼吸を利用して行うため、ブクブクうがいに比べて難しい動作といえる。健康児では、3歳児で約25%、4歳児で約50%、5歳児で約75%ができるようになる。

(問題 81) 3歳児の口腔内写真(別冊午後No.16)を別に示す。
 3歳児歯科健康診査のう蝕罹患型で該当するのはどれか。
 a A型
 b B型
 c C1型
 d C2型

別冊 午後 No.16 写真

選択肢考察 答え d



全歯にう蝕 E D CとD Eにう蝕
 ×a 上顎前歯部のみ、または白歯部のみにう蝕がある者である。
 ×b 白歯部および上顎前歯部にう蝕がある者である。
 ×c 下顎前歯部のみにう蝕がある者である。
 ○d 下顎前歯部を含むほかの部位にう蝕がある者である。本例はこれに該当する。

ポイント
 <3歳児歯科健康診査のう蝕罹患型>

O型	う蝕がない
A型	白歯部のみ、または上顎前歯部のみにう蝕がある。
B型	白歯部および上顎前歯部にう蝕がある。
C1型	下顎前歯部のみにう蝕がある。
C2型	下顎前歯部およびほかの部位にう蝕がある。

(問題 82) オーバーデンチャーの清掃に適しているのはどれか。2つ選べ。
 a 義歯用ブラシ
 b クラスプブラシ
 c スポンジブラシ
 d 酵素系義歯洗浄剤

選択肢考察 答え a d

○a オーバーデンチャーに付着したデンチャーブラークの除去には、義歯用ブラシが効果的である。
 ×b オーバーデンチャーにはクラスプがないため、クラスプブラシを用いる必要がない。
 ×c スポンジブラシは口腔粘膜の清掃に用いる補助的清掃用具であり、義歯の清掃には用いない。
 ○d 酵素系義歯洗浄剤はオーバーデンチャーの清掃に適している。

ポイント
 <義歯洗浄剤>
 消毒を主体とする次亜塩素酸・過酸化合物配合系義歯洗浄剤とデンチャーブラークの分解を主体とする酵素系義歯洗浄剤がある。

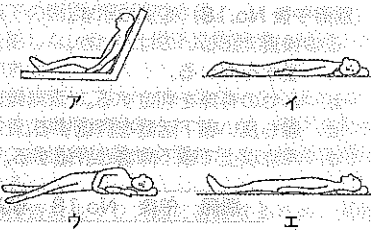
(問題 83) 86歳の女性。1日中ベッド上で過ごしており、食事や排泄において介助を必要とする。自力で寝返りをうつことはできる。
 日常生活自立度のランクはどれか。
 a A-2
 b B-2
 c C-2
 d J-2

選択肢考察 答え c
 ×a 屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
 ×b 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。介助により車いすに移乗する。
 ○c 1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替えにおいて介助を要する。自力では寝返りもうたない。
 ×d 何らかの障害などを有するが、日常生活はほぼ自立しており自力で外出する。隣近所へなら外出する。

ポイント
 <障害者の日常生活自立度判定基準>

生活自立	ランクJ	何らかの障害などを有するが、日常生活はほぼ自立しており自力で外出する 1. 交通機関などを利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
准寝たきり	ランクA	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランクB	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ 1. 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車いすに移乗する
	ランクC	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

(問題 84) 体位の図を示す。
 ファウラー位はどれか。
 a ア
 b イ
 c ウ
 d エ



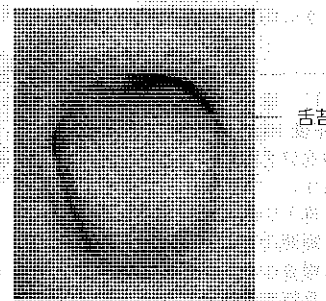
選択肢考察 答え a
 ○a アはファウラー位である。ファウラー位(半座位)は上半身を40°~60°に起こした状態である。
 ×b イは伏臥位である。
 ×c ウは横臥位である。片麻痺の患者に対して用いる体位である。
 ×d エは仰臥位である。

ポイント
 口腔ケアを行うときの基本体位は座位であるが、対象者によってはファウラー位(半座位)やセミファウラー位を用いる。

(問題 85) 38歳の女性。口臭を主訴として来院した。LearyのPCRは5%、う蝕や歯周炎は認めない。全身状態に問題はない。初診時の口腔内写真(別冊午後No.17)を別に示す。
 高濃度に検出されるのはどれか。
 a アセトン
 b 硫化水素
 c メチルメルカプタン
 d ジメチルサルファイド

別冊 午後 No.17 写真

選択肢考察 答え b



×a 糖尿病では全身由来の病的口臭としてアセトンが検出される。
 ○b 口腔内写真では舌苔がみられるため、口腔由来の口臭症と考えられる。口腔由来の口臭症では歯周病罹患の有無にかかわらず硫化水素が高濃度に検出される。
 ×c、×d 歯周病による口臭症では硫化水素のほかにメチルメルカプタンやジメチルサルファイドが検出されるが、歯周炎は認めないため考えにくい。

ポイント
 <口臭の原因となる揮発性硫黄化合物(VSC)>
 ・硫化水素
 ・メチルメルカプタン
 ・ジメチルサルファイド

(問題 86) 認知機能の評価スケールはどれか。
 a BI (Barthel Index)
 b FIM (Functional Independence Measure)
 c MMSE (Mini-Mental State Examination)
 d MNA (Mini-Nutritional Assessment)

選択肢考察 答え c
 ×a BIはADL (Activities of Daily Living) の評価法である。食事、移乗、整容、トイレ、入浴、歩行、階段昇降、更衣、排便、排尿の10項目を評価する。「できる」ADLを評価する。
 ×b FIMはADLの評価法である。実際に「している」ADLを評価することで、介助量の測定が可能である。
 ○c MMSEは認知機能の評価スケールである。認知症のスクリーニングを目的とする。
 ×d MNA (簡易栄養状態評価法)は高齢者の栄養スクリーニングを目的とする。

ポイント
 <高齢者の栄養スクリーニング検査>
 ・主観的包括的評価法 (SGA)
 ・簡易栄養状態評価法 (MNA)

(問題 87) 生体内でコレステロールから合成されるのはどれか。
 a 胆汁酸
 b ヒスタミン
 c メラトニン
 d アドレナリン

選択肢考察 答え a
 ○a 脂質は中性脂肪(トリグリセリド)とコレステロールから構成され、中性脂肪は脂肪酸とグリセロールから構成される。胆汁酸はコレステロールから合成される。
 ×b ヒスタミンはヒスチジンの脱カルボキシル反応により合成される生体アミンである。
 ×c メラトニンはトリプトファンの脱カルボキシル反応により合成される生体アミンである。
 ×d アドレナリンはフェニルアラニンの脱カルボキシル反応により合成される生体アミンである。

ポイント
 <胆汁酸>
 ・肝臓で合成され、胆汁中に分泌される。
 ・食物中の脂肪を乳化し、消化・吸収を助ける。

(問題 88) プロトロンビンの生合成に關与するのはどれか。

- a ビタミンA
- b ビタミンD
- c ビタミンE
- d ビタミンK

選択肢考察 **答え d**

- × a, × c ビタミンAやビタミンEは脂溶性ビタミンの1つであるが、グラタンパク質の生合成には關与しない。
- × b ビタミンDは脂溶性ビタミンの1つで、カルシウム代謝に關与するが、グラタンパク質の生合成には關与しない。
- d プロトロンビンはグラタンパク質の1つである。ビタミンKは脂溶性ビタミンの1つで、グラタンパク質の生合成に關与する。

ポイント

- <ビタミンKの役割>
 - ・血液凝固因子(II、VII、IX、X)の生合成
 - ・骨グラタンパク質(オステオカルシン)の生合成

(問題 89) 73歳の男性。気道防御能の低下がみられるため訪問歯科診療による精査の依頼があった。訪問時に必要な機器はどれか。2つ選べ。

- a 咬合紙
- b 聴診器
- c 気管チューブ
- d 超音波ネブライザー

選択肢考察 **答え b d**

- × a 気道防御能の評価に咬合紙は必要ない。
- b 頸部聴診法は安静時の呼吸音、嚥下後の呼吸音、嚥下時の嚥下音を頸部から聴診する方法であり、気道防御能を評価することができる。頸部聴診法を行うためには聴診器が必要である。
- × c 気管チューブは気管切開時に用いるものであり、気道防御能の評価に必要ない。
- d 咳テストはムセのない誤嚥(不顕性誤嚥)を評価する方法であり、気道防御能を評価することができる。咳テストを行うためには超音波ネブライザーが必要である。

ポイント

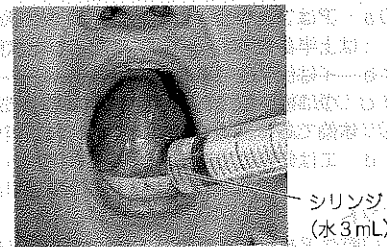
- <気道防御能を評価できる検査>
 - ・咳テスト
 - ・頸部聴診法
 - ・嚥下造影検査
 - ・嚥下内視鏡検査 など

(問題 90) 75歳の男性。食事摂取の困難を主訴として来院した。嚥下機能を評価するために行った検査の写真(別冊午後No.18)を別に示す。

- この検査で正しいのはどれか。
- a 温水を用いる。
 - b ムセの有無を判定する。
 - c 最も良い嚥下活動を評価する。
 - d 4点以上で嚥下障害と評価する。

別冊 午後 No.18 写真

選択肢考察 **答え b**



改訂水飲みテスト (MWST)

- × a 改訂水飲みテストでは冷水3mLを口腔底に注ぎ、嚥下するように指示する。
- b 写真で行っている嚥下機能を評価するために行った検査は改訂水飲みテスト(MWST)である。改訂水飲みテストでは嚥回数やムセの有無で異常を判定する。
- × c 改訂水飲みテストでは最も悪い嚥下活動を評価する。
- × d 改訂水飲みテストでは4点以上で問題ないと評価する。

ポイント

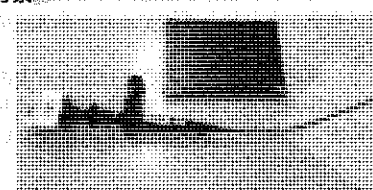
- <改訂水飲みテスト(MWST)>
 - 冷水3mLを患者の口腔底に注ぎ嚥下してもらう。可能であれば追加して2回嚥下運動をしてもらい、最も悪い嚥下活動を評価する。評価は5段階で4点以上のときに問題ないと評価し、直接訓練開始可能とする。

(問題 91) 嚥下機能を評価するために用いる器具の写真(別冊午後No.19)を別に示す。

- この器具を用いる検査と比較した嚥下造影検査の利点は何か。
- a 嚥下の瞬間が評価できる。
 - b 唾液の誤嚥が観察できる。
 - c 検査の場所が限定されない。
 - d 長時間の観察に適している。

別冊 午後 No.19 写真

選択肢考察 **答え a**



ファイバースコープ

○ a 写真の器具はファイバースコープのため行う嚥下機能を評価する検査は嚥下内視鏡検査である。嚥下内視鏡検査は嚥下の瞬間が評価できないが、嚥下造影検査は嚥下の瞬間が評価できる。

- × b 唾液を造影しないため、嚥下造影検査は唾液の誤嚥が観察できない。
- × c 嚥下内視鏡検査はファイバースコープがあれば行えるため検査の場所が限定されないが、嚥下造影検査はエックス線透視装置が必要なため、検査の場所が限定される。
- × d 嚥下造影検査はエックス線に被曝するため、長時間の観察には適していない。

ポイント

<嚥下造影検査と嚥下内視鏡検査の比較>

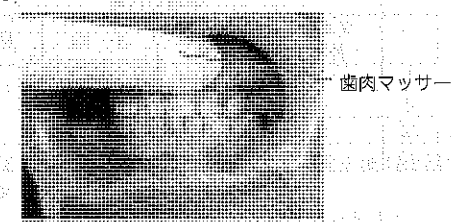
	嚥下造影検査	嚥下内視鏡検査
画像	透視像	直接画像
検査場所	エックス線透視装置の設置施設	制限が少ない
検査食	バリウム	制限なし
エックス線被曝	ある	ない
食塊の流れ	口腔から食道、胃までの食塊の流れ	上咽頭から下咽頭、喉頭までの食塊の流れ 嚥下反射時は評価不能

(問題 92) 75歳の男性。食物が飲み込めないことを主訴として来院した。実施した摂食嚥下機能訓練時の写真(別冊午後No.20)を別に示す。

- この訓練法で正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 食事前に2回実施する。
 - b 指をリズムカルに動かす。
 - c 5秒に1往復程度の速さで行う。
 - d 臼歯部から前歯部に向かってこする。

別冊 午後 No.20 写真

選択肢考察 **答え a b**



歯肉マッサージ

- a 写真で実施している摂食嚥下機能訓練はガムラビング(歯肉マッサージ)である。ガムラビングは食事前に2~3回実施することが推奨されている。
- b ガムラビングは歯と歯肉の境目を指腹で圧をかけながらリズムカルにこする手技である。
- × c ガムラビングでは指をすばやく1秒間に2往復程度の速さで行う。
- × d ガムラビングでは前歯部から臼歯部に向かってこする。

ポイント

- <ガムラビング>
 - ・嚥下促進訓練の1つである。
 - 唾液嚥下を利用した間接訓練の1つである。
 - ・唾液の分泌を促し、嚥下反射を誘発させる。

(問題 93) 高齢者の脱水状態を把握するのに有用な検査項目はどれか。

- a 下腿周囲長
- b 血清アルブミン値
- c ヘマトクリット値
- d 上腕三頭筋皮下脂肪厚

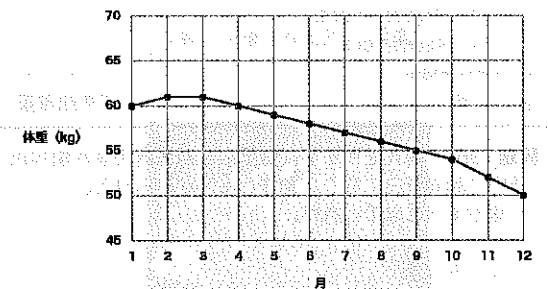
選択肢考察 **答え c**

- × a 下腿周囲長が31cm以下では低栄養状態を疑うが、脱水状態は評価していない。
- × b 血清アルブミン値が3.5g/dl以下では低栄養状態を疑うが、脱水状態は評価していない。
- c 高齢者の脱水状態を把握するのに有用な検査項目はヘマトクリット値である。
- × d 上腕三頭筋皮下脂肪厚により低栄養状態を評価するが、脱水状態は評価していない。

ポイント

- ヘマトクリット値は血液中に赤血球が占める割合(%)で、脱水により赤血球濃度が高くなるとヘマトクリット値は上昇する。

(問題 94) 89歳の女性。食事量が減ったことを主訴として訪問歯科診療の依頼があった。9か月前から食事の摂取量が著しく減少しているという。BMIは17.0であった。ミールラウンドでは、食事開始5分後に疲れて食事ペースが落ちてきていた。過去の1年間の体重変化を図に示す。



適切な対応はどれか。

- a 一口量を増やす。
- b 胃瘻造設を勧める。
- c 1回の食事時間を長くする。
- d 少量高カロリー食に変更する。

選択肢考察 **答え d**

- × a 食事開始5分後に疲れて食事ペースが落ちているため、一口量を増やすとさらに疲れやすくなると考えられる。
- × b 経口摂取が可能のため、胃瘻造設する必要はない。
- × c 食事開始5分後に疲れて食事ペースが落ちているため、1回の食事時間を長くすることは適切でない。1日3食を数10分かけることは好ましくない。
- d 9か月前から食事の摂取量が著しく減少しており、BMIが17.0(18.5未満)のため低体重である。ミールラウンド(食事観察)では食事中に疲れて食事ペースが落ちている。6か月前の体重は約58kgに対して現体重が約50kgで、6か月で約8kg(10%以上)減少しているため、低栄養状態と考えられる。

食事開始5分後に疲れて食事ペースが落ちていたため、5分間で必要エネルギー量が補給できるように、少量高カロリーの食事に変更する。

ポイント

<食事ペースが落ちてきた患者への対応>

- ・ベising訓練を行う。
・間食で必要栄養量を補う。
・栄養補助食品の摂取を勧める。
・少量高カロリーの食事に変更する。

(問題 95) 問題指向型医療記録(POMR)におけるSOAPのOに該当する事項として正しいのはどれか。

- a. 帰宅後の生活指導計画
b. 患者の痛みスケールの得点
c. 患者の主観的な症状や訴え
d. 歯科医師による分析・評価

選択肢考察

答え b

- × a. 生活指導計画はP (Plan) に該当する。
○ b. 患者の痛みスケールの得点はO (Objective data) に該当する。
× c. 患者の訴えはS (Subjective data) に該当する。
× d. 歯科医師による分析・評価はA (Assesment) に該当する。

ポイント

<問題指向型医療記録(POMR)におけるSOAP>

- ・S: Subjective data
・O: Objective data
・A: Assesment
・P: Plan

(問題 96) 朝食を摂らずに受診した糖尿病患者が歯科治療中に顔面蒼白になり、動悸と冷汗がみられた。

補給すべきなのはどれか。

- a. 水
b. 牛乳
c. トマトジュース
d. スポーツ飲料水

選択肢考察

答え d

- × a、× b、× c、○ d
糖尿病患者が十分な食事をせずにインスリンや経口血糖降下薬を使用すると低血糖状態をきたす可能性がある。顔面蒼白になり、動悸と冷汗がみられたことから低血糖状態と考えられるので、糖質を補給すべきである。選択肢の中では、スポーツ飲料水が糖質を多く含んでいる。

ポイント

<歯科治療の注意点>

易感染性、創傷治癒遅延、歯科治療によるストレスによる血糖値の変化、歯科疾患による摂食障害によるコントロール不良などに注意を必要とする。

Table with 2 columns: 昏睡 (Coma) and 少しの侵襲でも低血糖状態に陥り昏睡状態になる可能性がある。 (Even a slight invasion can lead to hypoglycemia and a state of unconsciousness. It is necessary to confirm the use of antidiabetic drugs during dental treatment and avoid the time period immediately before meals.)

Table with 2 columns: 局所麻酔薬の使用 (Local anesthetic use) and 易感染性 創傷治癒遅延 (Easy infection, delayed wound healing). Includes text about adrenaline's effect on blood sugar and the need for antibiotic prophylaxis.

(問題 97) 硬組織の切削に用いられるのはどれか。

- a. 半導体レーザー
b. Er:YAGレーザー
c. アルゴンレーザー
d. Nd:YAGレーザー

選択肢考察

答え b

- × a. 半導体レーザーの用途は軟組織切開、知覚過敏緩和、止血、凝固、咬合面う蝕の検査である。
○ b. Er:YAGレーザーの用途は硬組織切削(窩洞形成)、歯石除去、軟組織切開、根面の消毒である。
× c. アルゴンレーザーの用途は歯の漂白(ホワイトニング)である。
× d. Nd:YAGレーザーの用途は軟組織切開、軟化象牙質除去である。

ポイント

<歯科用レーザー>

Table with 2 columns: Laser type (Er:YAG, Nd:YAG, Semiconductor, CO2, Argon) and Application (Hard tissue cutting, root disinfection, soft tissue cutting, anesthesia, etc.).

(問題 98) 消毒薬の適応を表に示す。

Table with 5 columns: Disinfectant (Glutaraldehyde, Sodium hypochlorite), Target (Metal instruments, Non-metal instruments, Fingers, Mucous membranes), and Effectiveness (Effective/Not effective).

グルタルアルデヒドはどれか。

- a. ① b. ② c. ③ d. ④

選択肢考察

答え a

- a. ①はグルタルアルデヒドである。
× b. ②は次亜塩素酸ナトリウムである。
× c. ③はポビドンヨードである。
× d. ④はクロロヘキシジンあるいは消毒用エタノールである。

ポイント

<消毒薬の適応>

Table with 5 columns: Disinfectant (Glutaraldehyde, Sodium hypochlorite), Concentration, and Target (Metal instruments, Non-metal instruments, Fingers, Skin).

Table with 6 columns: Disinfectant (Ethanol, Povidone-iodine, Chlorhexidine, etc.), Concentration, and Effectiveness (Effective/Not effective).

(問題 99) セメントスパチュラと練板の写真(別冊午後 No.21)を別に示す。

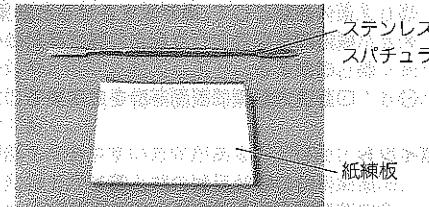
これらを用いて練和するのはどれか。

- a. リン酸亜鉛セメント
b. グラスアイオノマーセメント
c. ポリカルボキシレートセメント
d. 酸化亜鉛ユーージノールセメント

別冊 午後 No.21 写真

選択肢考察

答え d



- × a. リン酸亜鉛セメントはガラス練板とステンレスパチュラで練和する。
× b. グラスアイオノマーセメントは紙練板とプラスチックパチュラで練和する。
× c. ポリカルボキシレートセメントは紙練板とプラスチックパチュラで練和する。
○ d. 酸化亜鉛ユーージノールセメントは紙練板とステンレスパチュラで練和する。

ポイント

<各種セメントにおける練板とスパチュラの組合せ>

Table with 3 columns: Cement type, Mixing board, and Spatula.

(問題 100) 歯科用ワックスの写真(別冊午後 No.22)を別に示す。

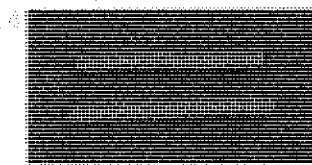
この用途はどれか。2つ選べ。

- a. 咬合採得
b. ろう堤の作製
c. 印象用トレーの修正
d. 印象採得時のブロックアウト

別冊 午後 No.22 写真

選択肢考察

答え c d



ユーティリティーワックス

× a、× b. パラフィンワックスは、咬合堤(ろう堤+基礎床)の作製、咬合採得、人工歯排列時などに使用する。

○ c、○ d. ユーティリティーワックスはトレーの辺縁修正、印象採得時のアンダーカット部(鼓形空隙やポンティック基底面など)のブロックアウト、ボクシングなどに使用する。

ポイント

<歯科用ワックスの種類と用途>

Table with 2 columns: Wax type (Paraffin, Utility, Bite, etc.) and Application (Occlusal registration, waxing, etc.).

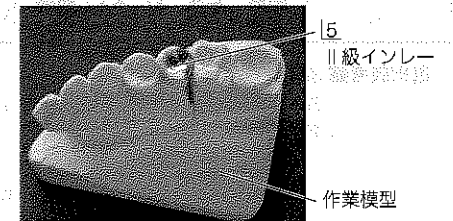
(問題 101) 修復物の写真(別冊午後 No.23)を別に示す。調整、合着時に準備するのはどれか。2つ選べ。

- a. デンタルフロス
b. コンタクトゲージ
c. ポジショニングゲージ
d. ダイヤモンドポイント

別冊 午後 No.23 写真

選択肢考察

答え a b



- a. デンタルフロスで隣在歯との接触状態を診査し、セメント硬化後の余剰セメントの除去にも使用する。
○ b、× c. ポジショニングゲージではなく、コンタクトゲージで隣在歯との接触状態を診査する。
× d. ダイヤモンドポイントは支台歯形成時に準備する。

ポイント

<2級メタルインレーの合着時に準備器具・器材>

- ①咬合紙、咬合紙ホルダー ⑨インレーセッター
②コンタクトゲージ ⑩デンタルフロス
③カーボランダムポイント ⑪エキスカベーター
④シリコンポイント ⑫クラウンリムーバー
⑤合着用セメント ⑬鹿皮ホイール
⑥練板 ⑭ルージュ
⑦スパチュラ ⑮ペーパーコーン
⑧オートマチックマレット

(問題102) 電気抵抗値(インピーダンス)を利用して判断できるのはどれか。2つ選べ。

- a 根管長
- b 歯髄の生死
- c 根管壁の穿孔の有無
- d 根管内の細菌の有無

選択肢考察 答え a c

- a 根管長測定器は口腔粘膜と歯根膜との電気抵抗値が一定であることを利用している。したがって、電気抵抗値(インピーダンス)測定で根管長が判断できる。
- × b 歯髄の生死の診断は電気歯髄診断器で行う。電気刺激を歯髄に与えて、健康な対照歯との閾値と比較して歯髄の生死を判定する。
- c 根管長測定器を用いると、髄床底や根管壁の穿孔の有無が判断できる。
- × d 細菌培養試験で根管内の細菌の有無が判断できる。

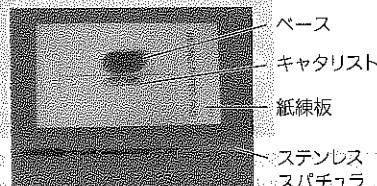
ポイント <電気抵抗値(インピーダンス)測定によって判定できるもの> 腐蝕の深さ、露髄の有無、根管長、髄床底や根管壁の穿孔の有無

(問題103) 歯周外科治療に用いる器材の写真(別冊午後 No.24)を別に示す。

- 正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 創部を乾燥させて貼付する。
- b 練和したものは乾いた手指で取扱う。
- c 練和すると約3分後に最終硬化する。
- d 歯間部に頬舌的に押込んで創部に固定する。

別冊 午後 No.24 写真

選択肢考察 答え ad



ベース
キャタリスト
紙練板
ステンレス
スパチュラ

非ユージノール系の歯周バックのベースとキャタリスト

- a 創部を濡らしてしまうと、創部に歯周バックが付着しない。創部を乾燥させてから使用する。
- × b 歯周バックは粘着性があるので、練和したものは乾いた手指で取扱うと手指に付着してしまう。したがって、手指を水で濡らしたり、ワセリンなどを塗ってから取扱う。
- × c 最終硬化時間は約30分である。
- d 歯間部に頬舌的に押込んで創部に固定する。

ポイント <非ユージノール系の歯周バックの使用法>

- ①紙練板の上にベースとキャタリストを等長取り出す。
- ②均一の色調となるようにスパチュラで30~45秒間練和する。
- ③練和した歯周バックはグローブを装着した手指を水で濡らして取扱う。棒状に成形して、頬側用と舌側用に2本準備する。

- ④創部を乾燥させ、歯周バックを貼付する。
- ⑥歯間部に頬舌的に押込んで創部に固定する。最終硬化時間は約30分である。
- ⑥術後、約1週間で歯周バックを除去する。

(問題104) 嘔吐反射が強い患者の上下顎概形印象採得で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 水平位で印象する。
- b 鼻呼吸をするように促す。
- c 上顎を先に印象採得する。
- d 口蓋粘膜への表面麻酔を行う。

選択肢考察 答え b d

- × a 水平位の場合、咽頭部に印象材が流れやすいので、座位にすると効果的である。
- b 上体を起こして、鼻呼吸をさせると効果的である。
- × c 概形印象採得を行う場合、嘔吐反射の少ない下顎から印象する。
- d 口蓋後方粘膜に表面麻酔を応用することがある。

ポイント <印象採得時の嘔吐反射の防止策>

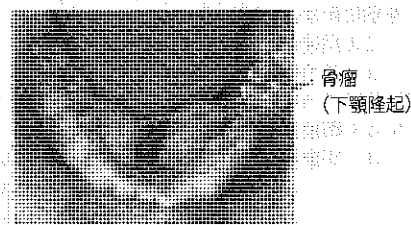
- ①口蓋粘膜への表面麻酔を行う。
- ②嘔吐反射の少ない下顎から印象する。
- ③印象材を硬く練和し、トレーに盛る量も少なくする。
- ④患者さんと会話し、リラックスさせる。
- ⑤頭部を前屈させる。
- ⑥座位で印象採得する。
- ⑦上体を起こして、鼻呼吸をさせる。

(問題105) 65歳の男性。下顎小臼歯部舌側の骨膨隆を気にして来院した。口腔内写真(別冊午後 No.25)を別に示す。

- 骨腫除去手術で使用するのどれか。2つ選べ。
- a 挺子
- b 持針器
- c 破骨鉗子
- d ドレーン

別冊 午後 No.25 写真

選択肢考察 答え b c



骨腫
(下顎隆起)

- × a 抜歯しないので挺子(エレベーター)は必要ない。
- b 持針器などの縫合器具一式は使用する。
- c 骨削除のため破骨鉗子を使用する。
- × d ドレーンは切開・排膿の際に用いる。

ポイント <歯槽骨整形および骨腫除去手術の際に準備する器具>

- ①基本セット
- ②局所麻酔器具一式
- ③メス
- ④骨膜剥離子、粘膜剥離子
- ⑤破骨鉗子
- ⑥骨バー、ラウンドバー
- ⑦骨ヤスリ、骨ノミ
- ⑧マイセル、マレット
- ⑨縫合器具一式

(問題106) 歯科治療時における脳性麻痺患者への対応で適切なのはどれか。

- a 膝を伸展させる。
- b 腕を屈曲させる。
- c 頭部を後屈させる。
- d アイマスクを付ける。

選択肢考察 答え b

- × a、○ b 脳性麻痺は非進行性の運動機能異常を伴うため体勢が制約されてしまう。そのため、膝や腕を無理に伸展させると不随運動を誘発するので、屈曲させておく。
- × c 頭部も向きやすい方向があるので後屈させると患者に負担をかける。
- × d 脳性麻痺患者でも TSD 法が有効な場合もあるのでアイマスクを付けると不安や恐怖を抱かせる。

ポイント <脳性麻痺患者の歯科的対応>

- ・体勢に制約される。
- ・無理に伸展させると過緊張を増強させる。

(問題107) 非協力児を隔離する方法はどれか。

- a 静脈内鎮静法
- b タイムアウト法
- c Tell Show Do 法
- d Hand Over Mouth 法

選択肢考察 答え b

- × a 歯科治療に不安と恐怖を示している成人の場合は、静脈内鎮静法を用いる。
- b タイムアウト法とは、小児が極度に非協力的であり、攻撃的行動や破壊的行動をとった場合、隔離された場所にしばらくの間入れておく方法である。
- × c Tell Show Do 法とは不安と恐怖の刺激の弱いものから順次に強い刺激へ段階的に繰り返して与えていき、不安および恐怖の反応を克服させようとする系統脱感作法の1つである。
- × d Hand Over Mouth 法は、号泣する小児の口を手で覆い、術者の指示を守ったら、手で口を覆うのを中止しながらコントロールする方法である。4歳前後の非協力児に適用される。

ポイント タイムアウト法は3歳以上の非協力児に用いられる。

(問題108) 5歳の自閉症児への対応で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 絵カードを利用する。
- b 理解できるまで話す。
- c ゼスチャーで説明する。
- d ゆっくり大きな声で話す。

選択肢考察 答え a c

- a 絵を上手に描いたり、途方もない記憶力を示したりすることがある。絵カードを利用するのは有効である。
- × b 意思疎通は難しいので、時間をかけても理解させることは困難である。
- c ゼスチャーで説明するのは有効である。
- × d ゆっくり大きな声で話しても、対話が成立しない。

ポイント <自閉症>

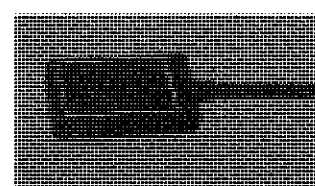
- ①中枢神経系の微細な機能的・器質的な障害から起こる知覚や認知の障害、その発達の障害がみられる。
- ②顔貌、口腔内などは健常人と変わらない。
- ③自閉症の3徴：視線を合わせない、問いかけにおも返し、一定の行動様式(儀式化)。
- ④行動特徴：周囲からの極端な孤立、言語発達の遅れ(=対話が成立しない)、強迫的な同一行動の保持、ある物事への極端な興味。
- ⑤てんかん：脳波異常、けいれん、異常咬耗。
- ⑥対応のしかた：絵カード、写真などを利用する、ゼスチャーで説明する。

(問題109) 歯科用デジタルエックス線撮影システムのセンサーの写真(別冊午後 No.26)を別に示す。

- このシステムについて正しいのはどれか。2つ選べ。
- a 撮影直後に画像が表示される。
- b IP(イメージングプレート)方式である。
- c センサーの大きさはフィルムより小さい。
- d レーザー光で情報を電気信号に変換する。

別冊 午後 No.26 写真

選択肢考察 答え a c



CCDセンサー

- a 歯科用デジタルエックス線撮影システムには、CCD方式とIP方式がある。写真はCCDセンサーである。CCD方式は検出器とパソコンが直結しているため、撮影直後に画像が描出される。
- × b IP方式ではなく、CCD方式である。
- c センサーの大きさはフィルムより小さいが、厚くて、硬い。
- × d レーザー光を用いるのはIP方式である。

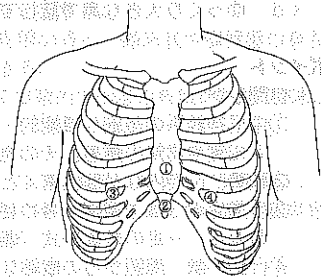
ポイント

<CCD方式とIP方式の違い>

	CCD方式 (荷電結合素子)	IP方式 (輝尽性蛍光体)
即時性 (撮影直後に画像表示可能)	○	× (スキャナーが必要)
装着がパソコンに直結	○	×
センサーの厚さ	厚い	薄い
センサーの大きさ (フィルムに比べて)	小さい	同じ
センサーの硬さ	硬い	軟らかい

(問題 110) 図は胸部の骨格を示す。
胸骨圧迫における圧迫点はどこか。

- a: ①
- b: ②
- c: ③
- d: ④



選択肢考察

答え a
○a、×b、×c、×d
胸骨圧迫では、患者を固いものの上に仰臥させる。術者は両手を重ね合わせて患者の胸骨の下半分の部位(①)に置き、垂直方向に1分間100~120回の割合で、胸骨が約5cm陥凹する程度に押す。剣状突起(③)を圧迫しないように注意しなければならない。

ポイント

<心肺蘇生>

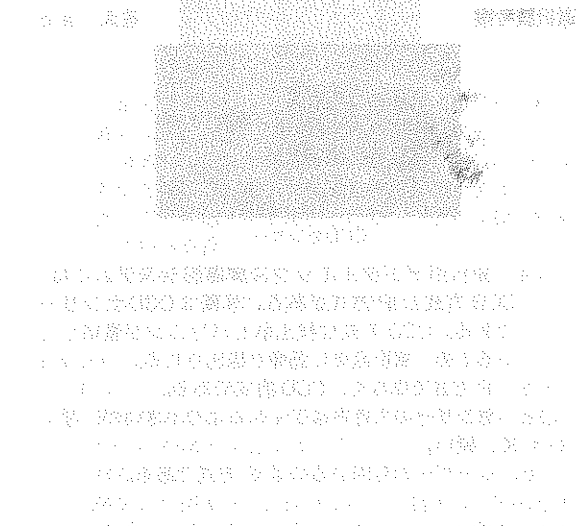
- 呼吸がない場合、ただちに胸骨圧迫を開始する。
- 強く(約5cm)
- 速く(100~120回/分)
- 絶え間なく(中断を最小にする)

胸骨圧迫は、心肺蘇生の重要な要素の一つである。適切な深さと速度で行うことが、生存率を向上させる。また、胸骨骨折のリスクを減らすために、硬い床やボードを使用することが推奨されている。

胸骨圧迫の深さは、約5cmである。これは、胸骨を陥凹させることで、血液を心臓に送り出す効果がある。また、圧迫の速度は、1分間に100回以上行う必要がある。中断を最小にするように注意し、継続的に実施することが重要である。

胸骨圧迫の位置は、胸骨の下半分に当たる。剣状突起を避けるように注意し、正確な位置に両手を重ねて行う。また、圧迫の際には、患者の頭部を固定し、体位を安定させる必要がある。

胸骨圧迫の効果を高めるためには、適切な深さと速度での実施が不可欠である。また、圧迫の間には、呼吸を再開させる努力を怠らな。最新のガイドラインに基づき、継続的な圧迫と人工呼吸の組み合わせが、生存率を向上させる鍵となる。



図は胸骨圧迫の正しい実施方法を示している。

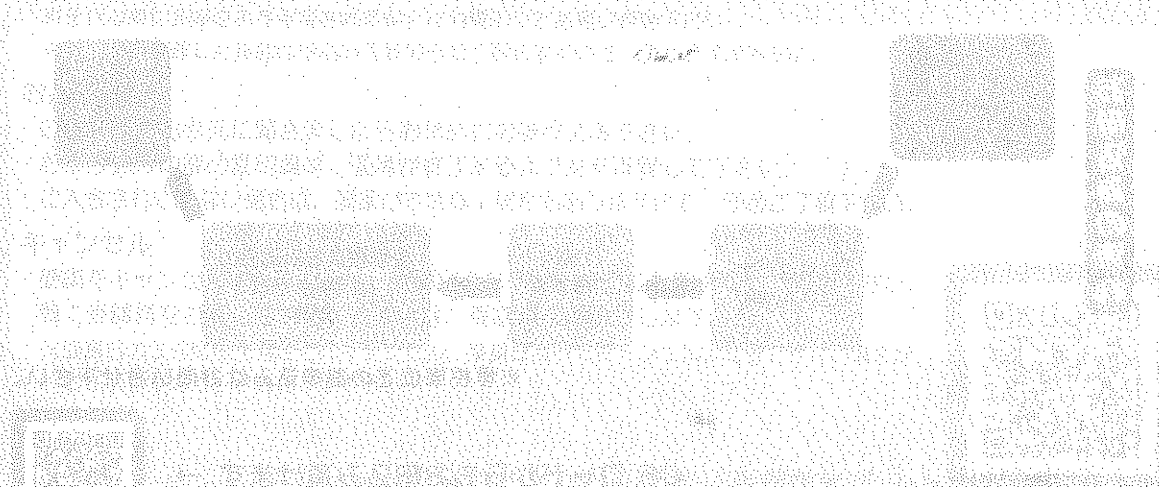
聖徳医校

看護士養成所 看護学校 看護専門学校

2020年(日) 4月23日(土) 8時30分~9時30分	元	大
2020年(日) 4月23日(土) 9時30分~10時30分	大	大
2020年2月2日(日) 15時~16時	大	大
2020年2月15日(日) 8時~9時	大	大

9:00~17:30 00:00~00:30
入会費(入会費) 10,000円(税込) 100円

本校は、看護士養成所、看護学校、看護専門学校を併設し、実践的な教育を行っています。最新の設備と経験豊富な教員陣が、学生の成長をサポートしています。



本校の看護士養成所、看護学校、看護専門学校の建物です。